

部落ノ中ニ於テモ今尙獨一至上ノ生ケル眞神ヲ記憶シ之ヲ
 崇拜スルモノアリ有名ナル亞弗利加洲ノ地理探索者リビン
 グストン氏ハ極メテ下等ナル内地蠻族ノ有様ヲ述ベテ曰ク
 獨一眞神ノ存在スルヲ又人間ニ未來ノ世アルヲノ如キハ此
 蠻族等ノ既ニ已ニ知ル所ニシテ更ニ之ヲ教ユルヲ要セズ此
 蠻族ノ間ニハ神ハ巧ニ此等ノ物ヲ造レリト云ヒ彼ノ人ハ病
 ノ爲ニ死セルニアラズ神ニヨツテ死セルナリナト云フハ普
 通ノ談話ナリト北亞米利加ノ土人ノ如キモ亦偶像信者ニハ
 アラズシテ大靈ナルモノヲ崇拜ス大靈トハ土人ノ信ヲテ全
 能ナル万物ノ主治者ナリトスル所ノモノナリメーヒウハ十
 八世紀ノ頃ニユー、イングラントノ土人中ニ奔走シタル有名
 ノ傳教師ナルガ氏ガ土人ノ改宗ト題スル實錄ニナルマール
 ノ一土人ガ妻ノ事ヲ記スルアリ此婦人ハ五人ノ子ヲ生ミ

レ毎ニ未ダ十日ナラサル以前ニ於テ之ヲ葬ムルノ不幸ニ
 遇ヘリ第六子ノ生レテ我身ヲ外出シ得ルニ至ルヤ直ニ隣邊
 ノ小林ニ赴キシガ悲憂自ラ禁ズル能ハズ獨リ涕泣スル時ニ
 方テ何ニモノカ靈物ノ己ヲ助ケルアルガ如キヲ覺ヘ是ニ於
 テ絶叫シテ之ニ其子ノ一命ヲ祈求シタリ終ニ其願ヲ達シ得
 タルヲ感シ安慰シテ家ニ歸レリ其子果シテ生長シメレ婦
 人ハ其何ノ故ナルヲ知ル能ハズ又之ヲ言フ能ハザリシガメ
 ーヒウ氏ノ往テ上帝ノ事キリストノ事ヲ告ルニ及ンデ始テ
 其然リシ所以ノモノヲ知リ直ニ其教ヲ受ケタリト云フ
 以上述ブル如ク上古ニ在ツテ各國ノ人民皆一般ニ万物ノ造
 主獨一上帝ヲ信シタルモノハ必ズ其故ナカル可ラズ若シ上
 帝ニシテ存在スルヲナク上帝ニシテ其性質ノ幾分ヲ人類ノ
 祖先ニ示シタルヲナクンバ何ニヨツテ此一般普通ノ信仰ア

ヲンヤ何ニヨツテ蒙昧無知ノ民族中ニ眞神存在ノ記憶アラ
 ンヤ但シ上帝アツテ其性質ノ幾分ヲ人類ノ祖先ニ示シタリ
 トスレバ以上詩ノ事實ヲ解釋スルヲ得可シ是レ事理ノ當ニ
 然ル可キ所ニシテ事實ノ果シテ然ル所ナリ何トナレバ假令
 ヒ人類墮落シテ罪戾ノ中ニ彷徨シ漸ク生ケル眞神ノ崇拜ヲ
 忘ル、ニ至リシト雖モ尙幾分カ眞神存在ノ念ヲ其口碑ニ傳
 ヘ眞神崇拜ノ式ヲ其外形ニ存ス可ケレバナリ
 シヨシ、ローリソソノ曰ク元始嘗テ神啓ヲ蒙リ後々人性ノ墮
 落ニヨリ且ツ邦國ノ異リ人種ノ別ナルヨリ變轉又變轉シテ
 遂ニ千差万別ノ宗教アルニ至リシト云フ説ノモ獨リ能ク古
 來各國宗教ノ雜駁多様ナル所以ト又其間ニ一致スル所アル
 所以ノ事實ヲ説明ス可キナリト(古代宗教史)
 又少シク觀察ノ点ヲ一轉シテ之ヲ論ゼンニ古今万国ノ宗教

ハ即チ天地万物ノ大原因タル上帝ノ觀念ニ基因スルコトヲ
 示セリ古來非常ノ人物現出シテ此宗教心ヲ攻撃シタルニ拘
 ラズ又人間ノ惡慾惡情之ヲ嫌忌シ之ニ反對シタルニ拘ラズ
 吾人々問ノ宗教心ニ至ツテハ依然トシテ少シモ動搖スルコ
 ナク世界各國ニ存スル如何ナル詩歌ヲ誦スルモ如何ナル文
 章ヲ讀モ曾テ此宗教心ヲ反射セザルモノハ殆ト稀ナルニ至
 ル或ハ人間ヲ墮落セシムル偶像ノ崇拜ニヨリ獨一上帝ノ觀
 念ヲ失ヒタル人民モアリト雖モ吾人ハ未ダ一國民一民族ノ
 全ク宗教上ノ禮式ヲ失墜シタルモノアルヲ見ザル也カノ太
 古人民ノ實史傳ヲズ今ヨリ其如何ヲ知ル能ハザルモノト雖
 モ遺存セル古物ヲ觀ルニ皆宗教崇拜ノ禮式ニ用ヒタル器具
 ニアラザルハナシ西方亞細亞ノクシ民族ノ如キハ五千年以
 前ニ於テ既ニ宗教ヲ奉シタルノ實跡アリト云フ最下等ナル

民族中ニハ二三ノ一定シタル宗教ナキ部落アリト云フモノ
 アレモ概シテ之ヲ言ヘバ世界万国人民アレバ必ず宗教アラ
 ザルナリ宗教心ハ乃チ人類普通ノ稟性ナルヲ恰モ游泳ハ鴨
 類普通ノ稟性ナルガ如シ水アリ以テ游泳ス可シ故ニ鴨類ニ
 游泳ノ性アリ神アリ以テ崇拜ス可シ故ニ人類ニ宗教ノ性ア
 ルナリ然ルニ尙ホ上帝存在セズト云フモノハ殆ント正ニ世
 間水ナキニ游泳ノ稟性ヲ有スル者アリト論ズルガ如キノミ
 凡ソ人類ニアレ動物ニアレ内ニ性情アレバ必ず外ニ之ニ契
 合スル實物アリ人ニ食ヲ求ムルノ性アレバ必ず粟米果蔬魚
 肉アリ以テ其欲ヲ充塞セシメ人ニ美ヲ求ムルノ性アレバ雲
 天山河ノ美麗ナル金銀珠玉ノ美麗ナル珍草奇木ノ美麗ナル
 以テ其情ヲ充塞セシメ其他友ヲ求メ子ヲ求ムルノ性ニ至テ
 各皆之ニ契合ス可キ實物アラザルハナシ然ルニ獨リ神ヲ求

ムルノ性ニ於テノミ之ヲ慊足セシムルノ神ナシト云フ可カ
 ラズ希臘有名ノ史家アルタラーク其史傳中ニ云ヘルトアリ曰
 シ今若シ人アリ普ク世界万国ヲ經歷セバ或ハ牆壁ヲ有セズ
 劇場ヲ有セザルノ市邑アルヲ見ン或ハ貨幣ヲ用ヒズ技藝ニ
 達セザルノ人民アルヲ見ン然レ所トシテ神社祭壇ナキノ邑
 ナシ所トシテ宗教崇拜ナキノ民ナキヲ知ラントアラタラシ
 ガ此言ヲ發セルハ既ニ二千年前ノ昔ニ在リシト雖モ尙今日
 ニ於テ此言ヲ轉用スベシ顧フニ世界至ル所苟モ民人ノ住ス
 ル所ニシテ大抵左ノ諸條ヲ發見シ得ザルモノナキナリ
 第一、宇宙万物ノ造主ナル獨一上帝存在ノ觀念
 第二、上帝ガ其聖意ノ幾分ヲ人ニヨリ若シハ万有ニヨリテ衆
 民ニ示シタルトアリトスル觀念

第三、崇拜ノ禮式

第四、神ニ祈禱スルヲ
 第五、來世アル觀念
 第六、道德上ノ責任即チ罪惡ノ爲ス可ヲザルヲ知ルヲ
 第七、善惡正邪必ズ來世ニ於テ應報賞罰アリト信ズルヲ
 第八、神官僧侶祭司ノ類
 第九、殿堂社寺ノ類
 而シテ方今佛教ヲ信ズル者ハ全世界人口ノ四分ノ一ニ居リ
 基督教ヲ信ズル者之ニ次ギ回々教「ブヲマ」教等各亦夥多ノ信
 者アリ且ツ古來各國ノ建築ニシテ最モ精巧ヲ極メ最モ華美
 ヲ極メタルモノニ至ツテハ必ズ皆此崇拜ノ爲メニ營造セラ
 レタルニアラザルハナシ方今日日本ニ存スル神社佛閣ヲ總合
 スレバ以テ全帝國ノアラユル家屋宮殿ト其價值ヲ匹敵スル
 ニ至ルト云フ夫レ斯ノ如ク宗教性ト大原因存在ノ信仰トハ

現ニ方今ノ人類中ニ一般普通ナルノミナラズ又古ヨリシテ
 常ニ一般普通ナリシナリ此レ人類ノ天性ニ淵源スル自餘ノ
 本能直覺ニ比シテ淺深ノ度異ナルコトナシ斯ノ如ク一般普
 通ナルノ事實ハ即チ此性ト此信仰トノ決シテ偶然ナラザル
 チ証スルモノニシテ此性ト此信仰トノ決シテ偶然ナラザル
 ノ事實ハ即チ大原因タル獨一上帝ノ存在スル強証ナリト云
 フコトヲ得可シ
 フレト一曰シ物アリテ然ル後チニ物ノ性アリ物ハ本ナリ性
 ハ未ナリ苟モ既ニ性アラバ必ズ之ガ主タル實物ナカルベカ
 ラズ愛憎アルハ即チ愛憎スル所ノ人アルニヨリ喜怒哀ルハ
 即チ喜怒哀ル所ノ人アルニヨル今正義ト云ヒ職分ト云ヒ義
 務ト云ヒ絶對ト云ヒ既ニ其性アルヨリシテ之ヲ推スニ必ズ
 之ガ主タル無限ノ實在者ナカル可ラザル道理ナリト是ノ論

以テ上帝存在ノ第七証トナスベシ
 吾人ハ最後ニ人々直接ニ上帝ヲ識リ得ルノ事實ヲ以テ上帝
 存在ノ第八証トナス願フニ人々悉ク皆此ノ如ク上帝ヲ識ル
 ト云フニアラズ唯ダ心ヲ開キテ己ヲ虚フシ以テ眞理ヲ求ム
 ルモノニ至ツテハ上帝必ズ之ニ賜フニ其知識ヲ以テスルト
 云フニ在リ基督曾テ此流ノ人ニ告ゲテ曰ク此レ即チ眞理ノ
 靈ナリ世之ヲ接シル能ハズツハ之ヲ見ズ且ツ之ヲ知ラザル
 ニユルサレト爾曹ハ之ヲ識ルツハ彼レ爾曹ト偕ニ在リ且ツ
 爾曹ノ衷ニ在レバナリト(約翰傳十四節)實ニ斯ノ如クシテ上帝ヲ
 識リ得ルニ至ルモノ世間甚ダ多キヲ見ルヘルベルト、スベン
 サ―氏ハ無限ナルモノハ到底人知ノ達スル能ハザル所ナリ
 ト言フナル可シ勿論有限ナル人類ニシテ無限ナル上帝ヲ識
 リ盡カンコトハ決シテ能クス可キニアラザレトカノ嬰兒ガ其

慈父ヲ識リテ自ラ之ト心意ヲ通ズルアルト等シク直接ニ上
 帝ヲ識リ得テ之ト心意ヲ通ズルモノ世間其數幾千万ナルヲ
 知ルベカラズユレ蓋シ人類ノ性質ハ幾分カ下等造物ノ像ヲ
 具フト雖也其高尚ナル性質ニ至ツテハ即チ上帝ノ像ニ擬セ
 ルモノタルヲ以テ其心意ノ自ラ上帝ト相ヒ通ズルヲ得モ亦
 當然ノ事ニシテ抑モ以テ上帝ノ存在スル所以ヲ証明スベキ
 ナリ

以上論ズル所皆天地万物ノ大原因獨一上帝ノ存在スル所以
 ナ証スルニ在ツテマトヒ八個ノ論証ヲ分ツテ各別ニ之ヲ檢
 スルモ亦以テ上帝存在ノ豫証トナスニ足レリ或ハ其豫証甚
 ダ強クシテ確証トナル者アリ殊ニ八個ノ論証ヲ合シテ之ヲ
 觀察スルニ至ツテハ愈々以テ上帝存在説ノ確乎トシテ動ス
 可カラザルヲ見ルナリ乃チ唯物説ノ甚ダ困難ナルヲ察シ獨

リ有神説ノニ能ク諸般ノ問題ヲ解釋シ得ル所以ノ事實ヲ察
 シ上帝アリトナスニアラズンバ古傳説ノ所謂世界ハ大象ノ
 背上ニアリ而シテ象復大龜ノ甲上ニ在リト云フガ如キ究極
 ナキノ空論ニ陥ルヲ觀、万有中適應調和ノ至盡セル所以、企圖
 意匠ノ顯著ナル所以ヲ觀、獨一上帝存在ノ信仰ハ古今万国ニ
 一般普通ナル所以ヲ察シ、絶對無限ナル實在者アルニアラズ
 ソバ絶對無限ノ觀念ノ吾人ガ心裏ニ生ズベキ理由ナキ所以
 ナ察シ人々各直接ニ上帝ヲ識リ得テ之ト相通ズルモノ、甚
 ダ夥シキ所以ヲ察スレバ上帝存在ノ事實アル甚ダ確ク且ツ
 強クシテ殆ト駁ス可キ所ナキニ至ル

唯物論者不可思議者ノ中ニハカノスチニアート、ミルノ如ク
 一々各別ニ八個ノ論証ヲ執リ以テ其上帝存在ノ証據トナス
 ニ足ラザルヲ論シ依ツテ有神説ヲ破ラント試ムルモノアリ

我ニ八軍アラフニ敵若シ我ガ一軍ノミト戰ハバ或ハ能ク其
 反對ノ地ヲ持シ得ベク或ハ之ヲ擊破スルヲ得ルコトモアル
 可シト雖也若シ我ガ八軍ニ當ラバ豈ニ能ク覆滅ヲ免カル可
 ケンヤ今人食卓ノ一脚ヲ取り是レ以テ食卓ヲ支フルニ足ラ
 ズト云ヒ復他ノ一脚ヲ取り是レ以テ食卓ヲ支フルニ足ラズ
 ト云ヒ斯ノ如クシテ四脚八脚ニ至リ皆以テ食卓ヲ立ツルニ
 足ラズト云ハバ如何、論者ノ言恰モ之ニ似タリ一脚以テ食卓
 ナ支フ可ラザルモ四脚六脚ノ能ク食卓ヲ支フルヲ明白ナル
 ニアラズヤ要スルニ前八個ノ論証ハ皆上帝ノ存在ヲ証スル
 ニ歸シ而シテ皆各別ニ証據力アルモノナルヲ以テ若シ之ヲ
 合スルニ至ツテハ二個ノ論証ハ其証據力二個ニ止ラズ増シ
 テ四個ノカトナリ三個ノモノハ九個ノカトナリ四個ノモノ
 ハ十六個ノカトナルベシ故ニ古來未ダ曾テ一人ノ能ク此説

ヲ論破シ得タルモノアラザルナリ恐クハ亦後來之ヲ論破シ得ルモノアラザルベシ假令ヒ世間一二人ノ神ナシト信フ得タリトスルモノアルニセユ人類一般ノ論評スル所ハ當ニ所謂不虔ナル星學者ハ狂セルナリト云フニ在ラシカ或ハ詩聖マビデノ如ク愚者心裏竊ニ神ナシトセリト云ハソノミ

第七章

願クハ万世ノ王スナハチ朽ズ見ザル一ノ神ニ窮ナク尊貴ト榮光アラソフヲアーメン

(提上一章十七)

上帝ノ性質ヲ論ズ

吾人ハ既ニ句ヲ累テ章ヲ追ヒ縷々天地万物ノ大原因タル上帝ノ存在スル所以ヲ論証シタルヲ聊カ是ヨリ上帝ノ性質ヲ觀察スベシ上帝ハ無限ニシテ分ツ可ラザル唯一ノ實體ナル

ヲ以テ其性質ヲ分ツテ之ヲ叙述スルハ殆ト爲シ難キノ事ニ屬ス故ニ之ヲ分解叙述スルノ方法甚ダ多シト雖モ一トシテ恐クハ非難ヲ免ル、者ナカル可シ今左ニ博士ビー、エフカツカ―氏ガ取ル所ノ説ニ從テ少シク之ヲ講論セント欲ス

第一條 上帝ノ常住性即チ上帝ハ絶對的實體ニシテ万物ノ

基本タル所ヨリ之ヲ論ズ

(一) 上帝ハ無始無終ナリ
上帝ハ万物ノ大原因創造者ニシテ獨リ能ク自ラ存スルモノナレバ決シテ被造者タル能ハザルナリ若シ上帝ヲ以テ被造者ナリトセバ他ニ上帝ヲ造リシモノアラザル可ラザル道理ニシテ乃チ上帝ハ大原因タルノ方ナキニ歸セン故ニ若シ他力アリテ上帝ヲ造レリトセバ其他力ハ即チ眞ノ上帝ナリ若シ又別ニ大他力アリテ其他力ヲ造レリトセバ其他ノ大力ニ

ソ即チ眞ノ上帝ト云フ可キノミ或人曰ハク時計若シクハ天
 体ニシテ果シテ原因ナカル可ラザルモノナラシメバ亦等シ
 ク上帝ニモ原因ナカル可ラザル道理ナルヲ以テ上帝ニ原因
 ナシトスルハ或ハ前文原因論意匠論ノ証スル所ト相ヒ予猶
 スルナキヲ得ンヤト是レ大ニ然ラズ彼ノ天地万物ノ如ク被
 造ノ形跡ヲ有シ且ツ變遷轉化スルモノニ至ツテハ固ヨリ原
 因ナキ能ハズト雖ヒ之ガ原因タルモノ、獨立自存ナル可キ
 ハ敢テ解シ難キトニアラザルノミナラズ寧ロ却ツテ理ニ於
 テ然ラザル可ラザルヲ見ルナリ既ニ生物トナク無生物トナ
 クアラユル物皆悉ク依從スル所アルヨリシテ之ヲ推セバ之
 ガ主タル獨立自存ノ原因ナカル可ラザルハ蓋シ當然ノトニ
 シテ若シ之ナシトセバ吾人ハ原因ノ上ニ原因ヲ求メ又其原
 因ノ上ニ原因ヲ求メ到底以テ究極ナク天地万物ハ終ニ理解

スル能ハザルニ歸スベシ無神論ノ困難ハ更ニ少クモ説明ス
 ルヲ得ザルナリ然レモ無始自存ノ大原因アリトセバ能ク諸
 般ノ困難ヲ解キ得可ク又因果ノ理ヲ考フルニ當リ此無始ノ
 大原因ニ達スル時始メテ能ク吾人ノ心意ヲ満足スルヲ以テ
 吾人ハ斷シテ上帝ニ無始自存ノ性アリトスルノ學理ニ合フ
 モノタルヲ信ズ又上帝ハ自力ニテ自造セシモノニアラザル
 ベシ自ラ造ルト云フハ考フ可ラザル事ナレバナリ又上帝ハ
 既ニ全能者ナルガ故ニ他物決シテ之ヲ滅スルヲ能ハズ而シ
 テ上帝自ラ己ヲ滅スルコトハ決シテアル可ラザルガ故ニ上
 帝ニハ終アルコト莫シ或人言ヘルコトアリ曰ク上帝ノ無究
 ナルハ山岳丘陵ノ無究ナルト同カラズ又日月星辰ノ無究ナ
 ルトモ同カラズ願フニ上帝ノ無究ナルハ決シテ枯涸セザル
 青年ノ如ク生氣ヲ保有シテ少ラクモ間斷スルヲナキモノナ

リト名言ト云フベシ且上帝ノ無始無終ナルノ意ハ聖書ノ常ニ教フル所ナリ創世記廿一章卅三、約百記卅六章二十六、詩篇第九十ノ二、九十三篇二、以賽亞四十章二十八、四十三章十ヨリ十二、羅馬書一章二十、十六章二十六、提摩太前書一章十七、十六章十五、十六、希伯來書一章八、默示錄一章四、八、等ヲ見ユ

(二) 上帝ハ不變ナリ

凡ソ物ノ變ズルハ其完全ナラザルニ基ク上帝ハ今既ニ完全ナレハ勿論變ズ可キ理由ナシ若シ上帝ヨシテ變ズルヲシメハ却ツテ不完全ナルニ至ランノミ宇宙ノ條理千古變セズ万有ノ進歩整然トシテ常ニ一定ノ秩序アルモノハ即チ上帝不變ノ證據ナリ聖書中上帝不變ノ意ヲ示ス所甚ク多シ詩篇第百二ノ二十六、二十七、馬拉基三章六、希伯來書一章十二、二十三章八、雅各書一章十七等ヲ見ユ

(三) 上帝ハ獨一ナリ

宇宙ノ間ニ顯然ナル企圖意匠ノ一致ニシテ秩序調和ノ周到ナルハ正ニ上帝ノ獨一ナルヲ証スルモノナリ万物ノ大原因ハ獨一ニシテ足レルヲ以テ一以上數多ノ上帝アリトオスハ學理ニ反スルノミナラズ殆ソト亦考テ可ラザルユトニシテ且決シテ一以上ノ無限者アル能ハザル道理ナリ或人曰ク宗教中數多ノ神ヲ崇拜スルモノアルハ如何ト下等人類ニハ數多ノ神ヲ崇拜スルモノナキニ非ズト雖ヒ漸ク開明ニ進ムニ及ンダハタトヒ眞神ヲ知ラザル異教人ニシテモ尙ホ數多ノ神アルヲ斥ケ獨一上帝ヲ信シテ之ヲ崇拜スルヲ見ル既ニ前章ニモ述ベタルガ如ク上帝ノ獨一ナルヲハ往古各國民ノ等シク皆信シタル所ナリ又聖書モ明ニ上帝ノ獨一ナル意ヲ示ス申命記四章三十五、三十九、六章四、五、十四、詩篇第八十三ノ

十八、第八十六ノ八、十、以賽亞四十四章六ヨリ八、四十五章十八
二十一、耶利米十章六、約翰傳十七章三、哥林多前書八章四ヨリ
六、以弗所四章六、提摩太前書一章十七、二章五、六章十五、雅各書
二章十九等ヲ見ユ

(四) 上帝ハ理想ノ太極ナリ

上帝ハ絶對的實體ナルヲ以テ万物ノ太極万物ノ本眞ヲラザ
ル可ラズ蓋シ万物ノ形狀ト云ヒ万物ノ關係ト云ヒ万物ノ總
量ト云ヒ万物ノ調合ト云ヒ大凡ソ考ヘ得可ク又成シ得可キ
者ハ皆常ニ上帝ノ中ニ在テ理想的ニ永遠現存ス可キナリ約
百記十一章七ヨリ九、二十六章十四、三十六、三十七章
五、二十三、詩篇第百三十九ノ十六、第四百十五ノ三、第四十ノ五
以賽亞四十四章二十八、五十五章八、九、使徒行傳十五章十八、羅馬
書十一章三十三ヨリ三十六、以弗所書一章二十三、三章十九、哥

羅西一章十九、二章九等ヲ見ユ

第二條 上帝ノ創造性即チ上帝ハ無限的勢力ニシテ万物ノ

原因タル所ヨリ之ヲ論ズ

(一) 上帝ハ靈ナリ

既ニ第四章ニ於テ論述シタル如ク睿智アツテ靈ナルモノニ
アラザルヨリハ決シテ眞ノ原因タル能ハザルヲ以テ宇宙万
有ノ大原因タル上帝ハ必ず靈ナラザル可ラザル道理ナリ乃
チ上帝ハ靈ニシテ智情意ヲ具有スルヲ恰モ人心ノ如ク唯マ
異ナル所ハ其無限ナルニ在リトス万有ニ條理アリテ曉解シ
得ベキハ之ガ原因タルモノ、睿智アルヲ証シ又其造主上帝
ノ肖像タルヲ示スモノニシテ物質界ニ於テ万物ノ整然秩序
アルハ正ニ上帝ガ智情意ヲ具有スル心靈ナルノ實証ナリ
而シテ上帝ハ時間ト空間トノ上ニ超絶シ曾テ其制限ヲ受クル

コナク過、現、未、ノ三世ニ亘ツテ常ニ同一ナリ約翰傳四章二十
 四節ニ曰ク神ハ靈ナレバ拜スル者モ靈ト眞ヲ以テ之ヲ拜ス
 可シト是レ亦上帝ハ靈ナルノ証據ナリ
 (二) 上帝ハ普遍ナリ存在セザル所ナシ
 上帝ハ既ニ靈ナリ無限ナリ故ニ其勢ヒ必ズ普遍全能全智ナ
 ラザルヲ得ズ上帝ハ全宇宙ヲ充塞シ所トシテ貫カザルナク
 全宇宙ヲ動カシ全宇宙ヲ活カシ常ニ万物ノ内ニ在リ又万物
 ナ通貫シ万物ニ超絶シ管テ處ニ於テ界限ナク力ニ於テ制限
 ナシ故ニ上帝ハ空間ナクシテ無限ナリトス而シテ上帝ハ處
 トシテ在サザルナシ蓋シ其在スヤ吾人々間ガ存在スルモ知
 ルノ力ナク爲スノ力ナキトハ異ニシテ上帝ニ在テハ存在ス
 ルト知ルト爲ストハ常ニ同一作用ナリトス故ニ上帝在サ
 ル所ナシト云フハ上帝ノ知ラザル所ナク爲サザル所ナキニ

因ルナリ蓋シ上帝ハ万物ニ充滿シアラユル生物ヲシテ生物
 タラシムルモアラユル靈物ヲシテ靈物タラシムルモ一ニ皆
 上帝ノ作用ナリトス而シテ天地万物ハ上帝ノ包有スル所ナ
 リ然レモ上帝ハ天地万物ノ包有スル所トナルモノニアラズ
 是レ上帝ニ普遍ノ性アリトナスハ必シモ凡神說ニ非ザル所
 以ナリヒルベルタス、ダイロチンシスガ頌歌ニ之アリ曰ク神
 ハ万物ノ上ニ在リ又万物ノ下ニ在リ神ハ万物ノ外ニ在リ又
 万物ノ内ニ在リ内ニ在リト雖モ其包ム所トナルニアラズ外
 ニ在リト雖モ敢テ之ト離ル、ニアラズ上ニ在リト雖モ獨リ
 高ク坐スルニアラズ下ニ在リト雖モ敢テ屈シテ伏スルニア
 ラズ上ニ在テ之ヲ治メ下ニ在ツテ之ヲ保ツト善ク神性ヲ述
 ベタルモノト云フベシ
 聖書モ亦上帝ニ普遍ノ性アルヲ教示ス前文第三章ニ於テ

上帝が万有ノ中ニ常住スル所以ヲ論シタル所ヲ讀ミ且ツ其中ニ掲出シタル聖書ノ引証ヲ見ユ又詩篇第百三十九ノ七ヨリ十三、箴言十五章ノ三、耶利米二十三章ノ二十三、二十四、馬太傳十章ノ二十九、哥林多前書十五章ノ二十八、以弗所書一章ノ二十三、希伯來書四章ノ十三等ヲ參觀スベシ

(三) 上帝ハ全能ナリ能ハザル所ナシ

全能トハ爲スアルノ力ナリ擅ニ何事ニテモ爲スノ力ニ非ズ或ハ虚妄ナルヲ或ハ矛盾セル事或ハ事物ノ道理ニ反シタル事ニテモ之ヲ爲スノ力アリト云フ意ニ非ズ唯事物ノ道理ニ合當スル行爲ノ自在力アリト云フノ義ナリ故ニ若シ上帝ニシテ後來幾倍ノ力ヲ増加スルアリトスルモ今爲ス能ハザルノ事物ハ後ニ至ツテモ今ト同ク必ズ爲ス能ハザルヲナル可シ此レ其爲ス能ハザルハ力ノ足ラザルニハアラズシテ力

ノ目的用法ニ背戻スルニ在ルヲ以テナリ乃チ事物ノ道理ヨリ生ズルモノニシテ決シテ力ノ不足ヨリ起ルニアラザルナリ而シテ天地万物ノ創造者主宰者タル所ヨリ之ヲ見レバ上帝ニハ固ヨリ全能ノ性ヲ有セザル可ラザルノ道理アリ又既ニ上帝ヲ以テ獨立自存ノ性アルモノトセバ其全能ノ性ヲ有スルモ自然ノ勢ナルベシ獨立自存ノ實在者ニシテ全能ヲ有セザルトハ考フ可ラザルヲナレバナリ

又上帝が造化ノ蹟ヨリ推シテ以テ上帝ノ全能ナル所以ヲ証スルニ足ル物質界ノ廣大ナル雖カ能ク其境界ヲ知ルヲ得ンヤ最近ナル恒星「セントーリ」ノ我ガ地球ヲ隔ツルヲ二百億英里ニシテ「シリヤス」恒星ノ距離ハ一千二百億英里ノ遠ニ出ヅ一秒時間ニ殆ンド二十万英里ノ速力ヲ有スル光線ニシテ「セントーリ」ヨリ地球ニ達スルニハ三年半ヲ要シ「シリヤス」ヨ

リハ二十年ヲ要スルト云フ肉眼ヲ以テ望見シ得ヘキ恒星中ノ最モ大ニ見ユル者(星一等)ノ光線ハ凡ソ十五年半ニシテ地球ニ達シ最モ小ニ見ユル者(星六等)ノ光線ハ大約百二十年ニシテ地球ニ達ス而シテ望遠鏡ヲ以テ發見シ得タル最モ遠キ恒星ニ至ツテハ數千年ノ久シキヲ經ルニアラズンバ其光線地球ニ達スルコト能ハザルナリ斯ル遠星ヲ望見シ得ルノ望遠鏡ト雖モ更ニ物質界ニ界限アルノ徵候ダニ發見スル能ハズ物質界ノ廣大ナル想フベシ而シテ此全宇宙ノ實ダニ存在スルノミニ非ズ常ニ寂然聲ナク整然序アツテ運行廻轉曾テ間斷アルヲナシ實ニ上帝ガ斯ル動作ノ樣法ハ以テ上帝無限ノ力ヲ證スルニ足ル也乃チ上帝ガ動作ノ靜然聲ナク同一ノ方便ヲ以テ數多ノ大事ヲ成就シ給フ夫ノ大氣ノ例ニ見タル如シ又其宇宙ヲ運轉シテ毫モ其秩序ヲ失セシメ給ハザルハ其力

アルコトヲ証スル者ナリ夫レ全宇宙ハ總テ皆チ運動ノ中ニ在リテ衛星ハ惑星ヲ周行シ惑星ハ恒星ヲ周行シ恒星ハ互ニ相ヒ周行シテ銀河ヲ成立シ銀河亦其大中心ヲ周行シ古往今來斯ノ如クニシテ運行其時ヲ誤マズ順列其處ヲ亂サズ日月ノ蝕金星ノ經過ノ如キ之ヲ計算シテ豫告スルニ一秒時間ヲダモ誤ラザルヲ得ルニ至ツテハ實ニ驚愕スルニ堪ヘタリ又前文既ニ論シタルガ如ク大氣ガ配合調和ノ至盡セルノ類ハ果シテ之ヲ何トカ云ハソ上帝ニ全能ノ性アルモ亦甚ダ明白ナラズヤ聖書モ亦此意ヲ示ス出埃及記六章三、歷代史零上卷二十九章十一、十三、詩篇第百十五ノ三、以賽亞四十章十二、四十三章十三、耶利米三十二章十七ヨリ十九、二十七、但以理二章二十、四章三十五、馬太傳十九章二十六、路加傳一章三十七、約翰傳十章二十九、羅馬書十一章三十六、哥林多前書八章六、以弗所三

章二十、默示錄一章八、十九章六等ヲ見ユ
(四) 上帝ハ全智ナリ知ラザル所ナシ、

上帝ハ直達ニ過去現在未來ノアヲユル事物ヲ知識スルノ力
ヲ有ス上帝ガ無窮ノ存在ハ化シテハ無究ノ思想トナル乃チ
上帝ニ在テハ生命ハ即チ光ナルナリ而シテ上帝ノ知識ニハ限
リナシ前段全能ノ証ハ亦其全知ヲ証スルモノトス蓋シ天地
万物ヲ企圖シテ之ヲ創造シ常ニ之ヲ主宰スル上帝ニ於テハ
必ズ全知ノ性ヲ有セザル可ラザル道理ナリ聖書中此意ヲ示
ス所甚ダ多シ撒母耳上卷九章十五ヨリ十七、廿三章十二、約百
記二十六章四、六、二十八章二十四、二十五、三十七章十六、詩篇第
百三十九ノ一ヨリ七、第百四十七ノ五、以賽亞四十章廿八、但以
理二章二十、使徒行傳一章二十四、羅馬書十一章三十三、三十四
希伯來書四章十三、約翰第一書三章二十等ヲ見ユ

第三條

上帝ノ道德性即チ上帝ハ完全ナル品格ヲ具有スル
有心者ニシテ万物存在ノ終極理由タル所ヨリ之ヲ
論ズ

上帝ハ完全ナル品格ヲ具有スル有心者ナルガ故ニ必ズ愛ヲ
以テ其本性ト爲サバ爾可ラズ而シテ智慧、正義、神聖、福祉、等ノ
諸性ヲ有ス可キ者トス蓋シ万有ノ成立スル所以ノモノハ一
ニ上帝至愛ノ溢ル所ニ基ク聖書ニ曰ク神ハ愛ナリト(約翰傳三
章八節ヲ見ヨ)上帝ノ道德性ハ愛ナル一言ニシテ盡セリ愛ハ即
チ其中心ナリ生命ナリト云フベシカノ太陽ノ白光明々一ニ
シテ分ツ可ラザルニ似シ而モ七色ヲ含有シ時ニ從フテ之ヲ
發表スルガ如ク愛ハ上帝ノ本性ニシテ恰モ太陽ノ白光ニ似
タリ智慧ト云ヒ正義ト云ヒ神聖ト云ヒ矜恤ト云ヒ皆愛ヨリ
出ル所ノモノニシテ猶ホ神性ノ七色タルナリ智慧ハ愛ノ事

物ヲ知ルモノナリ大能ハ愛ノ事物ヲ生ズルモノナリ正義ト
 矜恤トハ愛ノ働作ノ左右ニ分レタルモノナリ實ニ愛ハ天地
 万物ノ由來成立スル所以ノ根本主義ニシテ禽獸草木ノ如キ
 下等生物ニ就テ之ヲ云ヘバ善ナリ人類天使ノ如キ高等生物
 ニ就テ之ヲ云ヘバ則チ愛ナリマルテンセン曰ク万有ヲ照セ
 ルノ後チ愛ノ再ヒ上帝ニ反射セルモノコソ即チ福祉ナリ福
 祉トハ自己既ニ完全シテ他ニ要スル所ナク自己既ニ満足シ
 テ外ニ待ツ所ナキノ生活ニシテ愛ノ無疆治休愛ノ圓滿安息
 ナリ而シテ愛ノ治休安息ハ即チ愛ノ無究作用無究活動ナリ
 ト（希伯來書
 四章三）抑モ宇宙万有ノ大目的ハ造物ノ造主上帝ト相ヒ
 交通和合シテ少シモ離間スル所ナキニ在リ是レ即チ心靈界
 ノ物質界ノ上流ニ位シ物質界ノ心靈界ノ下ニ從属スル所以
 ナリ故ニ若シ上帝ニシテ果シテ完全ナル品格ヲ具有シ完全

ナル徳性ヲ具有シ愛ヲ以テ其ノ本性ト爲ス有心者ナラシメ
 バ必ズヤ從順ニシテ其法則ヲ遵守スルモノニ交リ拂戻ニシ
 テ其法則ヲ背犯スルモノヲ斥ケザル可ラズ其交通スル所ノ
 モノハ必ズ善者ニ在リテ其擯斥スル所ノモノハ必ズ惡者ニ
 在ラザル可ラザルナリ蓋シ惡ハ愛ニ反スル者ナレバナリ夫
 レ上帝ハ凡テ徳性ヲ有スル者ノ中ニ正義ハ必ズ福祉ヲ來メ
 シ福祉ハ必ズ正義ニ因スル不易ノ定則ヲ設爲シ給ヘリ故ニ
 人間ガ徳性ノ善ヲ善トシテ之ヲ稱シ之ヲ勸メ惡ヲ惡トシテ
 之ヲ斥ケ之ヲ禁ズルノ事實ヲ觀レバ以テ上帝ガ品格ノ完全
 ナルヲ知ルベシ
 然ルニ之ヲ難ズルモノアリ曰ク上帝ノ夙ニ聖書ヲ以テ之ヲ
 人類ニ啓示セルニアラザルヨリハ上帝ガ徳性ノ完全ナルハ
 得テ証ス可キニアラズ何トナレバ此世界ニハ物質上ノ災禍

心靈上ノ害惡等夥多アルガ故ニ單ニ宇宙万有ノ現狀ヲ觀察
 スルノミニシテハ決シテ造物主ノ純善至聖ノ上帝タルヲ
 証スル能ハズト然レ吾人ハ假令聖書ノ啓示ニヨラザルモ唯
 宇宙万有ノ現狀ヲ觀察スル耳ニシテ尙ホ能ク上帝ニ知慧善
 德ノ性アル所以ノ強キ豫証トナル可キモノアルヲ見ル
 (一) 既ニ前條ニ於テ述ベタル上帝ノ常住性ト創造性トハ即
 チ上帝ガ完全ナル道德性ヲ具有スルノ強キ豫証トナルナリ
 上帝ハ時ニ於テ限りナク力ニ於テ限りナク知ニ於テ限りナ
 ク處ニ於テ限りナク無始無終全能全智遍在普存ノ性アルヨ
 リシテ之ヲ推セバ其善德ノ無限ナルモ亦自然ノ道理ナリ且
 ツ上帝ガ理性ヲ有スル吾人ヲ創造セル事實ト上帝ガ吾人ヲ
 扶助ス可キノ力ヲ有セル事實トハ以テ吾人ヲシテ上帝ハ必
 ズ吾人ヲ扶助スベシ上帝ニシテ吾人ヲ扶助セズンバ上帝ハ

則チ惡德ノ神タルカヲ疑ハシム否吾人ヲシテ上帝ハ既ニ吾
 人ヲ創造シ而シテ其之ヲ創造スル之ヲ苦メンガ爲ナルカ或
 ハ然ラザルモ扶助ス可キノ力アルニ拘ラズ之ヲ不幸困厄ノ
 中ニ委シ去ツテ顧ミザルガ如クンバ上帝ハ則チ惡德無限ノ
 神タルカヲ疑ハシム而シテ又一方ヨリ之ヲ見ルモ上帝ハ既
 ニ無限ノ實在者ナルガ故ニ善ヲラバ必ズ純善ナル可ク惡ヲ
 ラバ必ズ純惡ナル可ク決シテ幾分善ニシテ幾分惡ナルガ如
 キ兩性混合ノモノタル能ハザル道理ナリ
 (二) 然ルニ茲ニ宇宙万有ヲ檢スレバ造物主ガ純惡ナラザル
 ノ証跡甚ダ多シ物質界ニ於テ秩序調和ノ至盡セルガ如キ造
 物ガ歸ムル所ノモノ要スル所ノモノ皆之ニ應ズルノ具備ア
 ルカ如キ正ニ上帝ノ善德ヲ証スルモノト云フベシ見ユ此地
 球ノ如キ人類ノ住處トシテ實ニ好ク適當シタルモノニアラ

ズヤ飲食ノ料アリ衣服ノ材アリ目ヲ慰ムルモノアリ耳ヲ喜
 バスモノアリ百需一トシテ具備セザルナク且ツ人類ヲシテ
 毎ニ快樂ヲ享ク可ラシム譬ヘバ飲スルニ快樂アリ食スルニ
 快樂アリ衣ヲ服スルニ快樂アリ身体ヲ運用スルニ快樂アリ
 若シ上帝ニシテ惡徳ノ神ヲシメバ必ズヤ全ク之ニ反シ衣
 服飲食坐作進退一ニ皆苦痛ト相ヒ伴フ可ラシメタルナラ
 然ルニ是ノ如クナラズシテ快樂ノ毎ニ吾人ガ身体ノ舉動ニ
 伴フノ事實ヲ察スレバ以テ吾人ガ身体ノ造主タル上帝ノ善
 ナルヲ証スベシ又轉ヲテ人心ノ作用ヲ檢スルモ等シク上帝
 ノ善ナルヲ証スルニ足ル識認ト云ヒ記憶ト云ヒ想像ト云ヒ
 論辯ト云ヒ心上ノ作用ハ悉ク皆快樂ト伴ハザルモノナク而
 シテ又吾人ニ知識ヲ求メ知識ヲ愛スルノ性アレバ則チ之ニ
 應ズル無限ノ外界アリ吾人ニ男女ノ慾アレバ則チ男女アリ

子女ノ慾アレバ則チ子女アリ親族ノ慾交友ノ慾、社會ノ慾ア
 レバ則チ親族交友、社會アリ以テ吾人ノ慾ニ應ズ且ツ吾人ノ
 心中ニハ憐憫同感ノ情ナルモノアリテ能ク他人ノ艱難ニ赴
 キ能ク他人ノ困厄ヲ救フ此レ豈ニ造主ノ善ナルヲ證スルモ
 ノニアラズヤ蓋シ吾人ノ道德性ハ上帝ノ善徳ヲ證スル最強
 ノ證據ナリ夫レ人間最上ノ幸福ハ仁愛ヲ行フニアリ良心ハ
 常ニ善行ヲ善トシテ之ヲ稱シ之ヲ勸メ惡行ヲ惡トシテ之ヲ
 斥ケ之ヲ禁ズ即チ人ハ自然ニ凡テノ徳ヲ稱美シ嘆賞シ美愛
 スル者ナリ若シ上帝ニシテ惡ナラシメシカ何スレゾ斯ノ如
 ク善ヲ愛シ惡ヲ憎ムノ人類ヲ造ラシヤ果シテ上帝ニシテ純
 惡ノ神ヲシメバ何ゾ吾人ニ賦スルニ良心ヲ以テシ以テ善
 ヲ爲スヲ命ジ惡ヲ爲スヲ禁ズルヲ爲サシヤ何ゾ吾人ニシ
 テ善ヲ爲サバ則チ快樂ヲシテ心ニ滿タシメ惡ヲ爲サバ則チ

苦痛ヲシテ心ヲ塞ガシムルガ如キヲ爲サシヤ是レ吾人が
 此人類ヲ造リ又此世界ヲ造リテ巧ニ人類ノ需要ニ應ズ可キ
 カ如クナラシメタル上帝ノ果シテ善徳ノ神タルヲ論結ス
 ル所以ナリ
 難ズルモノ、曰ク世ニ災禍害惡アルハ上帝ノ純善ナラザル
 ノ証據ト云フベシ上帝ニシテ純善ナラバ災禍害惡ヲシテ世
 ニアラシム可キノ道理アラズト世ニ災禍害惡アルハ争フ可
 ラザルノ事實ニソ吾人ノ否ム能ハザル所ナリ特ニカノ心靈
 上道德上ノ害惡ノ如キハ由來スル所頗ル隱微ニシテ到底吾
 人が此世ニ在テ釋了スル能ハザルノ問題タルヲ免レザル也
 然レ一方ヨリシテ吾人々類ハ道德上ノ自由即チ自己決斷ノ
 自由ヲ有スル生物ナルヲ見バ或ハ罪惡ノ此自由ヲ誤用スル
 ヨリ罪惡ハ生ゼシニハアラザラソカ將タ人類ノ人類タル價

値人類ノ人類タル幸福ハ一ニ此自由ノ力ニ存スル所以チ思
 へバ假令人類ガ此自由ノ力ヲ誤用シテ遂ニ罪惡ニ陥ルヲア
 ルモ此自由ノ人類ノ人類タルニ重要必須ナルガ爲ニ罪惡ヲ
 禁セントテ此自由ヲ奪フニ至ルハ上帝ノ全能ニ於テハ兎
 モ角モ其全智ニ於テ非ナル所アルヤモ測リ難シ上帝ハ率道
 徳上ノ自由ナクシテ罪惡入り來ルヲ能ハザル第二等或ハ第
 三等ノ道德世界ヲ造ラソヨリハ假令ヒ罪惡ノ伴ヒ來ルヲア
 ルモ此道德上ノ自由ヲ存スル道德世界ヲ造ルヲ是トシ給ヒ
 シ者ナル可シ既ニ道德上ノ自由ヲ有スル者ヲ造リタル上ハ
 其自由ヲ束縛シテ罪惡ヲ防ガソト上帝ノ全智ニ於テ非ナ
 ル所アルヤモ未ダ知ル可ラズ乃チ或ハ善ヲナス可ク或ハ惡
 チナス可キ此自由ノ誤用ヨリ宇宙ノ間遂ニ罪惡ヲ招來シタ
 ル者ナリ乃チ所謂災禍害惡ナルモノ多クハ人間自己ノ罪惡

ヨリ生ヲタル直接ノ結果タルナリ去レバ吾人ハ決シテ災禍
 害惡ノ故ヲ以テ之ヲ上帝ニ歸シ上帝ヲシテ直接ニ其責ニ當
 ラシムルノ權利ヲ有セザルナリ況ンヤ上帝ノ吾人ニ賦スル
 ニ良心ヲ以テシ善惡正邪ノ分別ヲ知ラシメ正ト善トノ就カ
 ザル可ラザルヲ教ヘ邪ト惡トノ避ケザル可ラザルヲ教ヘ正
 善ナラバ後チニ賞アリ邪惡ナラバ後チニ罰アルノ意ヲ豫告
 スルニ於テチヤ上帝ノ性決シテ惡ナラザルナリ願フニ人類
 ガ受クル苦痛ノ多クハ自己滅亡ノ危難ヨリ之ヲ救フニ欠ク
 可ラザルノ方便ニシテ却テ人類幸福ノ基タルヲ知ラザル可
 カラズ願フニ人類が受クル害惡ノ多クハ直接若クハ間接ニ
 自己ノ罪惡不正ヨリ招來スル所ニ係ルモノナルヲ覺ラザル
 可カラズ例ヘバカノ肉体上諸般ノ苦痛疾病又ハ憂愁ノ類皆
 是ナリ其他地震暴風飢饉ノ如ク人類ノ罪惡ニヨラズシテ來

ル所ノ災禍少ラズト雖モコレ亦以テ上帝ノ善徳ヲ害スルニ
 足ラザルノミナラズ却ツテ是ノ如キ世界ハ罪惡アル人類ノ
 住處トシテ最良ノ世界ナルモ知ル可カラザル也此世界ハ人
 類永久ノ住處ニアラズ寧ロ人類ノ品性ヲ陶鑄スル學校ニシ
 テ其來世ニ入ルノ試験場タルナリ去レバ上帝ハ飢饉暴風地
 震等ヲ用ヒテ以テ人類ヲ警戒シ人類ヲシテ自ラ其如何ナル
 地位ニアルカヲ知リ自ラ其罪惡ノ懼ル可キヲ覺ラシムルモ
 亦當然ニ非ズヤ故ニ此人類ニシテ此世界アリ此世界ニシテ
 此災害アルノ甚マ適セルヲ見ル可シ蓋シ牢獄ト陣營ト宮殿
 トハ其境遇位地各々自ラ差アル可ク其結構狀態各々自ラ別
 アル可キハ理ノ當然ナリトス吾人ハ今此世ニ在ツテハ苦痛
 アリ憂愁アリ死亡アリ或ハ禍惡ノ爲メニ意思ノ力ヲ束縛セ
 ラレ或ハ暗夜ノ爲メニ觀望ノ力ヲ束縛セラレ或ハ洋海ノ爲

メニ行歩ノ力ヲ束縛セラル、アリト雖也來世ニ在ツテハ禍
 惡ナク暗夜ナク洋海ナク往返進退自在ニシテ曾テ死亡憂愁
 苦痛ヲ知ラザル平安和樂ノ境界アル可キヲ信ズ然レ此ノ如
 キノ境遇ハ決シテ罪惡アル人類ノ爲ニ適當セザルナリ是ヲ
 以テ上帝ノ此ノ世界ヲ造ルニ方リ斯ル人類ノ住處トナス可
 キヲ知リ給ヒタレバ此世界ヲシテ罪惡アル人類ノ家宅タル
 ニ適セルモノタル可ラシメ給フモ固ヨリ當然ノ事ナリトス
 以上述アル所ヲ以テセバ庶幾クハ世ニ災禍害惡アル所以ノ
 意ヲ覺リ其災禍害惡アルノ故ヲ以テ上帝ノ善徳ヲ害スル能
 ハザル所以ノ意ヲ知ルニ足ラシカ夫レ上帝ノ善徳ナル證據
 ハ甚ダ夥多ナルヲ以テ多少反對ノ事實アリト雖也決シテ之
 ヲ覆歴スルニ足ラザルナリ
 聖書ノ中上帝ガ徳性ノ完全ナルヲ証スルモノ殆ント數フル

ニ暇アラズ

(第一) 上帝ノ智慧ヲ証ス約百記九章四、十二章十三、羅馬書十
 一章三十三、三十四、哥林多前書二章十、以弗所書三章九、十等ヲ
 見ユ

(第二) 上帝ノ善徳ヲ証ス創世記十八章二十五、申命記三十二
 章四、詩篇第十一ノ七、第十九ノ七ヨリ十、第三十三ノ五、第三十
 四ノ八、第百七ノ一、八、羅馬書二章十一、雅各書一章十三、十七等
 ヲ見ユ

(第三) 上帝ノ神聖ヲ証ス申命記三十二章四、詩篇第五ノ五、哈
 巴谷書一章十三、雅各書一章十三、十七、約翰傳十七章十一、二十
 五、以賽亞書一章四、十章二十、二十九章十九、詩篇第十六ノ十、以
 賽亞書六章三、使徒行傳三章十四等ヲ見ユ

(第四) 上帝ノ祝福ヲ證ス創世記十四章二十、詩篇第六十六ノ

二十、羅馬書一章二十五、九章五、提摩多前書一章十一、六章十五等ヲ見ユ

吾人ハ今終ニ臨ンデ一言ヲ加ヘザルヲ得ズ果シテ前文論證スル所ノ如ク天地万物ノ造主大因原タル至仁至愛全能全智ノ上帝アリトセバ吾人々類タルモノハ將ニ何ヲ以テ之ニ對ス可キ豈ニ之ヲ識リ之ヲ愛シ之ヲ拜シ之ニ事ヘズシテ可クランヤ心力ヲ盡シテ之ヲ識リ之ヲ愛スルヲ勉メ心力ヲ奉シテ之ヲ拜シ之ニ事フルヲ勉ムルハ豈ニ造物タル人類ガ當然ノ義務當然ノ職分ニハアヲザルカ又果シテ至仁至愛ノ上帝アラバ必ズ其造物タル吾人々類ヲ愛ス可ク且ツ必ズ人類ノ爲メニ己ノ何者タルヲ啓示シ人類ガ自ラ陷リタル罪惡禍害ノ束縛ヨリ免レ得ル所以ノ方法ヲ指教ス可キ道理アルヲ見ルナリ若シ然ラズシテ上帝ニ於テ曾テ己ヲ人類ニ啓示セル

トナク曾テ人類ヲシテ其罪惡禍害ヲ免レシムル所以ノ方法ヲ設爲シタルトナクンバ上帝ハ則チ至仁至愛ノ神ヨリザルニ歸セントス何トナレバ救フ可キノ智救フ可キノ力アツテ而シテ尙人類ガ罪惡禍害ノ中ニ困苦スルヲ見テ少シモ願ミザルガ如キハ至仁至愛ノ上帝ニシテ忍ブ可クザル所ナレバナリソレ既ニ上帝ガ己ヲ人類ニ啓示シ又人類ノ爲メニ罪惡解脱ノ方法ヲ設爲スルノ理ニ於テ無カル可クザル事實ナリトセバ所謂其啓示方法ナルモノ世間豈ニ之ナクシテ可クランヤ否正ニ之アリ世人ノ見ザル所以ノモノハ願フニ其之ヲ求ムルノ足ラザルニユルノミ方今世界ノ宗教數多アリテ皆神ノ啓示ナリト稱シ罪惡解脱ノ方法ナリト稱ス然ラバ則チ孰カ果シテ真正ノ宗教ナルカ孰カ果シテ最モ真正ニ近キモノナルカ吾人ノ當ニ潛心深思シテ其真正ナルモノヲ求メ

其最モ眞正ニ近キモノヲ撰ブ可キノ要正ニ茲ニ在リ願クハ
世人之ヲ忽ニスル勿レ云爾

第二編 基督教證據論

ソレ神ハソノ生ミ給ヘル獨子ヲ賜フホドニ世ノ人ヲ愛シ給
ヘリ此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシテ永生ヲ受ケ
シメンガ爲メナリ (約三〇十六)

第貳編

基督教證據論

エホバノママハク苦ム者掠メヲレ貧シキ者歎クガ故ニ我イ
マ起テ之ヲソノ慕ヒ求ムル平安ニチカソ (詩十二篇五節)

第一章

第一證 衆多ノ宗教中唯ダ基督教ノミ上帝ノ人
類ニ賦與シタル宗教ナルガ如シ

吾人ハ第一編ニ於テ萬物ノ大原因アリ而シテ此大原因ハ睿
智ニシテ全能全智全善ナル有心者ナルヲ論ゼリ故ニ今吾
人ハ此大原因ナル上帝ノ己ヲ其創造セシ人類ニ顯現スル事
アル可キヲ望ミ得ベシ即チ吾人ハ子女社交飲食知識美妙等
ノ慾ヲ有スル人類ヲ創造シ而シテ此諸慾ニ應ズル凡テノ事
物ヲ造リテ之ヲ排列シ且惡事ノ爲ス可ヲザル事ト善事ノ爲

スベキ事トヲ指示スル其心ヲ人々ノ胸中ニ賦シタル上帝ノ
 必ズ其造物タル人類ヲ愛シ給フ可キヲ望ミ而シテ若シ此人類
 ニシテ罪惡ニ墮落シ苦愁絶望ノ中ニ陥ルトキハ然ルベキ方
 法ヲ以テ己レヲ此人類ニ顯現シ人類ヲシテ罪惡ヨリ免レシ
 ムベキ方法ヲ示シ且ツ之レヲ免レシメヨクニ最良ノ方法
 ナリ以テ之ニ其扶助ヲ與ヘ給フコトアル可キヲモ望ミ得ベシ
 斯ル事ハ無限ノ能力智慧仁愛ヲ有スル上帝ニ向テノミ望ミ
 得ベシ若シ人類ヲ扶助スルニ必須ナル智慧ト能力トヲ有シ
 テ之ヲ使用セズンバ上帝ハ仁愛ノ神ニ非ザルナリ此故ニ基
 督教ノ他衆多ノ宗教ト全ク異別ナルノ事實ヲ舉ゲテ基督教
 ハ上帝ヨリ賦與シ給ヒシ真正ノ宗教ナル所以ノ第一証トナ
 シ

テ他ノ宗教ト異別ナル点ヲ考究ス可シ素ヨリ吾人ハ理論上
 ヲリ上帝ガ如何ニシテ人類ニ自己ヲ顯現ス可キ乎又如何ニ
 シテ罪惡ト其刑罰ヨリ逃ルベキ道ヲ人類ノ爲メニ備フ可キ
 カヲ斷言スル能ハズ然レモ若シ斯ニ天啓アリトセバ左ニ陳述
 スル情狀アルヲ期スルコトヲ得

(一) 斯ノ默示ハ直接ニ上帝ヨリ出デ而シテ人間ノ思想ヨリ
 出デシモノニ非ザル可シ

(二) 斯ノ默示ハ創世ノ始メヨリ人類ニ賦與セラレシナル可
 シ蓋シ上帝ハ苦痛ト罪惡ニ滿チタル人類ニ自己ヲ顯現スル
 ニ數百年或ハ數千年ノ歲月ヲ待テ給フコト莫カル可シ必ズ
 人類ガ上帝ヲ需ムルト同時直チニ自己ヲ現示シ給フ可ク
 バナリ

(三) 此默示ハ神ヨリ出デタル價值ヲ有ス可シ即チ無限ノ能

力智慧慈愛ヲ有スル者ノ作セシ如キ默示ナルベシ語ヲ更ヘテ云ヘバ上帝ノ智慧能力慈愛凡テ人類ヲ救助スル事ニ關セラル見ル可シ

(四) 斯ノ默示ハ人類ノ性質ニ適合調和シテ人類ノ性質ヲ創造セシモノ、企謀セシ如キ救助ノ方法タル可シ且ツ十分ニ扶助、宥容、平和、來世ノ願望等凡テ人性ノ需用ヲ満足セシムル者ナル可シ

(五) 斯ノ如キ默示ニ關スル知識或ハ其記録ト又造化主ヨリ人類ニ啓示カレタリト表言スル宗教ノ世界人類ノ間ニ發見セラル、ユトアル可シ

是故ニ世界衆多ノ宗教中造物主ヨリ人類ニ賦與セラレシヲ表言シ且ツ前キニ陳列セシ情狀ト期望トヲ満足セシムル宗教アルヲ發見セバ吾人ハ精細ニ之ヲ檢査シ若シ真正ナル

バ之ニ從フベキノ義務アル也已ニ神ノ存在ヲ許ストキハ吾人ハ神ヨリ人類ニ啓示セラレタル真正ノ宗教世上ニ存ス可キユトヲ期望シ得ベシカレバ吾人ハ此ノ如キ宗教ノ世ニ存スルヲ疑フヲ無ク又之ヲ拒絕スル如キ偏頗ノ心ナクシテ之ヲ探鑿セザル可ラズ

今基督教ト他ノ宗教トヲ比較シテ我儕ハ左ノ如キ區別アルヲ見ル

(一) 衆多ノ宗教中獨リ基督教ノミ直接ニ上帝ヨリ賦與セラレシ事ヲ表言ス——回々教ノ如キハ例外ナルニ似タリト雖也而モ此教トテモ必竟ズルニ聖書ニヨリテ教基ヲ立テシモノナレバ彼ノ「モルモン」宗ト同ク亦是レ基督教ヨリ流出シタル誤謬ノ一支派ト云フニ過ギズ

基督教ノ基礎ハ神ノ愛ナリ約翰傳三章十六節ニ曰ク神ハソ

ノ生ニ給ヘル獨子ヲ降シ賜フ程ニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ蓋ハ
 凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシテ永生ヲ得セシメシガ爲
 ナリト夫レ神ハ誤謬ト罪惡トニ滿キタル人類ヲ愛シタルガ
 故ニ人類ニ啓示ヲナシ且ツ人ノ形ヲトリテ世ニ降り人ノ如
 シナリ人類ヲ救ハシ爲メ自ラ苦痛ヲ忍ビ死シ給ヘルニ至レ
 リ基督教ノ他ノ宗教ト異ナル点ハ此ニ在リ他ノ宗教ハ其基
 礎人ニアルモ獨リ基督教ノ基礎ノミ神ト其愛トニ在リ
 (二) 基督教ノミ獨リ人類ガ宗教ヲ要スルノ太始即チ人種ノ
 太始ヨリ起源セリ
 人類ノ罪惡ヲ犯シ救主ヲ要スルニ至ルヤ神ハ直チニ其仁惠
 ニヨリ救主ヲ約束シ且ツ救ノ道ヲ啓示シ給ヘリ
 舊約書創世記ヨリ馬刺哈ニ至ル迄ニ記サレシ如ク神及其救
 ノ道ノ漸次ニ啓示セラレシハ吾人ガ自然ニ期望ス可キ所ナ

リ是レ皆將ニ來ントスル完全ナル啓示ノ準備ニ外ナラザル
 モ尙約束ノ救主ニヨリテ當時ノ救ヲ得ルノ方法ヲモ設爲セ
 リ夫レ人類ハ完成シタル體軀ヲ以テ創造セラレ且ツ其心靈
 ノ能力モ亦完成セリトスルモ尙ホ最初ノ人類ハ知識ニ於テ
 甚ダ幼稚ナリシト言ハザル可カラズ即チ言語、學術、心靈上ノ
 知識ハ凡テ幼稚ナリシコト疑フ可カラズ蓋シ上帝ノ學及ビ
 心靈上ノ科學ハ六七千年ノ今日ニ於テ稍々其花ヲ開クニ至
 レルヲ見ルナリ夫レ人類ハ數千年ノ間教養ヲ受ケ殊ニユダ
 ヤノ人民ハ神ノ選民トシテ二千年ノ間格別ノ教養ヲ受ケタ
 ルニ拘ハラズ基督ノ弟子等ハ其教ヲ聞キテ其真意ヲ了悟ス
 ル能ハズ故ニ基督ハ其教ヲ後世子孫ニ傳ヘンガタメ其精撰
 セシ眞理ヲ譬喩ヲ以テ示ササルヲ得ザリシナリ然レモ之
 ガ爲ニ後世ノ人ヲシテ幾何ノ世代間ニ積集シタル心靈上ノ

學識ノ光ニヨリ初メテ其教ノ真義ヲ覺リ得ベカラシムルニ至レリ若シ救世主早ク此世ニ降リシナラバ其慈惠ノ事業モ多クハ損耗シタルナルベシ夫レ救主ノ事業、教訓、生涯、死亡等ヲ了悟シ且ツ之ヲ紀念スルニハ言辭ノ發達ト心靈上ノ觀念ノ發達トハ欠クベカラザル者ナリ加之ナラズ救主此世ニ降ルノ時ニ當リ是レ約束ノ救主ニシテ眞個ニ神ノ獨子ナルヲヲ顯ラカニシ得ルヌメニハ數千年ノ間其證據ヲ積集スルモ亦欠ク可ラザルヲナリ而シテ此積集セシ證據ハ日中ノ熾灼タル太陽ノ如ク明白ナラザル可ラズ然ラザレバ人類ハ神ナル救主ヲ接ル能ハザルナリ斯ノ如ク舊約書中ニ記錄シアル歴史、預言、儀式、等ノ目的ハ基督降臨ノ準備タルニ外ナラズ古昔ノアト其正シキ家族ノミ大洪水ノ難ユリ救ハレシ事アリ(彼得前三〇二十)若シモ人類ノ惡虐ナル種族ガ當時ニ在リテ滅亡セ

シナラバ恐クハ神ノ名ハ人類ノ間ニ全ク速ニ忘却セラレ而シテ約束ノ救主ガ依リテ以テ生ルベキ正義マシキ人種ヲ能ク救フ能ハザリシナルベシ
 前述ノ目的ヲ以テアブラハムモ紀元前二千年ノ頃既ニ偶像ヲ崇拜セントスルノ傾キアリタル其ノ國ト其ノ種族トヲ離去ルベキ命ヲ受ケ偶像崇拜ノ誘惑モ左シテ強カラザル異邦ニ住居セシナリ(約書亞二一四〇二)
 又ヤエブ及ビ其家族ハ埃及ニ言語モ通セザル異邦人民ノ中ニ數百年ノ間留居シ而シテ後休徵ト奇跡トニヨリテ埃及ヨリ救ヒ出サレ四十年ノ間夜モ日モ神ノ現在シタマフアキ顯カナル休徵ヲ其眼前ニ見又シナイ山ニ於テハ爾來一千五百年ノ間其服従シタル律法ト基督贖罪ノ型儀トシテ毎日眼前ニ執行シ來リシ種々ノ表象ノ禮拜ヲ含有セル令典ヲ耶華和ヨリ

直接ニ受ケタリ此時ニ際シ毎年一度大祭禮ノ日ニ於テ人民
 舉リテ宮殿ノ内外ニ集會スベキ命ヲ受ケ各家族皆其待テ望
 ミシ救主ノ表象タル犧牲ヲ殺シテ神ノ前ニ捧ゲマツリシナ
 リ(哥林多前書五〇七)然ル後預言ノ如ク定リタル時ニ於テ舊約ノ凡テノ
 儀型ニ應シ又爾來其名ニヨリテ教ヘテレタル眞理ニ付キ完
 全ナル法式ヲ與ヘンマメ約束ノ救主ハ來リ給ヘリ且ツ其苦
 ミト死トニヨリテ人類ガ要スル完全ナル救主トナリタマヒ
 タリ
 斯ノ如ク吾人聖經ヲ見ルトキニ基督教ハ人種ノ創始ヨリ起
 算シ最初數千年ノ間ハ基督ニ關スル表号的ノ宗教ニシテ而
 ノ基督ハ實ニ全教典ノ中心タリシ事ヲ發見スベシ舊約全書
 ハ果シテ吾人ガ期望スルガ如キノ記録タルナリ且新舊兩約
 書ハ相待ツテ始テ全ヲ得蓋ハ此兩約書中唯一ノ救主唯一ノ

道唯一ノ目的アレバナリ

(三) 基督教ノモ獨リ人心ニ直入シテ之ヲ潔クシ之ヲ新ニシ
 以テ各人ト社會トヲ改革セント欲スルノ宗教ナルヲ見ル夫
 レ基督教ノ目的ハ直接ニ各人ト社會トヲ改革スルニ在リ而
 シテ其改革タルヤ表面ノ改革ニ非ズ故ニ直接ニ人ノ習慣風
 俗ニハ關セズト雖モ人心ニ接シテ之ヲ改革シ以テ之ヲ潔ク
 シ之ヲ新ニスル者ナリ此点ヨリシテ基督教ト他ノ宗教トノ
 間ニハ最モ廣大ナル區別ノ存スルコトヲ見ル可シ即チ
 (四) 獨リ基督教ニ於テノミ神ハ働キ給フ是ナリ夫レ人間
 ハ自力ヲ以テ其罪ヲ贖フ能ハズ人間ハ自力ヲ以テ其心志
 ヲ變化シ清淨ニスル能ハズ然レバ此驚クベキ人心ヲ創造セ
 シ神ハ人間ヲ救フ爲ニ來リ而シテ人間ト共ニ働キ給フナ
 リ抑モ基督教ノ大中心トモ稱スベキ事實ハ神ナル救主ニ在

リ神ハ人間ガ罪惡ニ沈淪シ之ヲ愛シ自ラ之ヨリ釋ル能ハザ
 ルヲ見、自ラ天ノ榮光アル位ヲ棄テ基督トナリ已チ邁ダツ
 テ人間トナリ人間ノ中ニ住ミ且ツ苦シミ且ツ死セリ斯ノ如
 クシテ人間ニ神ヲ顯ハシ又神ノ無限ナル愛ヲ顯ハセリ
 基督ハ人間ノ爲ニ苦ミ其罪惡ヲ贖ヒ再ヒ天ニ在ル榮光ノ位
 ニ昇レリ而シテ人間ノ中保ヲ爲サシメ限リナク其處ニ住
 シ給フナリ
 斯ノ如ク救主ハ人間ノタメニ苦ミ給ヘリ即チ神ハ人間ノ爲
 メニ苦シミ且ツ死スル事ヲモ好トシ給フ程之ヲ愛シ以テ驚
 クベキ慈愛ヲ世ニ顯ハシ給ヘリ此苦ミ此慈愛此救主ハ人間
 ノ注意ヲ引キ神ニ就テ思ヲ運ラシ又慈愛ノ神ニ逆ラテ犯セ
 シ自己ノ罪ヲモ考ヘ之ヲ悔改メテ神ニ服従シ且ツ神ヲ愛ス
 ルニ至ラシムルノ力アリ

斯ク神ノ爲シ給ヒシ贖罪ハ宇宙ノ凡ユル造物ノ前ニ神ノ愛
 ト罪惡ノ恐怖ルベキ性質トチ顯シテ彼等ガ神ニ逆ラテ好マ
 ズ寧ロ限リナク神ニ忠實ナラントチ好マシムル者ナリ
 罪惡ニ染メル人類モ亦神ガ罪惡ニ向ツテ充分ナル贖罪ヲナ
 セシト又神ハ罪惡ヨリ生シ來リシ害惡ヲ補フタメニ無限
 ノ能力智慧及ヒ慈愛ニヨリテ其成能フ凡テヲ爲セシトチ感
 得シ而シテ其贖罪ニヨリテ安心ヲ得其宥恕ニヨリテ平和ト
 喜樂トチ得ル者ナリ
 人類ヲ助クル爲メニ神ハ只ダ基督トナリテ降臨シ給フノミ
 ナラズ又聖靈トナリテ來リ勉テ吾人ノ心靈ヲ感化ス聖靈ハ
 吾人ト交ハリ吾人ノ罪ト神ノ愛トチ顯ハシ吾人ヲシテ罪ヲ
 悔ヒ罪ヨリ遠ザカラシメン爲ニ降臨リ給フ加之ナラズ此驚
 クベキ吾人ノ心靈ヲ作爲シタル創造者ハ人心ヲ新ニシ之ヲ

潔メ之ヲ繕ハソガ爲ニ降り給フナリ夫レ人類ハ幾分カ自ラ
 其戻レル心ヲ匡正スルヲ得可キモ全ク之ヲ變シ其汚レタル
 ヲ清淨ニシ之ヲシテ再ビ正善ナラシムルハ只造物者ノミ之
 ヲ能クス可シ
 夫レ神ハ聖靈ニヨリテ斯ル大ナル働キヲ爲シ給フナリ即チ
 人ノ心靈ヲ導キテ神ヲ撰ニ神ヲ愛シ神ニ交ハリ且ツ人類ヲ
 シテ聖靈ニヨリテ常ニ神ト交ルヲ愛スルニ至ラシム神ハ吾
 人ノ中ニ在リ吾人ハ神ノ中ニアリ神ノ靈吾人ノ靈ト連ナリ
 之ヲ清メ之ヲ新ニシ且ツ神ハ吾人ガ心靈ノ生命トナリテ共
 ニ在リ給フナリ(加拉三)
 然レバ基督教ニ於テハ人類ガ自ラ己レノ罪ヲ贖フニ非ズシ
 テ神ノ之ヲ爲スヲ吾人ハ知ル也夫レ神ハ聖靈ノ助ニヨリ
 テ之ヲ爲シ只ニ人間ノ惡シキ習慣ヲ改ムルノミニ非ズシテ

其心ヲモ變化セリ自己ヲ第一ニシ自己ノ満足ヲ第一ニスル
 自利心ヲ化シテ神ヲ第一ニシ他人ヲ其次ニシ自己ヲ最後ニ
 スル博愛ノ心トナセリ此故ニ其新タニ化シタル心ヨリ出ル
 モノハ正善ナル思想ト正善ナル言語ト正善ナル行爲ナリ
 譬ヘバ基督教ハ濁レル源泉ヨリ流レ出ヅル水ヲ濾シ之ヲ清
 クスルニ非ズシテ直チニ其源泉ヲ清ムルモノナレバ之レヨ
 リ流ル、水ハ清クシテ且ツ甘美シキモノナリ基督教ハ只ダ
 法律ト牢獄トニヨリテ社會ニ流布スル害惡ノ勢力ヲ制限ス
 ルニ非ズシテ凡テノ害惡ノ根源ニ至リ其心ヲ化シ且ツ人間
 全体ヲ高尚ニス故ニ基督教ヲ信シテ之ニ服従スル社會ニ於
 テハ一ノ牢獄モ必要ニ非ザルナリ其例ヲ舉グレバアイスマ
 ンド(氷島)ニ於テ多年ノ間其牢獄中ニ一人ノ囚人モ無キ時アリ
 シ又合衆國アイチワ州ノグリントンチルト云ヘル市街ハアイチ

「天學ノ在ル所ナルガ明治十六年著者ガ此市ニ赴キシ時ニハ市街建設以來凡ソ二十五年ナリシモ一人ノ牢獄若クハ懲矯院若クハ貧院ニ入りタル者アラザリシト云ヘリ是實ニ基督敎ガ人心ヲ教化シ且ツ社會ヲ改良スルノ著明ナル証據ナリ若斯ル例ヲ舉ケレバ其數モ少クニ非ザルナリ

(五) 獨リ基督敎ノミ完ク人間ニ適シタルモノナリ夫レ創造者ニヨリテ準備セラレ又賦與セラレタル宗教ハ人間ノ需要ニ適合セザル可カラズ而シテ吾人ハ基督敎ガ實ニ斯ル宗教ナルコトヲ發見セリ故ニ凡テ人類ノ直覺、本能及ヒ其正當ナル感情等ニ能ク調和セルヲ見ルナリ基督敎ハ佛教ノ如ク彼ノ家族ノ快樂社會ノ快樂、智識ノ快樂等ヲ捨テ隱遁シ素食粗餐ヲ以テ枯稿セル生活ヲナシ妻子モ交友モナキ隱仙ノ所爲ヲ學ブコトヲ敎ヘザルナリ其敎ユル所ハ正ニ之ト反對ニシ

テ人性ノ最強ナル願欲ヲ罪惡トシテ抑制シ滅絶スルニ非ズシテ却テ其適當ナル快樂ヲ要シ且ツ人生ト社會ノ基礎ハ眞個ニ之ニ依屬スルモノトナセリ神ハ家族ヲ以テ教會ト邦國ノ基礎トナシ其兒童ヲ鞠育訓練シテ基督信者タルノ生涯ヲ送り基督信者タルノ事業ヲナサシメ而シテ天堂ノ永遠無限ナル樂郷ニ住マシムルハ人間ノ爲スベキ尤モ肝要ナル事件トナセリ神ハ吾人ノ嗜欲ト願欲ノ一ヲモ罪惡トナサズ却テ適當ナル方法ニヨリテ此等ヲ満足セシム可キヲ命セリ是ノ如ク基督敎ハ全ク人類肉体ノ天性ニ和合セルヲ見ルナリ蓋シ肉体ノ嗜欲願欲一トシテ満足セシム可カラザル者ナキノミナラズ反テ其敎ニ適フテ之ガ正當ノ満足ヲ得ルルハ肉体上ノ最大快樂ヲ享ルヲ得可シ

又基督敎ハ人間ノ心意即チ其智力ニ適合シ決シテ其十分ナ

ル作用ト開發トヲ妨ゲ又之ヲ害セザルナリ夫レ基督教ニ關
 スル高尙ナル問題ニ就テ思ヒ運ラシ且ツ學ブ事ハ人間ノ智
 力ヲ高尙ナラシメ之ヲ開發シテ其性分ヲ盡カシムル者ナリ
 世界ニ高名ナル大學者ノ多數ハ熱心ナル基督信者ニテアリ
 シ又方今文明世界ニ於ケル著シキ學者ハ大概チ基督信者ナ
 リトス基督教ガ人心ニ與フル處ノ平和ト安樂ト調和ト希望
 トハ深遠ナル熱心ナル間斷ナキ學問ニ向ツテ大ニ裨益スル
 所アリ
 又吾人ハ前項ニ論ゼシ如ク基督教ハ全ク人間ノ心情ニ適合
 スルモノナリ宇宙ノ最高ナル實在者ハ來リテ人間ノ罪惡ヲ
 贖ヘリ之ニヨリテ人間ハ安心スルヲ得ベシ加之ナラズ此神
 ハ來リテ人心ヲ新ニシ之ヲ清淨ニシ愛ニヨリテ之ヲ已ニ驅
 キ其交リニ入レ又常ニ人心ニ寓リテ之ヲ助ケ天ニ於テ神ノ

在ヤス前ニ於テ永遠無窮ノ生命ニ至ラシム
 人間ノ作りシ宗教ハ人間ノ心ヲ満足セシムル能ハズ之ニ反
 シテ古今眞實ニ耶穌ニ歸依シタル人類ニシテ其心不満足ニ
 テ在リシ者非ザルナリ(太二十一)

又基督教ハ凡チノ人種凡テノ時代凡テノ情狀ニ關ラズ凡テ
 ノ人間ニ適合スルモノトス若シ此宗教ニシテ神即チ人間ノ
 創造者ヨリ出テタルモノトセバ其人間ニ普ク適合ス可キハ
 吾人ノ豫メ望ム可キ所ナリ而シテ吾人ハ基督教ノ眞ニ斯ク
 アルヲ發見スルナリ基督教ハ彼ノ迷信ト無知トノ傍ニア
 リテノミ存在スル回々教ノ如クナラズ又亞細亞ノ境界線ヲ脱出
 ミ流布スル「ブラマ」教ノ如クナラズ又亞細亞ノ境界線ヲ脱出
 スル能ハザル佛教ノ如クナラズ而シテ凡テ此等ノ宗教ノ如
 ク人間ガ宗教ヲ需ムルノ須要起リテヨリ數千年後ニ現出シ

タル者ニ非ズ凡テ此等ノ宗教ノ如ク文明開化ノ進歩ト共ニ
 衰滅死消スルノ徵候ヲ表呈スル者ニ非ズ吾人既ニ述タル如
 ク基督教ハ人種ノ創造ニ起因シ亞細亞ヨリ始マリタレドモ
 亞細亞ニ止ラズシテ全世界ニ蔓延シ國々嶋々殆ソト基督教
 ノ至ラザル所ナク各種族ノ人民ト各時代ノ人民ト各情狀ノ
 人民ニ適合シ其觸ル處傳ハル處野蠻ナル人民ヲ變シテ文明
 ノ民トナシ全世界ヲ驚駭セシメタリ且ツ文明ノ度高ク開化
 ノ量大ナル時代ト場所トニ於テ衰滅ノ態ヲ呈セザルノモカ
 英國、獨乙、北米合衆國ノ如ク尤モ文明ト開化ニ達シタルノ邦
 國ハ是レ基督教ガ世界ニ於テ今日尤モ勢力ヲ有スルノ地方
 ナリトス

(六) 基督教ハ其傳播ノ方法ニ於テ凡テ他ノ宗教ト異ナリ回
 ヲ教ハ刀劍ノ力ニヨリテ傳播セラレ他ノ宗教モ其傳ハリシ

國ノ習俗ト適合セシメントテ其儀典方式等ヲ變更セリ例ヲ
 舉ゲバ彼ノ佛教ノ如キ支那朝鮮ヲ經過シテ日本ニ傳播セリ
 支那ニ於テハ儒教ト連ナリ日本ニ於テハ神道ニヨリテ變形
 セラレタリ故ニ今日日本ニ行ハル、佛教ハ印度ニ起リシ佛
 教ニ似タル形跡モ殆ソナキ有様ナリ基督教ハ然ラズ其傳
 播セシ邦國ノ習俗、宗教、制度ニ適合セントシテ變化スルコト
 莫シ基督教ハ唯一ノ生ケル具ノ神ヲ認識ス而シテ此點コソ
 他ノ禮拜ノ方式ト調和シ得可ラザル點ナリ他ノ宗教ハ禮拜
 ニツキ最大ノ自由ヲ許容セリ例ヘハ支那人ノ如キ孔子、佛陀、
 老子ノ宮ヲ禮拜スルニ區別アルコトナシ日本人モ佛陀及ヒ
 神道ノ宮ニ於テ同シク禮拜ヲナセリ然レモ基督教徒ハ斯ノ
 如ク宗教上ニ於テ汎然漠然タルコト能ハズ古昔數億ノ基督
 信者ハ羅馬帝王ノ像ヲ拜跪スル能ハザルガ故ニ或ハ迫害ニ

遭ヒ或ハ死刑ニ附カレタリ且ツ他ノ宗教ハ人民ヲ感發セシ
メントシテ華美ナル殿堂ト法式トニ依頼セリ日本國中ニ在
ル神社佛閣ノ價值ハ全國人民ノ家屋ヲ合算シタル價值ニ比
スベシト云フ

基督教ハ神ノ眞理ニヨリテ人心ヲ感化スルノ力ニ依頼ス而
シテ其傳播モ只單ニ此眞理ヲ説キ之ヲ訓ヘ之ヲ行フニ因ル
ノミ故ニ其始メテ傳播シタル國ニ於テハ基督信徒タル者ハ
嘲弄、迫害、困厄等ニ陥ルニ係ラズ之ヲ接ケ之ヲ信ヲ屢ク之ガ
爲ニ其生命ヲ犠牲トスルニ至レリ

第二章

我モシ地ヨリアゲラレナハ萬民ヲ引キテ我ニ就セシ

基督(約十二〇三二)

第二証 即チ歴史上ヨリ基督教ノ眞正ノ宗教ナ
ルコトヲ証ス

基督教ガ過ギシ千八百年間ノ驚クベキ歴史ヲ吟味スル時ニ
ハ其神ヨリ出ヅシ事ノ明了ナル證據ヲ發見シ得メシ
プラマ教ノ教祖ハ印度ノ學者等ナリ佛教ハ高尚ナル教育ヲ
受ケタル印度ノ王子釋迦ニ起因セリ之ニ反シテ基督教ガ教ヘ
シ完全ナル教法トシテ世界ニ知ラル、所ノ基督教ハ無學ナ
ル人々ニ起因セリ基督ハ加利羅亞ノナザレト云ヘル一小寒
村ノ貧困ナル大工ノ家ニ生長シ其弟子等ハ漁者ニシテ無學
ナル人々ナリ而シテ彼等ヲ親炙シ給ヒシ事只ダ三年ニシテ
賤辱ナル死ニ附サレ弟子等モ全ク落膽シテ散亂セリ凡テ彼
等ノ望モ基督ノ死骸ト共ニ埋没セリ基督教其者モ基督ノ死
骸ト同ヨク墓中ニ葬ラレタリ基督ニシテ若シ其墓中ヨリ來

現スル莫カリセバ基督教ハ決シテ世ニ知ラレザリシナルベシ基督教ノ更生ハ基督教ノ存在ニ必要ナリ而シテ此更生ハ基督教ノ神タル一証ナリ

又基督教ノ天ニ昇リシ時ニ無學ナル數百信者ノ小群ハ全世界ヲバ對敵ニ引受タリ他ノ宗教ニシテ一モ基督教ノ如ク普ク世人ニ憎惡セラレ又迫害セラレタル者ハ非ズ實ニ三百年間羅馬全帝國ノ勢力ヲ傾ケテ之ヲ碎滅セシユトテ勉メタリ基督教ハ猶太人民ガ千五百年間遵守シタル古昔猶太ノ禮典モ基督教ノ死ヲ指シタル者ナル事ヲ教ヘ猶太人ノ正シク其責ニ當ル可キカノ基督教ノ死ハ猶太ノ聖典ヲ廢滅棄絶シタル者ナル事ヲ教ヘタリ故ニ此等ノ事ハ猶太人民ヲシテ新教法ニ向テ猛烈ナル警敵ヲラシメ又猶太ノ議院ヲシテ新信仰ヲ滅スルタメニ凡テノ勢力ヲ用ヒシメタリ利カヘソウロチダマス

コニ遣リ其市中ノ信者ヲ縛シエルサレムニ携ヘ來ルノ命ヲ下スニ至レリ而シテ或者ハ死ニ附カレ新信仰ノ道ヲ信ズル者ハ東西ニ散亂セリ(徒九〇一、二同八〇一、四同十一、〇十九、二十)

基督教ハ羅馬人ノ手ニユリテモ亦善ク遇セラレ、一莫カリシナリ夫レ征服セシ各國民ノ宗教ヲ公許スル事ハ羅馬帝國ノ政界ナリシユエ此習俗ニユリ彼等ハ猶太教ヲ公許セリ而シテ其會堂ハ羅馬帝國ヲ通シテ猶太人ノアル處ニ建設セラレタリ

然レ其ノ征服セシ邦國ガ禁制セル宗教若クハ彼等ノ信仰ニ反對セル宗派ヲハ酷烈ナル刑罰ヲ設ケテ禁壓スルハ亦羅馬帝國ノ慣用セシ風習ニシテ此風習ニ從ヒ基督教ヲ禁壓シ且ツ其信者ヲ迫害セリ羅馬帝國ガ基督教ニ敵スル他ノ理由ハ基督教信者ガ羅馬ノ神廟ニアル諸神殊ニ其帝王ノ像ヲ拜スル

事ヲ拒絕セシニ因由セリ此等ノ理由ニヨリ羅馬帝國ハ其全
 カヲ舉テ三百年ノ間屢々新宗教ヲ撲滅セント欲シ之ガ爲ニ
 數百萬ノ人ハ苦メテ數百萬ノ人ハ死ニ處セラレタリ左レ
 ト此新宗教ヲ迫害スルコト愈々多クレバ愈々多ク傳播シ四
 世期ノ初メニハ帝王彼レ自ラモ基督教ヲ信シ遂ニハ羅馬帝
 國ノ國教トナルニ至レリ
 然ルニ今却テ一ノ新奇ナル危難ヨリ起リ來レリ基督教ノ迫
 害モ止ミ剩カヘ國教トナリ其聲價愈々増シ加ハリシカハ基
 督教モ爰ニ漸ク腐敗ニ趨キ異宗教ノ禮拜式其中ニ流入シ首
 府大都ノ監督ハ權力ヲ借奪シ教會内ニモ高位高官ヲ創設シ
 漸々羅馬迦特力教(天主)ノ大組織コソ顯出セリ此時ニ當リテ
 有名無實ノ教會ハ轉リテ新教條ニ同意ヲ表スルコトヲ拒絕
 シタル忠實ナル基督信者ノ迫害者トナリ一千年間有名無實

ノ教會ハ愈々腐敗シ益々壓制ヲ施シ殆ト真正ノ基督教ハ滅
 絕スルノ危キニ際會セリ此ノ危難ニ加フルニ野蠻ノ群隊ハ
 歐羅巴ノ北ヨリ東ヨリ闖入シテ羅馬帝國ヲ覆滅シ基督教國
 ノ大ナル諸學校ト圖書館トヲ破壊シ遂ニ中世ノ暗黒ハ歐羅
 巴全土ヲ覆フニ至レリ基督教ハ此腐敗、壓制、無知、ノ三大敵ニ
 向テ抑モ勝利ヲ得可キヤ否ヤ是時ニ當リ此等ノ敵ハ殆ンド
 教會全般ニ蔓延セリ而シテ此等ノ敵ハ悉ク福音ノ精神ニ反
 對セリ斯レバ數百年間基督教ハ殆ンド消亡シタルガ如クニ
 見エタリ又僧侶間ノ腐敗ハ恐怖ル可キ狀況ニシテ羅馬ニ於
 テ法王ノ多クハ尤モ破廉耻ナル鄙俗ナル行爲ヲ成シ其風習
 延ヒテ殆ンド全般ニ涉レリ例ヲ舉グレバ第十五世期ノ終ニ
 當リヘンリー七世ノ支配下ニアリシ英國ヲ見ユ法王イソノ
 セント八世ガ其君牧師ナルモルトンヲ遣ハシテ英國ノセン

トアルバンノ寺院ヲ檢閲シテ報告セシメタルハ當時其寺院
 内ニアル僧尼輩ノ醜聞汚行既ニ早ヤ不問ニ棄置ク可ヲザル
 ナリテナリ而シテ君牧師モルトンハ精細ナル吟味ノ後其結
 果トシテ記録中ニ寺院ノ僧侶ハ附屬セル尼院ノ女伴ト汚行
 淫縱ノ生活ヲ爲セリ又之ニ近接シタルレノ尼院ハ妓樓ニ
 異ナラズ尼院ノ首タルモノヨリシテ公然僧侶ノ一人ト姦淫
 ナ爲シ居タルコト等ヲ登載セリ

教主政體生長シテ監督、僧正、君牧師、法王、等ハ福音ニ爾等ヲヒ
 ノ稱ヲ受クル勿レ汝等ノ師ハ一人則チ基督ニシテ爾等皆兄
 弟ナリ又地ニアルモノチ父ト稱ル勿レ爾等ノ父ハ一人則チ
 天ニ在ス者ナリ又導師ノ稱ヲ受ルコト勿レ蓋ハ汝等ノ導師
 ハ一人則チ基督ナリ(馬太廿三〇八)又(馬太廿三〇九)異邦人ノ君ト見ルモノハ其民
 ナ治メ又大ナル者共ハ彼等ノ上ニ權ヲ取ル此レ汝等ガ知ル

トコロナリ然レト汝等ノ中ニハ然ス可ラズ然ト爾曹ノ中大
 ナラムト欲スル者ハ爾等ニ役ル、者トナラン又爾等ノ中首
 タラント欲スル者ハ凡テ人ノ僕トナラン蓋ハ人ノ子ノ來
 ルモ人チ使フタメニアラズ却テ人ニ使ハレ又多ノ人ニ代リ
 其生命ヲ與ヘテ贖トナラン爲ナリ(馬可十〇四)ト言ヒ給ヒシ
 基督ノ教ニ反スル權力ヲ僭ミ且ツ之ヲ施行セリ而シテ數百
 年ノ間羅馬法王ハ歐羅巴ノ凡ノ帝王ヨリモ尊バル、ニ至レ
 リ歐羅巴ノ帝王等ガ法王ノ手ヨリシテ其冠冕ヲ受ントテ其
 嘗テ跪キタル所ノ平區ナル白班紅石ハ今尙羅馬ノ聖徒彼得
 ノ大會堂ノ床中ニ見ルコトヲ得ベシ且ツ暗黒時代ノ無知無
 學ハ人民全體ニ及ビシカバ之ヲ欺キテ凡テ是等ノ腐敗シタ
 ル新法ニ服從セシムルコト容易ナリシナリ苟ニモ此等ノ惡
 習ニ服從セズ又教會ノ中ニ安置シタル聖母聖徒ノ像ヲ禮拜

セザル熱心ノ基督教徒ハ或ハ迫害ヲ蒙リ或ハ死刑ニ處セラレ其數百万ヲ以テ數フルニ至レリ
 凡テ此等ノ腐敗、衰頹、奸惡トニ關セズ基督ノ教會中ニハ尙ホ彼ノ羅馬ヲ征服セシ北狄蠻人ヲ表面ノミニテモ改宗セシメ又第十三世期ノ終ラザル以前ニ歐羅巴全洲ノ國民ヲシテ名義上ノミニテモ基督信者ト爲ス程ニ北狄蠻人ノ中ニ福音ヲ傳フルノ勢力ヲ有シ純正ナル信仰ト靈ノ禮拜ヲ保持スル忠實ナル基督ノ徒モ亦少カラザリシナリ以太利ノ溪谷ニオアルノ海畔南セルマンノ森林並ビニボヒミヤノ野ニハ獨リ基督ヲ信奉シ新約書ニ記載セル其教訓ノミニニ循ヘル忠實ナル信者數千ヲ以テ數ヘリ如何ナル威迫モ牢獄モ死モ基督ニ於ル彼等ガ單純ナル信仰ヲ奪フコト能ハズ第十四世期及ヒ十五世期ノ間ニハウヰクリーフ、ホス、ヂエローム、ノ如キ者英國並

ニボヒミヤニ顯ハレ其中二人ハ焚殺サレシト雖モ是ナシ後ノ一世期ニ起リ來リシ宗教改革ノ率先者トハナレリ
 借此腐敗セル教會ノ改革ハ教會ノ中ヨリ起レリ第十六世期ノ始メニ於テ一人ノ貧困ナル僧侶アリ有名無實ノ基督教會中ニハ殆ンド知ル者モ無カリシ新約書ヲ發見シテ頻リニ之ヲ勉學シ聖靈ニ誘導セラレ終ニ教會中ニ浸入セシ腐敗ノ改革ヲ起シケルガ法王モ之ニ抗ズル能ハズ殆ンド歐羅巴ノ大半ヲ羅馬ヨリ分離セシメ而シテ北歐ノ教會ヲシテ基督ト其使徒等ガ置シ基礎ノ上ニ建設セシメヨリ爾後實ニ教理ノ討求ニ二百年ヲ消費セリト雖モ遂ニ第十九世期ノ始メヨリシテ基督新教徒ハ世界征服ノ大運動ヲ始ムルニ至レリ是ノ如ク腐敗ノ化石トマデナリタル全教會ヲ一變シ之ニ代ヘテ健全ナル教會ヲ建設シ又其餘勢ハ延イテ多少羅馬ノ教會ヲモ

新ニシ改革スルニ至リタル此勢力ハ基督ノ福音ガ神ヨリ出
 テ神ヨリノ活力ヲ有スル最大ナル論証ノ一ナリトス
 基督教ガ其腐敗ヲ一洗シテ宣教ノ大業ヲ爲スニ至リシ以來
 現世期間ニ於テノ其傳播ト其現今ノ情狀ト勢力トヲ合セ見
 ルトキハ曾テ記録セラレシ歴史中尤モ驚ク可キノ卷冊ヲ作
 爲スル者ナリ「エンサイクロピデヤ、ブリタニカ」(英國百科全書)第九版
 中基督教ト云ヘル條款ノ記者ハ能クモ此事ヲ論述シテ曰ク
 「間斷ナキ健全ナル基督教ノ生長ハ屢々避ク可カラザル潮勢
 衰落ノ時期アルニ關セズ活力アル生命ヲ有シ且ツ多ク腐敗
 ノ源泉ノ湧出スルニ關セズ常ニ自ヲ再新スルハ其神ヨリ出
 デ又世界ニ於テ其立ントスルノ地位ニ尤モ適合スル非常著
 明ノ証據ナリ」ト
 暫ラシ現世期間合衆國ニ於テ新教ノ生長セシ有様ヲ一見セ

ヨ千八百年ノ頃ニハ住民ノ十五人ニ付キ殆ンド一人ノ信仰
 者アル比例ナリシモ千八百八十年ノ頃ニハ人口五人ノ中一
 人以上ノ信者ヲ見ル比例トナリ人口ハ九倍半ノ割合ニテ増
 加セシニ新教徒ノ員數ハ二十七倍半ノ増加ヲナセリ吾ガ教
 會中幾多ノ價值ナク且ツ半信ノ信者アリト雖也然トモ此等
 ノ者トテモ百年以前ト比較シテ割合ニ減少セシコトハ慥カ
 ナル事實ナリ現今合衆國ニ於テ基督教會ノ熱心ト其活動ト
 ハ百年前ニ比シテ數倍ノ増加アリ千八百年ノ頃ニハ合衆國
 ニ於テ一ノ外國傳道會社モ存在セズ千八百十九年迄外國傳
 道ノ爲メ合衆國ニ支出セシ金ハ只二十万〇六千二百十洋銀
 ナリシモ千八百七十年ヨリ千八百八十年ノ間ニ支出セシ金
 額ハ二千四百八十六万四千四百八十二洋銀ニシテ即チ百二十
 四倍ノ増加ナリ千八百二十年迄、合衆國ニ於テハ内國傳道ニ

向ツテモ甚少シク其力ヲ盡セシノミ而シテ千八百二十年ヨリ千八百二十九年迄内國傳道ノ爲メ支出セシ總金額ハ僅々二十三万三千八百二十六洋銀ナリシモ千八百七十年ヨリ千八百八十年迄ノ支出金ハ三千百二十七万二千百五十四洋銀ニシテ殆ソト百四十倍ノ増加ナリ斯ノ如ク人口ノ増加ハ只ダ八倍乃至九倍ナルモ内國外國ノ兩傳道ニ向ツテ支出セシ金額ハ百三十倍乃至百四十倍ノ増加ナリ

千八百八十年ニハ合衆國ヨリ布教セル外國ノ傳道地若クハ派出地殆ト二万ヶ所其地ニアル按手禮ヲ受ケタル内外宣教師七千人此外平俗ノ助手殆ト三万五千人ニシテ此外國傳道ニ連帶シタル百万有餘ノ信者アリ畢竟外國傳道ハ大抵現世期ニ於テ創始セシモノト云フ可ケレモ殆ト世界ノ各部ニ於テ其事業ハ長足ノ進歩ヲ成シツ、アルナリ

第三章

幽暗ヲアユメル民ハ大ナル光ヲミ死蔭ノ地ニヌメル者ノ上ニ光ヲラセリ

(以賽亞九〇二)

第三証 聖書ノ感化力ヨリ基督教ノ眞理ナルコトヲ証ス

多クノ劣等ナル野蠻ナル人民ノ間ニ基督教ニヨリテ成就カレタル感化ハ他ノ宗教ノ教化ノ結果ト異ナリテ世界ノ歴史中ニ未ダ嘗テ見ザル處ノモノナリ先ヅサントウウヰツチ嶋ノ例ヲ見ルベシ或ル懷疑論者ハ此嶋民ガ道德ノ上ニモ知識ノ上ニモ各般ノ点ニ於テ英國合衆國ト比較シテ同等ナラザルガ故ニ其嶋ニ於ル基督教ノ功績ヲ非難スル者アリ彼等ハ十世期間モ宗教上ノ教化ヲ受ケシ國民ト比較ス可キニ非ズ然

レモ未ダ基督ノ福音ガ感化セザリシ七十年前ノ彼等自身ト
 比較スベキナリ千八百十九年ニ七人ノ宣教師ハ其妻子ヲ携
 へ波斯頓ヨリ出帆シ百六十三日ノ長航海ノ後稍クホノロロ
 港ニ碇泊セリ彼等ノ上陸ヲ許ス可キヤ否ヤノ疑問ヲ該島ノ
 王ガ決定スル迄二週間小船ノ中ニ待居リシガ終ニ王ハ小兒
 ナ合シテ二十二人ノ一小群ニ上陸シテ荒蕪タル草屋ニ住居
 ス可キ認可ヲ與ヘタリ憐惡ナル外國人ハ宣教師等ガ基督ノ
 福音ヲ教ユル事ニ依リテ其憐惡ナル所業ヲ妨ゲラレノ事ヲ
 恐レ種々ノ方法ニヨリ王ヲ蠱惑シ宣教師ヲシテ滞留セシム
 ルヲ防遏セント試ミタリ而シテ彼等ノ妨害ハ殆ト成功シテ
 一度ナラズ宣教師ノ生命モ殆ト危難ニ見ヘタルヲアリシ
 今此宣教師ノ小群ガ來リシ處ノ嶋民等ハ其狀態果シテ如何
 ナリシゾ殘虐、嗜慾、迷謬、瘴猛ノ中ニ沈淪シ裸躰ニシテ恥ヲ知

ラズ殆ト婚姻家族ノ法ヲ知ラズ婦人ニシテ或ハ神殿ニ近
 ヅキ或ハ男子ノ食堂ニ入ルコトハ仮令其夫ノ食堂ニシテモ
 忽チ殺害セラル、ノ習慣ナリ婦人ハ男子ノタメニ調理セシ
 食物ヲ其食事ノ終リシ後ニテモ食スル能ハズ老衰シ或ハ薄
 弱ナル人々ハ生ナガラ埋葬セラレ然ラザレバ戶外ニ放逐セ
 ラレテ路傍ニ僵死シ而シテ其身體ハ野犬ノタメニ噬ミ盡サ
 ル、等ノコトハ屢々ナリ小兒大約三分ノ二ハ其羸弱ナル時
 ニ於テ母ノ手ニテ唯ダ其泣喚ノ聲ヲ停メシメテ或ハ之ヲ絞
 殺シ或ハ床下ノ土中ニ生ナガラ之ヲ埋メテ殺害セリ多クノ
 婦人等ハ自ヲノ手ニテ七人乃至八人ノ子ヲ生ナガラ埋メシ
 ヲトチ宣教師等ニ物語リタリ而シテ彼等ハ又自己ノ小兒ト
 其他ノ人民ヲ殺シテ其偶像ニ供シタリト云フ固ヨリ一ノ書
 籍トテモナク又一ノ文字トテモナク其政府ト云フハ兒戲ニ

異ナラズ人民ガ知ラズシテ行ヒタル些少ノ過失ヲ處スルニ
 モ死刑ヲ以テセリ今其一例ヲ舉グレバ若シ通常ノ人民ガ知
 ラズシテ其身影ヲ酋長ノ上ニ反映スルコトアレバ其首ヲ斷
 截スルノ外他ニ罪ヲ贖フノ道アルコトナシ且ツ彼等ハ國內
 ノ戰爭ヲ是レ事トシ又外國ノ船夫ガ携ヘ來レル惡習ト疾病
 ノ爲ニ既ニ多ク其人口ヲ滅殺セリ
 抑モ此島ニ福音ノ傳ハリシ以前德義ノ壞類セシユトハ言語
 ヲ以テ説明シ文章ヲ以テ書キ顯ハス能ハズ多クノ人々ハ其
 救ハレ得可キヤヲ疑ヒ又或人ハ之ヲ救フノ價値アルヤヲ疑
 ヘリ最初十年間ノ傳道中他ノ宣教師等モ來リ加ハリシガ其
 言語ヲ學ビ得テ之ヲ文字ニ變テ聖書ノ或部分ト他ノ宗教上
 ノ書籍ヲ出版セリ此時ニ當リ宗教上ノ感覺一般ニ喚發スル
 ノ徵候現ハレ人民舉リテ福音ヲ聞キ恰モ見ヘザルチカラ權能ノ爲

ニ動かサル、者ノ如クナリシ而シテ六年間ニ於テ聖餐ニ與
 カル者ハ千二百五十九人ヨリ二万三千八百四人ニ増加セリ
 傳道ノ事業ハ尙進ンテ止マズ全人民ノ間ニ普及シ最初五十
 年間ニ於テ殆ト六万七千ノ人民教會ニ加入シ二万ノ小兒授
 洗セラレタリ此群嶋内ノ全人口ハ十万人ニ足ラズ此全群嶋
 ノ帝國ハ半世期餘ニシテ基督教國トナリ開化國トナリ代議
 政體建設セラレ家族神聖ニセラレ小學校建設セラレ而シテ
 今日嶋民ノ多數ハ世界各國ノ比例ニ勝リテ讀書ノ事ヲ知り
 戰爭ハ止ミ平和ト豊饒ハ其土ヲ支配シ夜中家ヲ閉ザ、ズシ
 テ安眠スルニ至レリ又モンキユア、デ、ユンウエーナル人嘗テ
 或ル安息日ノ朝ニ於テホノロロニ到着シ市中ニ行キシニ誰
 一人曹達水ノ一盃ヲモ販ク者ナク又見物ノ案内ヲ爲ス可キ
 モノモナキ故怒リテ人民ヲ見ントテ教會ニ行カザルヲ得ザ

リシ程能ク安息日ヲ守レリ亞米利加ノ或ル日報ノ記者ナル
 ノルトホーフ氏ハ此群嶋ニ渡來シ精細ナル點檢ヲナセシ後
 ニホノロロニテモ人民ハ終日家ヲ開放シ夜ニ入り閉カハル
 モ盜難ノ憂ナク且世界中此群嶋ノ如ク旅人ガ全ク安全ニシ
 テ旅行シ得ル國ナキ事ヲ語レリ
 此等ノ嶋民ハ唯福音ヲ受シノミナラズ他人ニ向ツテ其福音
 ヲ與ヘハツイ外國傳道會社ヲ有セリ最初十年間ニ此傳道會
 社ニ寄附セシ金額ハ七万七千九百五十三洋銀ナリ而シテ南
 太平洋中ノマルキサス、ギルベルト、マルシヤル、カロライノ
 四群嶋ニ道ヲ傳ヘ殆ト二十五人ノ宣教師ハ此ノ會社ニヨリ
 テ支給セラレ其働キハ大ニ神ノ惠ヲ受ケテ成功セリ又サン
 トウヰツチ嶋ノ宣教師等ガ福音ヲ傳ヘシ此小群嶋民等ハ轉
 シテ隣近ナル嶋々ニ之ヲ傳フルニ至レリ世ニ此傳道ノ結果

ノ年報ホド基督教ノ神力ヲ証スルニ明ナル証據ハ曾テ出版
 セラレタルヲナシ今一例ヲ舉ゲバ聖書中ニアル十字架ノ單
 純ナル物語ヲ讀ミ得ルノ外全ク無學ニシテ而カモ稍ク異教
 ヲ離レシ一人ノ嶋民ト其婦ト書籍モ衣服モ又家屋モ有セザ
 ル野蠻ナル一嶋ニ上陸シ唯二人ニテ此嶋ニ留マリシガ爾後
 一年ノ終ニ於テ曉星号モリススターガ再ヒ此嶋ニ來着セシ時ニハ人民
 ノ多數ハ衣ヲ着ケ村落ヲ建テ學校ト教會ヲ設ケ且其多數ハ
 基督教ノ洗禮ヲ受ントスルニ至レリ此等ノ現象ヲ説明スル
 ニ基督教ハ神ヨリ出テ神ノ力ヲ有スルト云フノ論理ヲ除キ
 テハ全ク之ヲ説明スル能ハザルナリ
 千八百八十二年ノ秋ギルベルト嶋民ノ十二人ハ一ノ小舟ニ
 乗シ風ト潮流ニ漂ハサレ殆ト四十日餘漂流セシ後千八百
 八十二年十二月十日ニ於テ北光号ノルンライトニ救ハレ甲板ニ引上ケ

ヲレシ時ニ其中七人ハ既ニ死シ残りノ五人ハ生ケルヨリモ
 寧ロ死セルガ如キ有様ナリシ彼五人ハ船ニ上リテ未ダ船長
 及ビ水夫等ノ厚意ヲモ受ケザル以前甲板ノ上ニ拜跪シ首領
 ト見ヘシ一人ガ衆ニ代リテ神ニ感謝セシ様ハ凡テ見物人ノ
 心ヲ感動セシメタリ其時彼等ハ全ク力盡キタル態ニテ甲板
 ノ上ニ倒レシ程衰ヘ居リシカバ直ニ氣附藥ヲ服用セシメシ
 ニ其中一二人ノ者ハ手ヲ其胸ニ置キ天ヲ眺メ頭ヲ振り我ハ
 宣教師ナリト云ツテ火酒ヲ飲ム事ヲ謝絶セリ横濱ニ上陸シ
 「シナ―、オフ、ト―キヨ―」号ニテ桑港ニ送ラレサントウキツナ
 嶋ヲ經テ終ニ其本嶋ナルマイクロニシヤニ歸着セリ彼等ハ
 一冊ノ聖經ト二冊ノ讚美歌トヲ携ヘテ朝夕ノ禮拜ヲ怠ラズ
 桑港ノウードワルド公園ニ於テ晝食ノ爲メ一ノ料理店ニ變
 應セラレシ時數多ノ人ハ其後ニ隨ツテ入り來リ彼等ヲ周リ

テ食卓ニ坐シ其食物ヲ命ヲ之ヲ食シ始メリ然ルニ島人等ハ
 靜ニ我前ニアル食物ヲ見ルノミ又驚イテ他ノ食卓ニアル人
 ヲ眺メ坐上靜謐トナリ神ノ惠ヲ祈リシ後其食ヲ始メタリ
 ト云フ嗚呼福音ノ野蠻人ヲ感化スルノ勢力是ノ如シ以テ野
 蠻人民ヲシテ所謂開明國人ノ品行ヲ戒ムルニ足レル也
 南洋全嶋ニ於ケル福音ノ成功ハ其眞理ニシテ神ヨリ出デシ
 明証ナリトス婚姻ノ法モ文字ノ道モ知ラズ人肉ヲ食フ如キ
 最下等ノ野蠻ニ陥リタル三百餘嶋ノ人民ヲ變テ過去五十
 年間ニ於テ平和ニ幸福ニ教化シ開化シタル人民トナセリ其
 一例トシテ八十有餘ノ嶋嶼ニヨリテ成立テルフサヤ―嶋ノ
 事ヲ舉グ可シ抑モ此群嶋ハ數年前迄航夫等ノ恐怖セシ處ナ
 ルニゴルトンカンミング婦人ガ著ハセル「フサヤ嶋在住記」ト
 云フチ一讀セヨ書中基督ノ福音ノ力ニヨリ僅々ナルウエス

レヤン宣教師等ガ成功セシ教化ニ就テ陳述セル事アリ婦人ハ今ニ人體ヲ炙燒セシ竈ト其餌食セシ人體ノ數ヲ表ハセル石碑トハ尙處々ニ存シ或ル酋長ハ一人ニシテ八百七十二箇ノ石碑ヲ建シ者アリト言ヘリカンミング婦人又曰余ハ基督敵ノ宣教師常ニ嘲罵スル人々ガ此等ノ嶋嶼ニ於ケル成績ヲ觀察セシコトヲ希望セザルヲ得ズ然レモ彼等ハ先ヅ十年以前ノフギヤ一嶋ヲ回想セザル可カラズ當時各人ノ手腕ハ其隣人ヲ侵掠シ全嶋野蠻ナル爭亂斷間ナク敵トシ云ハハ老弱男女ノ別ナク悉ク牛肉ト同一視シ囚人ハ之ヲ養フテ屠殺者ノ爲ニ特更ニ肥滿ニナシ或ハ十日乃至十二日間土中ニ埋メラレタル死體ヲ掘出シテ布頓フツダン（茶碗蒸ニ似タ）ノ如ク養育シ生キタル男女ハ自ヲヲ養育スル竈ヲ築キ又薪木ヲ斬リタル後其手足ヲ截斷セラレ我が眼前ニテ之ヲ養育シ且之ヲ食セヨル

ルニ至ル斯ル事ハ其暴虐ヲ多少寛恕スベキ戰亂ノ時ノミナラズ蓋シ平和ノ時ニ於テモ一時ノ我意若クハ食欲ヲ満足セシムル爲メニ之ヲナセリ病人ハ生キナガラ埋メラレ藥族ノ死去スルトキ一隊ノ寡婦ハ特ニ絞殺セラレ酋長新ニ家屋ヲ建設スル時ニハ柱毎ニ生ル犠牲ヲ埋メ而シテ其頭上ニ土ヲ埋積スルニ當リ忠實ナル犠牲ヲシテ立チ乍ラ其柱ヲ抱カシメ又酋長新造ノ船ヲ始メテ水中ニ入ル、キニハ人々ノ手足ヲ縛シ之ヲ地上ニ伏サシメテ轉輪器ノ代用ニ供シ無殘ノ苦死ヲナサシメタリ是時ニ當リ生命財産ノ爲ニ些少ノ保護モアルコトナク何人モ其運命ノ何時定スルカヲ知ラズ唯ダ新鮮ナル肉食ヲ得ンガ爲ニ近隣全村落ノ人口亡滅セシメラルコトアリタリ然ルニ今ヤ嶋ヨリ嶋ニ渡リ何レノ處ニ於テモ親切ナル男女ノ厚遇ヲ受ケザルハ莫シ八十餘嶋ノ各村落

皆各々小會堂ヲ有シ其教師或ハ牧師ノ爲ニハ善良ナル家屋
 ナ建設シ又食物ト衣服トヲ供給シフキヤ嶋ニ於テ九百ノ「ウ
 エスレヤン」教會アルニ至レリ嗚呼讀者能ク其景狀ヲ想像シ
 得ンヤ否ヤ其各會堂ニ於テハ屢々忠實ナル多クノ信徒集會
 シテ禮拜ヲナシ學校ニモ能ク出席者アリ而シテ東天紅ノ時
 耳朶ヲ打ツ最初ノ音ト毎夜響キ來ル最後ノ聲トハ家内祈禱
 ノ時間ニ於テ各家ヨリ沸キ出ヅル讚美歌ト且ツ尤モ忠實ナ
 ル禮拜ノ音聲ニ外ナラズト

英國ノ「ウエスレヤン」派ハ千八百三十五年ニ於テフキヤ嶋ニ
 至レリ而シテ現今此ニ九百ノ教會ト凡ソ千四百ノ學校アリ
 テ殆ソト十二万ノ人口ヨリ五万ノ兒童ハ此等ノ學校ニ出席
 シ十万人餘ハ例ニ依リ教會ニ出席ス彼等ハ毎年百五十万弗
 ナ寄附シ宗教上ノ事ニ惜氣ナク盡力ス日曜日ニ於テハ禮拜

ノ場所ニ教師ヲ送ルノ外、一ノ剗舟^{カヌー}ヲモ海中ニ漕出サズ又金
 錢ヲ與ルトモ一顆ノ椰子ヲ得ルタメ樹木ニ上ル事ヲ肯ンセ
 ザルナリサレバ十二万人ノ人民ハ一代間ニ人肉ヲ食スル下
 劣ナル蠻俗ヨリ變シテ開化シタル平和ナル人民ニ化シ各家
 殆ト喜樂ト平和ノ住居トナルニ至レリ

同シクサモア嶋三万四千ノ住民ハ三十五年間ニ福音ノ力ニ
 ヌリ文字ヲモ有セザル野蠻ノ域ヨリ教會ニ至リ聖書ヲ讀ミ
 熱心ニ祈禱シ且ツ勉勵シテ他ノ諸嶋ニ福音ト宣教者ヲ送ル
 ノ人民ト變セリ其神學校ニハ六十人ノ書生ヲ有シ而シテ彼
 等ノ貧困ナル中ヨリ福音ノ爲ニ毎年五千洋銀ヲ寄捐ス人間
 ノ創造者ナル神ヨリ出デシ宗教ニ非ザレバ世界ニアル他ノ
 一ノ宗教モ斯ノ如キ結果ヲ生ズル能ハザルマシ

千八百三十二年タルウキ^{ウヰ}ン氏ガ學術研究ノタメ世界ヲ周遊

スルニ當リ南亞米利加ノ南端ナルテラデルフユエニ赴キシ頃ニハ其下劣ナル情狀ヲ見テ感觸シ其人民ヲ教育シ開化セシメシトテ企圖スルハ全ク望ナキ事ヲ公言セリ然ルニ僅々ノ宣教者ハ彼等ノ中ニ至リシガ三十年ノ後ダルクウキン氏ハ其進歩ヲ聞キ大ニ驚駭シ爾後毎年宣教者ヲ遣リシ會社ニ寄附金ヲナスニ及ベリ若シ「ハーバー」社ノ出版ニ係ル(世界ヲ周遊セル理學者)海ノ航ト稱スルダルクウキン氏著作第二冊ノ百九十二頁ヨリ百九十三頁ヲ見バダルクウキン氏ガ基督信者宣教ノ事業ニ向ツテ尊貴ナル稱譽ヲ與ヘシヲ知ルベシ

五十年前最初ノ宣教師ハニウショラントニ上陸セシガ現今ニ於テハ人民舉リテ基督教ヲ奉シ而シテ彼等ガ所得ノ十分一ヲ福音ノ爲ニ寄捐ス又六十年以前宣教者英國ヨリマダガスカルニ至リケルガ彼等ハ僅ニ數年間此ニ傳道スルヲ許

可セラレ少數ノ土人ニ基督ノ福音ヲ教ヘ又聖書ヲ翻譯スルコトニ其數年間ヲ利用セリ時ニ其帝王崩シ新帝位ニ即キ基督教ヲ禁止スルノ令ヲ出シ直チニ宣教者ハ放逐セラレタリ其放逐セラル、最終ノ週間ニ聖書ヲ刊行シテ之ヲ箱中ニ入レ土着ノ信者等ガ發見シ得ル處ニ埋メテ去レリ爾後二十五年間一人ノ宣教者モ其嶋ニ入ルコトヲ得ズ非常猛烈ノ迫害起リテ土着ノ信者數千人死ニ處セラレタリ千八百六十年ニ於テ宣教者ハ再歸ヲ許容セラレケルガ廿五年間ノ迫害中數百ノ信者尙其信仰ヲ保チ聖經ニ循ヒ又其迫害中彼等ノ信仰ト行爲ヲ養ヒタル秘密ニ貯藏シタル所ノ新約聖書滅裂殘破ノ零片ヲ示セル者モ多クアリタリ現今女王其首相並ニ其ノ臣下ノ二十五万人餘ハ基督教ヲ奉シ而シテ五万人以上ノ教會員アリ此等ノ基督信者ハ千八百七十六年ヨリ千八百八十

六年マデノ十年間ニ福音傳播ノ爲メ四百萬洋銀ノ餘支出セ
 リ又亞弗利加洲ノ野蠻ナル住民中二十萬人餘ハ基督教會ニ
 加入シ尙其數ニ三倍セル人民ハ福音ノ力ニヨリテ開化セラ
 レ其恩澤ヲ蒙レリ去レバ何レノ處ニモ基督ノ清キ福音ノ觸
 ル、處人民ヲ教化セザルハナシ
 左ニ陳述スルモノハ千八百七十三年ノ英國々會ノ青冊ヨリ
 採抄セルモノナリ云ク「傳道會社ヨリ多分ノ注意ヲ受ケタル
 印度國ノ土着住民ヲ合算スルトキハ現今土着ノ基督信者二
 十五萬人アリ而シテ彼等ガ主張スル主義彼等ガ目的トスル
 德義ノ標準彼等ガ受ケシ教育修練ハ彼等ヲシテ印度政府ガ
 其支配下ニ有スル帝國內ノ一要素トナセリ此等ノ人民ハ自
 ラ其一部ヲ組成スル社會ヲ大ニ感化セザルヲ得ズ彼等ハ英
 國々王ニ忠實ナリ而シテ彼等ガ經歷セル實驗ハ鞏固ナル主

義アリテ其行爲ヲ支配セル事ヲ証明セリ

ハアッフルフリール氏ハ曰ク「如何ナル反對ノ言ヲ汝ニ語ル者
 アルニセヨ印度ニテ勤勉ナル開化セル一億六千万ノヒンド
 ー人ト回教信者ノ間ニ於ケル基督教ノ感化ハ德義上社會上
 政治上ニトトリテ著シキ變革ニシテ其變革ノ廣大ニ急速ナル
 コトハ現今ノ歐羅巴ニ於テ汝ト汝ノ祖先等ガ目撃セシ者ヨ
 リモ尙非常ナル者ニシアルナリ」ト印度政府ノ總裁タルロ
 レンス公ハ曰ク「余ハ信ズ英國國民ガ現今ノ印度ヲ利セントシ
 テ爲シタル凡ノ事ニ關ハラズ宣教師等ハ凡テ他ノ働作ヲ合
 セタルヨリモ多クノ功績ヲ成セリ」ト
 夫レ基督教ハ奴僕ノ位地ヨリ婦人ヲ高メ男子ト對等ナル助
 手トナシ文明世界ヨリ殘虐ナル羅馬ノ遊戯ヲ除去シ男色ト
 奴隸トチ廢絶シ深ク仁愛ノ精神ヲ喚發セシメタリ又虐政ヲ

防ギ自由ヲ進メ戦争ノ慘酷ヲ滅殺シ病院及ヒ不幸者ヲ扶助
 ス可キ之ニ類スル百般ノ制度ヲ設立シ一個人ヲ以テ社會ノ
 本位トナサシメタリ萬民皆兄弟ニシテ神ハ萬民ノ父トナリ
 給ヘリ(加拉太三〇二)凡テ基督以前ノ開化ハ人類カ墮落シタル半野
 蠻ノ域ヨリ起リ知識ト學問ヲ有シタレドモ德義上ニ於テハ腐
 敗シ皆各々他ノ國民ヨリ征服セラレタリ夫ノ埃及エジプトアシリヤ
 巴比倫波斯希臘等ノ文明ハ前後相續キ道德上ノ腐敗ニヨリ
 テ滅絶セリ羅馬帝國モ終ニ北狄蠻人ノ下ニ亡滅シ一盛一衰
 國家ノ頽廢斷ユルコトナク而シテ敢テ能ク之ヲ防止スル者
 アラズ彼等ハ太マ下等ナル理想ヲ有セシナリ然ルニ何物カ
 歐羅巴亞米利加ノ政度及ビ國民ノ健全ナル進歩ト永續ノ基
 礎トナリシヤ而シテ何物カ其一盛一衰ノ運命ヲ停止セシヤ
 基督教即チ是ナリ婚姻ヲ神聖ニシ一家ヲシテ學校ト邦國ノ

基礎トセシハ基督教ナリ現今ニ於テ其政度ノ永續ヲ妨ルモ
 ノハ何物ナリヤ上帝ニ對スル不信仰即チ是ナリ懷疑論唯物
 說社會說虛無說ノ如キモノ即チ是ナリ彼ノ虛無說ノ首唱タ
 ル一人ハ左ノ條規ヲ布ケリ曰「舊世界ハ破滅セラレザル可カ
 ラズ而シテ新世界ヲ以テ之ニ代ユベシ虛偽ハ驅除セラレザ
 ル可ラズ而シテ眞理ニ其位地ヲ讓ル可シ第一ノ虛偽ハ神ナリ
 其二ハ權理ナリ汝ニシテ神ヲ懼ルノ念ト空想ナル權理ニ
 對スル尊敬心トチ汝ノ心中ヨリ除去シ了ラバ汝ヲ羈制スル
 學術開化財産婚姻道德正義等ト稱スル殘餘ノ鐵鎖ハ絲線ノ
 如ク斷絶シ得ベシ而シテ汝自己ノ幸福ヲシテ唯汝ノ神ヲラシ
 メヨト斯ル意風ノ愈ニ盛ナルニ至ラバ或ハ今日ノ文明ヲモ
 危フスベシ若シ基督教ニヨリテ之ヲ防止シ又之ニ代ユルニ
 基督教ヲ以テスルニ非ラザレバ歐羅巴亞米利加ノ各國民ヲ

覆滅スルニ至ラシカ獨逸ノウイリヤム帝ハ數年以前羅斯亞
 皇帝ノ生命ヲ謀ル者アルヲ聞キシ時ニ「若シ我儕ニシテ施政
 ノ方向ヲ變ゼズ誠實ニ青年ニ健全ナル教訓ヲ施スユトヲ考
 ヘズ宗教ニ首位ヲ與ヘズ唯日々便宜ニ託シテ國民ヲ支配セ
 ントセバ吾儕ノ王位ハ傾覆シ而シテ社會ハ尤モ恐ル可キ現
 象ノ餌食タラシト語レリ夫レ合衆國ノ社會ニ對シテ反
 逆ヲ企ル者ハ誰ナル乎而シテ其政度ノ存在ヲ危フスル者ハ
 誰ナル乎基督教徒ニ非ルナリ是レ唯々神ノ存在ト未來ノ存
 在ヲ拒絕スル者ナリ願フニ宗教上ノ信仰及ビ神明ノ裁可ナ
 クシテハ何等ノ國民モ永ク存スルユト能ハザル可シ仮令一
 社會ニシテモ之ヲ圍繞スル基督教アリテ冥々裡ノ勢力ニ依
 リテ之ヲ制スルニ非ンバ速カニ其内部ノ腐敗ニヨリテ滅絶
 スルニ至ルベシ殆ンド六年以前無神論者ノ一群ミズリ州

ノバルト地方ニ一ノ市邑ヲ建設シ「リベラル」(自由)ノ名稱ヲ附
 シタリ此市邑ハ非常ナル豐沃ノ地ニ建設セラレタルモノニ
 シテ石炭ノ豐富ナル地層ハ其地下ニ横ハレリ此ニ一ノ教會
 ナク又傳教師モ無ク又一人ノ基督信者ト稱スルモノナシ此
 市邑ノ建設者ハ世界ニ向テ人間ハ宗教ノ迷信ヲ要セズ基督
 教ハ只一ノ虛談ナリ人民ハ基督教無クシテ能ク生活シ盛榮
 シ得可ク且ツ凡テ世界ノ宗教上ノ禮拜ハ兒戲ニ等シク且不
 必用ノモノニシテ人間ハ之レ無クシテ反テ能ク進歩シ得可
 キヲ顯ハカンガ爲メニ之ヲ建設シタリシナリ其結果ハ果
 シテ如何ナリシゾ未ダ五年ヲ出デザルニ此ニ住スル人民十
 中ノ九分ハ若シ其財産ヲ賣却シ得バ其市邑ヲ離去センヲ
 欲スルニ至レリ此ニ一ノ製造所ナク一ノ學校無シ二個ノ旅
 館ヲ建設セリト雖モ其一ハ既ニ空虚ニシテ他ノ一モ廳ヲ閉

館セントスルニ至レリ凡テノ宗教上ノ稱制ヲ人民ノ上ヨリ
 除去セシトハ善事ニ向ツテ改良進歩セルニ非ズ却テ惡事ニ
 向ツテ進歩セシモノナリ爭鬪分離ハ流行シ飲酒放蕩ハ其毒
 ナ流シ發誓ノ惡言ハ通常談話ノ方式トナリ青年ノ男女ハ胃
 瀆ノ行爲ヲ爲シテ耻トセズ婦人ノ大半ハ卑語猥説ヲ發シ夫
 婦モ其意ニ從ツテ放マニ離別シ而シテ不道德ノ尤モ恐ル可
 キ状態公行スルニ至レリ
 「モレピヤン」教會ノ歴史ト其宣教トハ基督敎ガ神力ヲ有スル
 明確ナル証據ナリ一千四百十五年ニ於テデモン、ホスハ死罪
 ナ蒙リ焚殺セラレ而シテ爾來其敎義ハ禁遏セラレ又其徒弟
 ハ迫害セラレタリ第十五世期ノ中葉ニ當リ新約聖書ノ純粹
 ナル敎義ヲ信ズル者多クモレピヤ、ボヘミヤ、北以太利ニ起リ
 會同兄弟ノ名義ノ下ニ相集レリ此名義ハモレピヤン敎徒ガ

爾後永ク保存セシトユロノモノニシテ此運動ユツ實ニル
 カルニ依リテ起リタル宗教改革ノ前驅トハナレリ改革ノ後
 此等ノ會同兄弟ハ四百ノ教會ニ増加シ三十万人ノ會員ヲ有
 スルニ至レリ而カモ百年間全ク酷烈ナル迫害ノ時期ヲ經過
 シテ此多數ニ達セシモノナリ迫害ノ時ニ際シ彼等ハ屢々山
 谷洞穴ノ間ニ在テ嚴冬構火ヲ燒キ其周圍ニ會合セリ固ヨリ
 其構火ハ日中ニ燒クヲ敢テセズ而シテ定リタル集合所ニ
 至ル途中モ各人先行者ノ足跡ヲ歩シ最後ニ行クモノハ追跡
 セラレシトナリ恐レ松杉枝ノ葉ヲ以テ雪中ニ印シタル其足跡
 ナ塗抹シテ往ケリ
 宗教改革ノ時ボヘミヤニ於テハ一ノ敎法會議アリ十七名ノ
 諸侯ト百四十六名ノ小貴族此會議ニ出席シ恰モボヘミヤ國
 ハ將ニ救拯ヲ得ントスル者ノ如ク見ヘタリシガ一千六百十

七年フエルヂナンド第二世ボヘミヤノ王位ニ即キシヨリ酷烈ナル迫害相續ギテ起リ一千六百二十年ニ於テハ撲滅主義ノ戦争トナリ一千六百二十一年ニ於テ新教ヲ奉ズル二十七名ノ貴族等一日ノ間ニ皆悉ク死ニ處セラレ聖書ハ悉ク火中セラレタリ甚シキハ或ル「チエズイット」ノ徒ハ自ラ一日ニ六万冊以上ノ聖書ヲ火燒セシヲテ誇張セリ第十七世期ノ終リニ當リポーランド、ボヘミヤ、ハンガリーニ在ル會同兄弟等或ハ焚殺セラレ或ハ放逐セラレ或ハ深害ノ中ニ囚ハレ皆死亡シタルガ如クニ見ヘタリサレバボヘミヤノ人口ハ此等ノ迫害ニヨリ三百万ヨリ八十万ニ減少セリ然レモ基督教ノ一種子尙殘レル者アリ即チ聖書ハ土藏ノ中、堀裡ノ穴、凹ミタル木片ノ中ニ隱蔽サレ一家ノ主タル者之ヲ秘密ニ保藏シテ死床ニ臥ス迄ハ其兒輩ニモ告知セザリシト云フ又農夫ノ荷車ヲ

推シテ國境ヲ越ヘ毎土曜日ニハンガリーニ至リ枯草ヲ積ミ來ル者ハ牧師ヲ其枯草中ニ匿シテ歸ルアリ或ハ牧師ニシテ其人民ニ教ヲ説カンガ爲メ手ニ斧ヲ携ヘ森林ヲ廻行セシ者アリクリスチヤン、デーヴィットト云ヘルモノビヤノ一青年ハ舊教信者ニシテ其職ハ工匠ナリシガ或新教派ノ人ヨリ聖書ヲ得テ自家心中ノ深奥ナル混亂ヲ解クヲ得タリ是時ニ當リ日耳曼ノ貴族中ニ基督信者ヲ庇護セント誓約セシヨンゼンドルフト云ヘル伯爵アリシカバ千七百二十二年夫ノ青年ハ伯ノ領内ナルシレシヤノ地ニ殖民セントテ二家族ノ小群ヲ密カニ導キ行キ此森ノ中ナル沼地ニ於テ將來世界ヲ驚駭セシメタル傳道事業ノ中心トナル可キ基礎ヲユソ置キシナレ而シテ其ノ村落ヲ稱シテヘルンホットト主ノ看守ト名ケタリ

抑モソノセントルフ伯ト云フハ千七百年ニ誕マレハルソ
 ウヰツテソベルグ又佛蘭西ト荷蘭ニ於テ完全ナル教育ヲ得
 シ人ナリ其朋友等ハ伯ガサキソソ政府ノ朝廷ニ仕カエソ
 ナ望ミ而シテ彼等ハ伯ノ爲メニ一官位ヲ具テ之ヲ待テリト
 雖モ伯ハ二三年ノ後即十年齡二十二歳ノ時ニ其位ヲ退キ宣
 教ノ爲メ直接ナル基督教ノ事業ニ其生涯ヲ委セリ伯ガ十九
 歳ノ時ニ當リ「唯永遠ト云ヘル事ノニ余ノ思想ヲ充タセリ」ト
 語レリ而シテ「永遠ノ爲メニ」ト云ヘル辭ヲ其ノ的語トハナセリ
 ハルソニ於テ十五歳ノ時ニ「芥子一粒ノ組織」ト名ケタル一
 ノ傳道會社ヲ組織シ其記号ニハピラト及ビ耶穌ノ像ト「彼ノ
 創痕ハ我等ノ痊癒ナリ」ト云ヘル銘ヲ印シタル楯ヲ用ヒ又「吾
 人ハ一人モ自己ノ爲メニ生キズ」ト云ヘル的語ヲ記シタル輪
 銀ヲ有シ「我ガ會社ノ會員ハ全人類ヲ愛スルナリ」ト云フ明文

ヲ掲ゲテ實ニ彼等ガ憲法第一ノ個條トナセリ
 ヘルソホツトニ於テ主ノ撰ミテ植ヘ給ヒシ種子ハ斯ノ如シ
 又新教派諸教會ニ率先シテ最初ノ活潑ナル傳道事業ヲ創起
 セシ人ハ斯ノ如シ而シテ彼ノ「モレピヤン」ノ兄弟等ハ實ニ瑕
 瑾無キ生涯ヲ送り大罪ノ一例モ又離婚ノ一例モ當初ヨリ今
 日ニ至ル迄彼等ノ間ニ絶テ有ルコト無シト云フ
 ベルソソノ大神學教師ヘソグステソボルグハ唯理論者トシ
 テ其生涯ヲ始メシガ「モレピヤン」教會ノ禮拜ニ出席シ大ニ感
 悟スル處アリテ聖書ヲ研究シ遂ニ熱心ナル基督教信者トナシ
 リ又「モレピヤン」教徒ハ愉快ナル基督教信者ニシテ各信徒死去
 ノ節ハ基督教信者ノ希望ト勝利ヲ表スル歌及ビ神ヲ敬フノ心
 ニ出ル喜樂ヲ以テ其死骸ヲ埋葬スルノ風習アリ
 蓋シ彼等ノ尤モ著明ナル事業ト其成功ハ外國宣教ノ一事ナ

リトス最初西印度嶋ニ宣教セシガ其事タルヘルンホツト植
 民以來僅ニ十年ノ後ニテ其殖民ノ総數ハ凡六百人ナリシ時
 ニ在リ其緣起ヲ云ヘバ聖トマス嶋ノ黒奴一日ヘルンホツト
 ニ來リ誰カ往テ其嶋民ニ基督教ヲ傳フヲ懇望セリ時ニ二
 人ノ青年之ニ應ジテ聖トマス嶋ニ趨キ奴人ニ宣教セント決
 心シ其企圖ヲ達スル爲ニ必要ナルキハ身ヲ賣リテ奴隷トナ
 スモ之ニ當ラント思ヒ定メタリ其出發セシ時ニハ各々唯三
 洋銀ノ資金ヲ所持シデノマールノ首府ユーベンヘゲンニ至
 ルマデ殆ンド六百英里ノ間徒歩ニテ旅行セシガ途中ニテ遭
 遇セシトコロノ基督信者ハ一人ヲ除クノ外凡テ其旅行ヲ思
 ヒ止マランヲ勸諭セリ而シテ稍クユーベンヘゲンニ到着
 セシキニハ嘲罵ヲ蒙リ反對ヲ受ケ大ナル困苦ニ遭遇セリ或
 ハ彼等ヲ乗船セシムル一人ノ船長モ無カル可シト云ヒ仮令

乗船セシムルモ到着セシ後ニ自活シ能ハザル可シト云フ者
 アリ且土人ノ猛惡殘忍ナル物語等ヲ聞キシカトモ尙其志望
 ヲ挫折セズ身ヲ賣テ奴隷トナシ以テ目的ヲ達スルノ覺悟ニ
 テ閑カニ市中ヲ徘徊セシガ神ハ彼等ヲ助クル者等ヲ起シ給
 ヘリ故ニデノマールノ船ニ乗リテ航スルヲ拒絶セラレシ
 モ和蘭陀ヨリ來リシ所ノ船ニテ出帆スルユトヲ得テ大ナル
 抵抗ト頑迷トノ中ニ其働キヲ初メ屢々牢獄ノ裡ニ投セラレ
 シトモアリ後ヲ援助ヲ與ルトコロノ宣教師來リテ西印度群
 嶋中ノ他ノ个所ニ於テ宣教ヲ始メリ然レバ氣候ト供給ノ不
 足トニ依リ到着後僅カ二年ノ間ニ宣教師中半ハ殆ド死じセ
 リ
 西印度嶋ハ奴隷ノ使用尤モ甚シキトコロニシテ毎年其ノ供
 給ノ爲メ十万人餘ノ黒人ヲ亞非利加ヨリ輸入セリ而シテ毎

朝彼等ガ労働ヲ始ムルノ相圖トシテ角笛ヲ吹クトキハ各隊
(其中六歳ヨリ十二歳ニ至ル小兒)長鞭ヲ持ツ使役者ニ驅逐セラレ田
 畝ニ進ミ終日勞力シ日暮ニ至リ疲倦ヲ極メテ歸來スルモ尙
 月光ノ下ニ勉役ヲ強迫セラル、ト屢々ナリ又彼等ノ中ニハ
 婚姻ノ法モ無ク宗教上ノ禮拜ニ臨ムトモ禁遏セラレ大小ノ
 犯罪ハ老少男女ノ別ナク凡テ之ヲ罰スルニ鞭撻ヲ以テス一
 人ノ使役者ハ此ノ如クシテ六十人許ヲ死ニ致タスニ至レリ
 野蠻ナル人民ノ故ヲ以テアフリカヨリ誘引セラレ携帯セラ
 レシ奴隸ノ情狀ハ實ニ斯ノ如キナリ
 彼ノ貧困ナル宣教師等ハ斯ク望少ナキ土地ニ來リ宣教セシ
 ガ福音ノ方ハ凡テ斯ル艱難ヲ平ラケ奴隸ハ其酷罰ヲ蒙ルニ
 關セズ宗教上ノ集會ニ臨ミテ止マズ而シテ其奴隸ヲ有スル
 主人ハ基督教ヲ信奉スル奴隸ノ奴隸中最モ勤勉善良ナルコ

トヲ認識シ終ニ彼等ガ其集會ニ出席スルコトヲ公許セリ千
 八百七十九年ニハ西印度嶋ニオイテ四十一ヶ所ノ傳教所七
 十八人ノ宣教者ト三万六千六百九十八人ノ信者トヲ見ルニ
 至レリ

「モレピヤン」教徒ハ外國傳道ノ事業ヲ擴張シテ南亞米利加、中
 央亞米利加、グリーンランド、ラブラダー、北亞米利加ノ土人、南
 亞弗利加及ヒオースツレリヤ等ノ諸方ニ宣教シ其本國ノ教
 會ニ於テハ只ダ二万人ノ會員ヲ有スルニ關セズ外國傳道地
 ニ於テハ異教ヨリ悔改シテ救ヲ受ケシ者殆ント本國教會員
 ノ三倍ニ上レリ又其本國教會員中五十八人毎ニ一人ハ外國宣
 教者タルノ割合ナリ其熱心ト西印度嶋ノ如キ殆ント望ナキ
 地ニ於ル宣教ノ成功トハ其宣傳セシトコロノ眞理ノ實ニ人
 類ヲ造リシ神ヨリ人類ニ賦與セラレタル神出ノ眞理ナリト

スルヨリ外他ニ之ヲ説明スルヲ能ハザルナリ
 基督教ハ只ニ下等ナル野蠻人民ヲ教化シ之ヲ改良スルノミ
 ナラズ又尤モ開化シ進歩シタル國民ニモ適合スルモノナル
 一ハ著明ナル事實ニシテ現今世界中尤モ開化シタル國民ハ
 大抵基督教ヲ信奉セリサレバ基督教ハ何レノ年代ニモ何レ
 ノ種族ニモ何レノ人民ニモ又如何ナル開化ノ度ニモ適應ス
 ル者ナリ日本ノ政治家板垣退助君ガ世界ヲ周遊シ歸國ノ後
 其國民ニ向ツテ基督教ハ凡テノ宗教中尤モ勢力アル宗教ナ
 リト証明セシモ豈ニ亦驚クニ足ラザヤ
 曾テモンキユア、デ、コンウエー氏ガ印度地方ヲ週遊シテ婆羅
 門教及ヒ佛教ノ勢力ニ關シテ証明セシ一ハ彼ノ板垣君ノ基
 督教ニ關スル証明トハ太ダ相違スルトコロアリコンウエー
 氏ハ印度ニ遊行スル以前アルノルト氏ノ著作ニ成ル「亞細亞

ノ光」ト題スル美妙ナル詩ヲ閱讀シテ佛教ハ良シ基督教ニ勝
 ルヲ無シトスルモ必ズ之ト同等ナル宗教ナリト思意シ斯ノ
 如ク善良ナル宗教ヲ有スル邦國ニ至リ基督ノ福音ヲ傳ル宣
 教師ハ寧ロ濫入者ト稱スベシト考ヘタリ然レ同氏ガ印度ノ
 中心ヨリ予ハカノ「東方ノ經典」ヲ著シタル聖賢ノ信仰ニ則ト
 レリト公言スル數百萬ノ人トヒンドーノ詩人等ガ頻リニ讚
 美セル諸神ノ寶坐ニ向ツテ禮拜スル群衆トノ年々四方ヨリ
 之レニ來會スル諸大市邑ニ行キシガ嗚呼悲ム可シ其人々ノ
 實際ト理想ト相反スルノ甚シキ之レヲ觀察スルニ方テ人ヲ
 シテ痛心セザラント欲スルモ能ハザラシム凡テ此無數ノ禮
 拜者中男トナク女トナク一人ノ能ク古昔ノ信仰條目中ニ存
 スル高尚ナル理想上ノ思念、心靈上ノ思念、宗教上ノ思念ヲ有
 スル者ナシ加之ズ鬼神說上ノ思念ヲスラ有セザルニ至ル又

古昔ノ諸聖賢ガ大思高想ノ一微光ダモ此暗黒ナル殿堂ヲ照
 ガルガ如シ實ニ心靈上ノ意識ニテ宗教ト稱ス可キモノ一モ
 アルヲナシ既ニ其活力ヲ失ヒシ腐朽セル諸宗教ノ林藪ヲ見
 殊ニ又々東方諸國ニアラザルヨリハ癡狂院ニ送ル可キガ如
 キ愚痴極マレル其衆多ノ禮拜者ヲ見タル時ニハ只ニ失望ノ
 胸中ニ溢レタルノミニアラズ實ニ恰モ治療ノ方法ナキ非常
 劇惡ナル病毒猖獗ノ中ニ立ガ如クニ感シタリ現今ノ状態ニ
 リセバ殆ト絶望ノ域ニ在ルナリト書セシガ如キ氏ノ失望ノ
 如何ニ痛切ナリシカヲ追想シ得可シトス
 サレバ過ル三十年間ニ於テ英國ノ不信ナル記者講論者中五
 分ノ四ハ一世期前ノリツルトン侯ノ如ク基督教ヲ駁論スル
 ノ預考ヲ以テ其証據ヲ吟味シ終ニ其眞理ナルヲ承認シテ
 信仰ヲ興スニ至リシモ豈亦驚クニ足ンヤ又「ユニテリアン」教

徒中自由派ノ大俊傑トモ云フ可キフロシンガム氏ガ千八百
 八十三年四月ノ北亞米利加評論ト稱スル雜誌上基督教信者及
 ビ基督教ト題スル一項ニ「基督教ガ批評ノ攻撃ト他ノ原因ト
 ニ依リテ覆滅セン」ハ太ダ有ルマヨキ「ニシテ斯ル疑問ヲ
 發スルニモ及バズ若シ此ニ危難アリトセバ其危難ハ彼ノ彼
 得ガ其劍ヲ拔キテマルコスノ耳ヲ截斷シタル如ク畢竟基督
 教ノ保護者ガ自家ノ無智ナルニヨリテ自家ノ兵器ヲ誤用ス
 ルヨリ起ル可シ然ト雖モ一タビ主ノ顯現シ給フアラバ敵ハ
 正ニ地ニ倒レノミ」ト論セシモ豈ニ亦驚クニ足ランヤ又現今
 英國教會ノ役者中百人以上ノ悔改セシ猶太人アリテ基督教
 ノ眞理ナルヲト耶蘇ハ約束ノ救主ナルヲノ明カナル証據ヲ
 認識シ魯西亞ニ在ル猶太人モ同シク其大眞理ヲ公言スルヲ
 忌憚セザルノ傾向アルモ豈ニ亦驚駭スベキヲナランヤ

吾人ハ基督教ニ依リテ教化カレタル種族及ヒ國民ニツキ論
 述セシガ各個人ニ於ケル其教化ノ勢力ト結果ニ至ツテモ亦
 實ニ著ルシキモノニシテ其實例甚々多シ請フ試ミニ其二三
 チ舉ゲン

支那シヤントン地方ニ洗禮ヲ受ケシ一個ノ人アリ其人ハ只
 ダ僅カニ字ヲ知ルノミ曾テ僅少ノ人々ヲ教育スル爲メ格別
 ニ設ケシ學級ニ加ハリ學ビケルガ愚鈍ナルガ故ニ終ニ其故
 郷ニ送リ歸サレタリ歸家ノ後其媳婦ニ聖書ヲ讀ムヲ教ヘ
 シガ其媳婦ハ又他人ニ向ツテ之ヲ讀ムヲ教ヘタリ素ヨリ
 家貧ナレバ自カラ紡績シテ家族ヲ養ヒケル程ナレド恒ニ其
 隣人ニ對シテハ聖經ヲ讀ムヲ教ヘシカバ其働キニ依リ終
 ニ十二人ノモノヲ導キ全ク罪ヲ悔ヒ行ヲ改メ基督ノ救ヲ得
 ルニ至ラシメタリ

數年以前埃及國ニ於テ一人ノ兵卒其所属ノ隊伍ヲ脱シテ一
 ノ村落ニ潛匿セリ偶マ一人ノ朋友アリ聖經ヲ以テ彼ニ與ヘ
 シガ終ニ此聖經ヲ學ビ基督ヲ救主ト知リテ之ヲ信シ其心中
 ノ喜樂ヲ他人ニ傳ヘルヲ始メ終ニ其隊伍ヲ脱セシテ露見
 シ鐵鎖ヲ以テ縛セラレカイロウ府ニ送ラレソレヨリ或ル破
 穴ニ至リ勞働ヲ命ゼラレケルガ忠實ニ其工役ヲ勤メ且ツ其
 伴侶ニ向ツテ熱心ニ基督ノ福音ヲ説キ傳ヘシ故終ニ此處ニ
 一ノ小教會ヲ建設スルノ運ニ至レリ

一千八百五十四年英國軍艦ノ日本長崎港ニ來ルヤ時ノ軍奉
 行若狹某或日水中ニ英譯ノ一小聖經ヲ發見シ其通辨官タル
 和蘭陀人ニ向ヒ如何ナル書籍ナルヤヲ尋テシニ答フルニ此
 書籍ハ神ト基督ニツキ教示スルノ書ナルヲ以テセリ且ツ
 支那譯ノ聖經ヲ上海ニ於テ販賣スルヲ聞キ遂ニ一卷ノ聖

經ヲ購求セリ爾後久カラズシテ郷里ナル佐賀ニ歸リ兄弟及
 ビ僅少ノ朋友等ト共ニ新約全書ノ研究ヲ始メシガ十二年ノ
 後ニ於テ若狹某ハ其兄弟及ビ一人ノ朋友ト長崎ニ來リウエ
 ルベツク教師ニ就キ洗禮ヲ受ケソト出願セリ其時基督敎
 ニ關スル自己ノ喜バシキ經驗ヲ語リテ曰ク「余ガ最初基督ノ
 性質及ビ其事業ヲ研究セシ時ノ喜ビハ今茲ニ之ヲ陳ベ盡ス
 能ハズ基督ノ如キ人物ハ余ノ眼未ダ視ズ耳未ダ聞カズ又未
 ダ曾テ想像セザルトコロニシテ其性質ト事業トヲ記錄セル
 聖經ヲ看シ時ニ於テ余ハ惘然自失スルガ如ク眞ニ敬服ノ外
 無カリシナリ」ト終ニ洗禮ヲ受ケ喜樂ニ充テテ歸途ニ上レリ
 後十四年ヲ經過シ即チ一千八百八十年四月ニ於テ長崎ニ在
 ル一人ノ宣教師ハ彼ノ若狹某ノ女及ビ其乳姆ト來リテ洗禮
 ヲ受ケソト望ミ其平生眞實ニ上帝ト基督ノ事ニ關セル諸

ノ敎訓ヲ受ケシト又其父若狹某ハ八年以前ニ基督ニ在リ且
 天國ノ望ミニ憑リ大ナル喜樂ニ滿テテ死去セシトテ語リタ
 ルヲ聞キ再ビ驚駭セリ此兩人ハ終ニ洗禮ヲ受ケ後若狹某ノ
 女ハ大坂ニ來リ婦人傳道ノ爲メニ盡力シ其先導者トナリ又
 其老タル乳姆ハ某ノ郷里佐賀ニ歸リ婦女ヲ集メ聖經ヲ敎ヘ
 其敎ヘシトコロノ婦女ヲ以テ教師ト爲シ此處ニ一ノ安息日
 學校ヲ創設セシガ其盡力ニ依リ終ニ敎會ヲ建設スルニ至レ
 リ彼ノ若狹某ノ一子モ現ニ其敎會員ノ一人ナリ
 日本ニ於テ基督ノ福音ガ人々ヲ改良敎化セシ其勢力ヲ証明
 スル事例ハ甚ダ多シ就中著明ナルモノヲ舉グレバ曾テ罪過
 ヲ悔ヒ行爲ヲ改メタル一人ノ博徒アリ其未ダ悔改セザル以
 前ノ寫眞ト既ニ悔改セシ以後ノ寫眞ヲ採リテ之ヲ對比スル
 ニ其間ニ著シキ相異アリテ何人モ之ヲ同人ノ寫眞ナリトハ

思ヒ能ハザル程ナリシ又曾テ九州ノ中央ナル熊本ニ於テ基督
 教ヲ嫌忌スル人々ニ依リテ組織セラレシ一ノ學校起レリ
 一千八百七十一年亞米利加ノ一紳士及ビ其令婦人ハ聘セラ
 レテ此校ニ來リシガ人々基督教ヲ嫌忌スルノ氣風頗ル甚マ
 シクシテ最初六ヶ月間ノ程ハ基督教ヲ信奉スルヲ敢テ外
 而ニ顯ハサトリシ而シテ言行ヲ以テ漸次基督ノ福音ヲ教ヘ
 シガ之ニ依リテ其結果ヲ見ルニ至ルマデハ殆ソト四年ノ星
 霜ヲ費セリ平生基督教ニ反對スルノ心ヲ以テ此校ニ入來リ
 タル四十人ノ青年——其中ニハ學校ヲ組織セシ人々ヨリ扶助
 ヲ受ケシ者モ多クアリシカ一千八百七十六年一月三十日ニ
 於テ近傍ニ在ル一ノ山頭ニ上リ其教師ニモ告知ラセズ私カ
 ニ一ノ基督教信徒ノ集合体ヲ成立シ日本國中ニ基督教ヲ傳フ
 ル爲メニハ其生命ヲモ之ガ犠牲ニナサントテ盟ヘリ嗚呼此

一小集合體ノ主導者タルモノハ三ヶ月間幽閉セラレ種々ノ
 賤辱ヲ蒙リ而シテ他ノ多クノ者モ皆其家郷ヨリ放逐セラレ
 偶マ京都ニ設立セラレタル宣教學校——今ノ同志社——ニ入學
 セリ其中十五人ハ已ニ熊本學校ヲ卒業シ二十五人ハ未ダ卒
 業セザル者ナリシガ皆基督教ヲ宣ヘ傳フ爲メ準備ノ學術ヲ
 脩メ多クハ皆日本帝國內ニ於テ今日尤モ勢力アル傳道者ト
 ナレリ

二十年以前合衆國ノ西方ニ在ル一村村落中ニ其家族ノ人サヘ
 モ忌憚セシ程ナル放恣無頼ナル人アリ其近隣ニアル婦人ノ
 一小群ハ私カニ祈禱ヲ爲シテ一夜ヲ送り格別ニ彼ガ悔改セ
 シ爲メニ祈リシガ其翌夜ニ至リ彼自カラ教會ノ祈禱會ニ出
 席シテ罪惡ヲ白狀シ基督ヲ接ク爾來熱心ナル信者ニ變リ其
 家族ノ幸福ヲ謀リ且ツ數年ノ間所屬教會ニ於テ安息日學校

非ズンバ焉ツ能ク斯ノ如キ功績ヲ奏スルヲ得ン
 前章及ビ斯章ニ於テ論ゼシ如ク基督教ガ凡テ他ノ宗教ト異
 別ナル最要點則チ上帝ヨリ人類ニ賦與セラレシ宗教ニ於テ
 ノミ吾人ガ豫望シ得ルトコロノ特性ヲ有スルヲニヨリ且ツ
 世界ニ於ル基督教ノ驚ク可キ歴史及ビ其成績ヨリシテ吾人
 ハ正當ニ基督教ハ上帝ヨリ人類ニ賦與シ給ヒシ真正ノ宗教
 マルヲチ斷定シ得ルナリコレヨリ尙一步ヲ進メテ其神ヨリ
 出デタルヲチ證明スル啓示ノ眞偽ヲ探究セン

第四章

我儕ノ中ニ篤ク信セラレタル事ヲ始ヨリ親ク見テ道ニ役ヘ
 マル者ノ我儕ニ傳ヘシ如ク記載ント多クノ人々コレヲ手ニ
 執レル故ニ貴キテヨビロヨ我モ原ヨリ諸ノ事ヲ詳細ニ考究

タルハ次第ヲ爲テ爾ニ書オクリ爾ガ教ヘラレシ所ノ確實ヲ
 曉セント欲ヘリ (路加一章一—四)

新約全書ノ偽作ヲラザルヲ証ス

前章ニ論ゼシ如ク吾人ハ上帝ノ其聖旨ヲ顯現シ又人類ニ罪
 惡及ビ其刑罰ヨリ免ル可キ方法ヲ啓示シ得ルヲチ望ミ得ベ
 シ而シテ吾人ハ六十六卷ノ書ニ依リテ成立シ上帝ノ啓示ナ
 ルヲチ表言スル經典アリテ此世界ニ存スルヲ知ル基督信者
 ノ全體ハ世界中天主教徒希臘教徒又新教徒ヲ論ゼズ皆此經
 典ヲ上帝ノ默示ト信シ之ヲ接ケリ吾人ハ今此經典ハ果シテ
 偽作ニアラズシテ其記録サレシト表言スル時代ニ於テ正直
 ナル人々ニ依リテ記サレタル眞實ナル記録ニシテ且ツ上帝
 ノ示現ニ依リテ記サレタルモノナルヤ否ヤヲ詮鑿スベシ
 人々ノ中ニハ經典及ビ之ニ顯ハサレタル眞理ヲ疑ガヒ之ヲ

信ゼザルモノアルモ毫モ異シムニ足ラズ何トナレバ人ハ凡テ事物ヲ疑フ者ナリ彼ノデモン、スタユアルト、ミル氏ノ如キハ凡テノ自明眞理ヲ疑ヘリ氏ハ他ノ世界ニ於テハ二ト二ヲ合スレバ五ヲ作スユトアルヤモ知ル可カラズ此世界ニテハ二ト二ヲ合スレバ四トナルガ故ニ吾人ハ之ヲ以テ必然ノ事トナスニ至ル者ナリト論ゼリスビノ一ザ、エエテ、カライルエモルソン等ノ諸氏ハ自己ノ存在ヲ疑ガヒ神ノ外何物モ存在セズ吾人ハ水上ニ生ズル波紋ノ如ク神ヨリ湧出シタルモノニ過ギズト云ヘリ

彼ノ種痘ノ効績ヲ証明スル爲メニ多クノ証據ヲ蒐集スルモ尙之ヲ疑フ人アリ曾テ英國ニ於テ之ニ反對スル爲メ一社會ヲ組織シ新誌ヲ發刊シテ抵抗ヲ實試セシトアリ此社會ノ社員中ニハ假令ヒ牢獄ニ投ゼラル、モ寧ロ種痘スルヲ拒メル

者アリ斯ノ如ク頑固ニシテ基督教及ヒ其經典ニ顯ハレタル眞理ヲ疑ヒ之ニ反對ヲ試ミルモノ何ノ時代カ之レ無カラシ然ト雖モ基督教ト其經典トハ居然トシテ毫モ動カザル也監督バツツラ一氏ハ第十八世紀ノ始ニ當リ經典中苟モ反駁ノ價値ヲ有スルモノハ一モアラザルナリトハ世人ガ當時一般ニ信憑セシ所ナリト云ヘリ又一千七百六十年ノ頃彼ノウオルテールハ現世期則チ十八世期ノ未ダ終ラザル以前ニ基督教ハ滅絶ス可シト預言セリ然レモ今ハウオルテールガ住居シ且ツ預言セシトユロノ其家屋スヲ現ニ變シテ聖書販賣所トナレリ而シテ基督教ハ前章ニ論ゼシ如ク乘積比例ニテ進歩スルニ非ズヤ

汝ヲ亂民ノ群ニ槌打セヨ、汝ノ槌ハ破レ、神ノ鉄砧ハ永久ニ存セヨ、

ハイデルバールグ府ノ一大學校ヲ博士パウロス氏ハ自然以上
 ナ拒ミ新約全書ノ奇蹟ヲ自然ノ出來事トシテ説明セント釋
 ミタリ其說ニ依レバ基督降誕ノ時ニ東方ヨリ來リシ博士及
 ビ禮物ヲ獻セシモノハ猶太國ノ零賣者ナリ此時顯ハレシ星
 ハ慧星或ハ流星ニシテ天使ガメリーヲ祝セシハ觀喜ノ思念
 ニ外ナラズ又ザカリヤが見シ異象ハ神經ノ錯亂ヨリ起リ其
 瘡癩トナリシハ中風症ニ懸リタル結果ニシテ彼ノ牧羊者等
 ナ圍繞セシ主ノ榮光ハ偶マ山坡ヲ通過セシ人ノ携帯セシ燈
 燭ノ火光ナリトパウロスニ續キテナユピンゲンノ教授パウ
 ル出デテ(一千七百九十二年)基督敎漸成說ヲ主張セリ然ル氏ハ
 羅馬書、哥林多書、加拉太書及ビ黙示錄ノ眞正ナルヲ許容シ默
 示錄ノ約翰ニヨリテ記サレシハ紀元後凡ソ六十八年ナリト
 セリ次ニスツラウス氏起リテ(一千八百七十四年)說ヲ立テ基督敎

ヲ以テ古神傳ト同一視シ全ク想像說ヨリ成リシモノトナセ
 リ又リナノ氏起リ(一千八百二十三年生)說ヲ立テ基督敎ヲ以テ古話ヨリ
 成立シタルモノトナセリ兩氏ノ說互ニ相反對スルトユカラ
 リテ兩立ス可ラズ相互ニ各自ノ論據ヲ撲滅セル者ト云フ可
 シ且ツ基督敎及ビ新約聖書ガ早クヨリ存在セシ証據ハ兩氏
 ノ說ニ必要ナル年代ヲ假サザルヲ如何セン新約聖書ノ世ニ
 現ハレシ年代ニ就キテハ反對論者ノ說漸々變化シテ遂ニ論
 者自カラ之ヲ紀元後六十年ヨリ百四十年ニ至ルマデノ間ニ
 歸セリ

博士クリストリーア氏ハ現今ノ疑惑ト題セル著書ニ於テ善
 ク之ヲ説明シタリ氏曰クパウル氏ハ最初馬太傳ヲ百三十年
 ヲリ百三十四年マデノ間ニ著ハカレタルモノトセシガ後之
 ナ變シテ百十五年トナシ終ニ百五年ヨリ百十年ニ至ル五年

ノ間ニ著ハサレタルモノトナセリシ、アール、ケストリオン氏ノ説ニ依レバ此馬太傳ハ現本ノ形狀ヲ以テ九十年ヨリ百年ニ至ル迄ノ間ニ出テ其原本ハ七十年ヨリ八十年ニ至ル迄ノ間ニ著ハサレタルモノトナセリボ、ール氏ノ徒弟ニテ尤モ有名ナルヒルゲンフエルド氏ノ説ニハ此福音書ヲ以テ現本ノ形狀ニテ紀元八十年ニ至ル迄ノ中ニ全ク編成サレシモノトナセリホルツマン及ビカイム氏ノ説ニ依レバ猶太國ノ首府エルサレムノ滅亡前則チ紀元六十六年ノ頃編成サレシモノトナセリ

馬可福音書著作ノ年月ニ就キテハ學者中種々ノ説アリテ一致スルトユロナシケストリオン氏ハ紀元百十年ヨリ以前ニカイム氏ハ百年ニヒルゲンフエルド氏ハ百年ヨリ以前ニルクマアー氏ハ七十二年ニシエンケル氏ハ原本ノ形狀ニテ

紀元四十五年ヨリ五十八年ニ至ル迄ノ中ニ著ハサレタルモノトナセリ

路加福音書著作ノ年月ニ就キテパウル氏ハ百五十年ツエラ
ル氏ハ百三十年ヒルゲンフエルト氏ハ百二十年以前フナルク
マ、ール氏ハ百年、ケストリオン氏ハ馬太傳ヨリモ暫時以前ニ編成
セラレシトナシ又カイム氏ハ九十年、ホルツマン氏ハ馬可傳
ト共ニ七十五年ヨリ八十年ニ至ルマデノ中ニ編成セラレタ
ルモノトナセリ

約翰福音書著作ノ年月ニ付テモ批評家中パウル氏ガ算定シ
タル紀元百六十年ヨリ漸次之ヲ減縮シテ終ニ第二世期ノ初
ニ編成セラレタルモノトナサルヲ得ザルニ至レリ此時ニ
當リ大抵使徒約翰ハ尙ホ生存セシナラント思ハル
エウアー、ード氏ハ馬可福音書ハ使徒彼得ノ死後臆テ著作セラ

ノ馬太福音書ハユルサレム滅亡前則チ紀元七十年ニ著作セ
 ラレ路加福音書ハ紀元七十五年乃至八十年迄ニ著作セラレ
 マルモノトナセリ
 若シ以上ノ諸説ヲ以テ眞實ナリトスレバ聖書ヲ以テ假偽ノ
 著作ト成ス議論ハ成立ス可ラザルナリ故ニ博士ライマン、ア
 ポット氏ガ約翰傳ニ就テ左ノ如ク言ヘルハ宜ナリト云フ可
 シ曰ク約翰福音書ヲ以テ約翰ノ死後廿五年乃至三十年ノ頃
 約翰ノ著作ナリヤ否ヤヲ能ク知レル多クノ人々モ尙ホ生
 存セル時代ニ著ハサレタルモノトセバ斯ノ如ク歴史的ニ非
 ズ又他ノ諸福音書ニ異ナリタル特殊ノ性質ヲ有スル偽作ノ
 福音書ガ如何ニシテ基督教信者ノ間ニモ又我等ノニ獨リ基
 督教ノ眞理ヲ悟レリトスル異端ナルノスナツク派ノ中ニモ
 共ニ一般ニ使徒ノ著作トシテ採用セララル、ニ至ルヲ得可ク

ンヤト此語ヲ熟考セバ能ク約翰福音書ハ決ノ偽作ニ非ザル
 ヲ了悟ス可シ今一步ヲ進メテ新約全書中ニ在ル諸卷ノ果
 シテ其表言スル如ク使徒時代ニ著作サレタルモノナルヤ否
 ヤヲ論ゼン

第一 内証

吾人ハ新約全書ヲ緝クニ當リ寸毫モ詭譎及ヒ虚偽ノ點ヲ發
 見スル能ハザルナリ抑モ猶太國ハ大ナル變遷ヲ經過セシ國
 ニシテ紀元前六百年ノ頃バビロンニ征服セラレ同三百三十
 年ノ頃希臘ニ征服セラレ同六十年ニ羅馬帝國ニ征服セラレ
 マルガ故ニ其言語、法律、貨幣、風俗、習慣、等常ニ變遷セリ基督降
 生ノ時ニ當リ猶太國ニハ二ツノ異ナリタル法典、羅馬及ヒ猶
 太風ノ兩種ノ裁判法、希伯來、アルメイク、希臘、拉丁、ノ四國語、希
 伯來、希臘、羅馬國三種ノ貨幣通用セリ故ニ後世ノ著作ガ此

等ノ歴史ヲ偽造スルニ當リ貨幣、衣服、公廨等ノ事ニ關シテ記
 スル時ニハ特別ナル名辭ヲ避ク事口普通名辭ヲ用ヒシナル
 可シラウリソソソ氏ハ千八百五十九年ノ「バムプトン」講述ニ
 於テ善ク基督降世ノ當時及ビ爾後猶太國ノ混合錯綜セル狀
 態ヲ説明セリ氏曰ク「二種ノ租税法二様ノ裁判法又時トシテ
 二類ノ軍令アリシハ自然ノ結果ニシテ深ク怪ムニ足ラズ而
 シテ猶太、羅馬兩國ノ風俗言語同時ニ行ハレ百事皆悉ク不調
 子亂雜ノ狀態ナリ僅々五十年間ニ於テパノステナ國ハ或ハ
 自國ノ支配下ニ在リテ一ノ合同王國トナリ或ハ自國ノ方伯
 等ニ支配セラレ、分封トナリ或ハ半ハ是ノ如キ分封ニシテ
 半ハ羅馬ノ州郡トナリ或ハ再々本國王ノ支配下ニ合同シ
 而シテ終ニ全ク羅馬ノ管轄ニ歸シ其方伯等ニ支配セラレシ
 リヤ國ニ駐在スル羅馬ノ州督ニ屬從セリ而シテ又々或點ニ

於テハ尙隣國ヲ領スル猶太種族ノ帝王ニ服從シタリシ也猶
 太國ノ歴史ハ斯ク亂雜ナリト雖モ新約全書ハ當時ノ狀況ヲ
 叙スルニ於テ一モ誤謬アルヲ無ク寸毫ノ作意モアルヲ無ク
 凡テ國政上ニ興リ來リタル種々ノ變遷ヲ記録セリ例ヘバ
 ロデ大王ノ帝國(馬太二章一節)其諸子ノ間ニ分割セラレタル(四馬太二章二節同十)猶太國ガ羅馬ノ領地ニ歸シタル(四馬太二章二節同十)且加利
 羅亞(路加三章一節)イツリヤ、ツラユニス等ノ諸國ガ其本國王ノ支配ニ屬從
 セシ(路加三章一節)アグリツバ第一世ノ下ニ於テパノステナ國王
 國ノ復興セシ(使徒十二節以下)最後ニ至リ全ク羅馬帝國ノ支配ニ
 服從シ羅馬州督政治ノ下ニ再ビ復歸シタリシ(使徒二十三章廿
 七節)而シテ宗教上ノ監督ハ尙アグリツバ第二世ニ依テ執行セラ
 レシ(使徒廿五章)等是也(使徒廿五章)新約聖書ハクノニオノ戶籍調査ニ於
 ルガ如ク猶太國政ノ錯雜トスリヤニ駐在セル羅馬州督ノ臨

時ノ權力等ヲ尤モ明白ニ記載セリ(路加二章二節使徒五章三十七節)羅馬ノ方伯ト祭司長ノ間ニ於ケル權力ノ分配(馬太廿七章二節使徒二十三章一節一十節)二種ノ税法則ト宗教上ノ稅ト政治上ノ稅ト並存セシ(馬太廿七章一節一十節)二種ノ裁判(約翰三十八章廿八節)二様ノ死刑及軍制(馬太二十七章廿一節廿二節)至リテモ猶太風ノ思想行爲ト羅馬風ノ思想行爲ト混同錯綜セシ(馬太二十七章六節)吾人ガ凡テノ專狀ニ於テ見ルトコロナリ素ユリ斯少ノ如キ混同ハ基督ガ十字架上ニ殺戮ヲ受ケ給ヒシヨリ四十年間ニ於テ終ニ消亡シテ其痕跡ヲ止メザルニ至レリト續イテ起リタル歴史家マシマス氏ハ第一世期ノ末ニ於テ其歴史ヲ著作シテオノンケシアス氏ハ第二世期ノ後半期ニ於テ其歴史ヲ著作セシモ猶太國政ノ變遷ニ關シテハ多クノ誤謬アルヲ免レザルナリ(ラウリオン氏歴史上之證據 講述第七註廿一廿二ヲ見ヨ)

以下説クトユロハ新約聖書ガ假偽ノ著作ニ非ルコトノ内証ニ付キ余ガ親ク博士ヂユセフ、ヘヴン氏ヨリ耳聞シテ筆記セシ所ノ大畧ナリ

夫レ古昔ノ著作ヲ偽造シ當時ノ風俗ニ關シテ一ノ誤謬ナキハ頗ル困難ナルコトナリ故ニ一地方ニ關スルコトヲ避ケ唯ダ大體ノ事實ヲ摸寫シ其詳細ナル事物ハ之ヲ遺避シテ記サ、ルニ在リ一例ヲ舉ゲバ衣服ノ態ヲ叙スルニ當テモ表衣ト言ハズシテ單ニ衣服ト云フガ如シ然ト雖モ新約書ハ之レニ反シ一地方ニ關スル事件多ク各殊細末ノ引説ヲ以テ充滿シ而シテ其引説スル處精細ニシテ一ノ誤謬アルナシ試ミニ當時猶太國中ニ流用セシ貨幣ノ名目ヲ舉レバ基督ノ時代ニ於テ希臘ノ古金銀具輪ノ貨幣及ヒ羅馬ノ貨幣アリテ羅馬ノ貨幣ハ市場ニ於テ買賣ノ時之ヲ用ヒ希臘ノ古貨幣ハ官殿ノ禮拜

ニ關シテ之ヲ用ヒタリ馬太傳十七章二十四節ニ「爾等ノ師ハ納金ヲ出ダサツルカ」トアリ此ニ用ヒシモノハ「ツラクマ」ニシテ希臘ノ貨幣ナリ路加二十一章二節ニ一人ノ貧シキ殘婦ガ「ツチレアマ」ニ枚ヲ投ゲタルツヲ記セリ此ニ用ヒシ「ツチレアマ」ハ希臘ノ貨幣ナリ後世ノ著者ガ斯ノ如キ細末ノ事ヲ知得スルツハ殆ンド望ム可ヲザルツニシテ好シ之アリトスルモ彼等ガ必ズ誤認ニ陥ルハ免ル可ヲザルトユロナリ然リト雖モ新約聖書中貨幣ノ用方ニ關シ記載セシ點ニシテ一ノ誤誤ヲモ發見シ能ハザルナリ馬太傳十章二十九節ニ「二羽ノ雀ハ一錢ニシテ售ラレルニ非ズヤ」路加十二章六節ニ「五羽ノ雀ハ二錢ニシテ售ラレルニ非ズヤ」トアリ此ニハ羅馬ノ「アスサリオン」ト稱スル貨幣ヲ用ヒシナリ馬太二十章ニ於テ「葡萄酒ニ雇フタル工夫ハ其賃金トシテ各々一日ニ銀一枚ヲ受ケヌ

リ此ニハ羅馬ノ「デナリオ」ト稱スル銀貨ヲ用ヒ又馬太廿二章十九節ニモ同シク之ヲ用ヒ馬可六章三十七節ニ銀貨二百ノパンヲ市ヘリトアルハ同シク「デナリ」ヲ用ヒ默示録六章六節ニ銀十五錢ニ小麥五合銀十五錢ニ大麥一升五合ナリトアルモ同ク「デナリ」ヲ用ヒシナリ斯ノ如ク貨幣ノ用方ニ關シテ一ノ誤謬ヲモ發見ス可ラズ又官庫ヨリ拂出スモノハ古キ猶太ノ通貨ヲ用ヒタリ彼ノイスラエルノ貨幣「シエケル」ハ殆ンド六十仙ニ相當ス馬太廿六章十五節ニ於テ銀貨三十ニ代書スルニ此猶太ノ古語「シエケル」ヲ用ヒタリ又猶太國ニ於テ朝夕ノ犠牲ヲ神前ニ供奉スル爲メニ課セシ宮稅ハ「ツラクマ」ニシテ殆ンド三十仙ニ相當ス然レ基督ノ時代ニ於テハ此「ツラクマ」ヲ廢シテ「ツラドクマ」ヲ用ヒタリ（「ツラドクマ」ハ殆ド「ツラクマ」ニ相當ス）馬太十七章廿七章ニ彼得ハ此「ツラドクマ」ヲ取リ彼

及ビ基督ノ爲メニ税ヲ納ム可ク命セラレタリ又馬太廿二章十九節ニ其銀錢ヲ我ニ携來レトアル處皆誤過アルヲナシ此銀貨ハ正シク羅馬ノ銀貨ニシテ其表面ニカイザルノ肖像及ビ其名ヲ記シテベリチカイザルノ時則チ基督在世ノ頃及ビ其後ニハ「チーグスト」ノ名稱ヲ其銀貨ノ表面ニ記印セリ又當時ノ風俗習慣ニ關シ記録セラレシモノ同ク正確ナルヲ發見ス彼ノ「パリカイ」「サドカイ」兩宗派ノ性質トサマリヤ猶太兩國民ノ性質相異ナリタルトコロヲ明記スル恒ニ正確ニシテ誤謬アルヲナシ馬太五章廿五節ニ羅馬ノ訴訟者ガ罪人ヲ捕ヘテ審官ニ付スル權力ニ就キ引説スルトコロヲ見ルニ羅馬ノ法律ガ漸次猶太國ニ應用セラレタルトニ關シテ其記スルトコロ常ニ正確ナルヲ知ルベシ馬太十八章廿八節ヨリ三十節ニ記セル如ク羅馬ノ法律ハ債主ヲシテ約束ノ如クニ

償却シ能ハザル負債者ヲ縛シテ之ヲ牢獄ニ投ズルヲ得セシメタリ後世ノ著作者ハ惡ンゾ能ク恒ニ斯ノ如ク正確ニシテ誤謬ナキヲ得ンヤ故ニ若シ一人ニシテ數年ノ間ニ前陳述セシ如キ事狀ヲ穿鑿研究シテ而シテ新約書中ニ含有スル廿七卷ヲ著作セシトセバ時ニ必ズ錯誤アルヲ免ル可ラズト思考スルハ理ノ當ニ然ル可キ事ナリ例セバウオター、スコット氏ノ小説ヲ見ユ紀元第二三世期頃ノ著者ニ幾倍シテ書庫及ビ書籍ノ便利ヲ有スル今世期ニ於テスヲ其引説スルトコロニ就キ氏ハ多クノ錯誤ヲ爲セシニ非ズヤ況ンヤ新約書ノ如キハ一人ニシテ廿七卷ヲ記セシニ非ズシテ種々ノ人ニ依リテ異ナル時代ト場所トニ於テ記サレタル者ナルヲヤ然ルニ今此ヲ閱スルニ一點ノ錯誤ヲモ發見スル能ハザルハ是レ新約聖書ガ後世ノ偽作ニ非ザル正確ナル証據ナリ

又地理上ノ引例ニ於テモ吾人ハ新約聖書ノ記スルトコロ大ニ正確ニシテ誤謬無キヲ發見ス馬太傳第九章九節ニ基督ガカペナウムニ於テ稅吏馬太ヲ招キ給ヒシヲ記セリ當時稅關ハ通例海濱ニ建設セラレタリ今此事アルハ如何之ヲ尋ルニ歴史家ニシテ兼テ地理學者ナルスツラボー氏ハ基督在世ノ頃ニ生存シ著作ヲ爲セシ人ナルガ氏ノ説クトコロニ依レバダマスユ及ビ猶太兩國間ノ貿易ヲキニシヤ及ビ南方バレンスターン間ノ貿易ハ皆カペナウムヲ經テ行ハレタリト云フ路加傳十九章ニ基督ガエリコニ於テ稅吏ノ長ニ逢ヒ給ヒシヲ記セリ何が故ニ此内地ノ市邑ニ此事アリヤ之ヲ尋ヌルニ歴史家ヤムセフオス氏ノ説ニ依レバエリコノ周圍沃饒ノ地ニ於テ多量ノ香油ヲ產出ス而シテ羅馬政府ハ此香油ニ對ヒテ重稅ヲ賦課セシ故ニ數多ノ稅吏ハ之ヲ監察センガ爲

マエリコニ駐在セリト云フ

以上陳述セシトコロハ新約書ノ著者ガ事ヲ記スル詳細ニシテ誤謬ナキヲ一例ニ過ギザルナリ基督死後五十年間ニ猶太國ガ大ナル變遷ヲ經過シパレンステナニ在ル五十餘箇ノ市邑ハタイマス王ニ依リテ滅ボサレ後又幾何ノ市邑ガハトリアン帝ニ依リテ滅絶サレタル等ノヲ考フルキハ彼ノ聖書中ニ記スル地理ノ詳細ニシテ誤謬無キヲハ驚異ス可キ事實ニ非ズヤ第三世期ノ始メニ當リ希臘ノ大哲學者フイロスツレタス氏ハ基督在世ノ時カパドキヤニ在リテヒカゴラスノ哲理ヲ教授セシアポロニアスノ歴史ヲ著作セリ此歴史ハアポロニアスノ死後百年ノ間ニ編成セラレタリ然ルニ著者ハパピロン滅亡後ニ傳記ノ主人公ガ其都府ニ遊ビシヲ記シ尙此外歴史ノ事實及ビ地理ニ關シテ誤謬ヲ以テ充滿スルニ

非ズヤ願フニ僅少ノ引書ヲ有シ百年以前ノ事ヲ記シテ誤謬
 ナキヲ期スルハ殆ト爲シ得ヘカラザル事也トス(新約書ノ詳細ニ
 上ノ証據ヲ述第七註六十三ヲ見ヨ)
 尙吾人ハ聖書ノ語法文體ヲ穿鑿スルニ當リ其假偽ノ著作ニ
 非ラザル証據ヲ發見ス可シ夫レ新約聖書ハ必ズ希伯來語ニ
 於テ著ハサレタルモノナラザル可ラズ蓋シ其文法及ビ語體
 ハ希臘語ニ符合スレドモ話法ト思想ハ純然タル希伯來語ニ
 シテ名詞及ビ動詞ノ結末ニ於テ著ク希臘語ト異ナルトユロ
 アリ新約聖書ノ希臘語ハホーマー或ハプロトノ希臘語ニ
 非ズ又基督在世ノ時希臘ニ行ハレタル希臘語ニ非ズ又數世
 以後ノ希臘語ニモ非ズシテ正ニ是レ基督在世ノ時ニ於テ希
 伯來人ガ書ヲ著ハスニ用ヒタル希臘語ナリ故ニ純粹ノ希臘
 語新約書ノ希臘語及ビ現今ノ希臘語ヲ學ブニハ各異リタル

字典ヲ用ヒザルヲ得ザルナリ

次ニ吾人ハ新約聖書ガ假偽ノ作ニ非ラザルトニ關シテ其外
 証如何ヲ論ゼン

吾人ハ先ツ新約聖書ノ外證ヲ究ンガ爲メ基督敎外ノ記者等
 ガ証據如何ヲ詮鑿ス可シ此等ノ記者中ニハ基督敎ノ仇敵ヲ
 ル者モ少ナカラズ基督ガ第一世期ノ初年ニユダヤ國ニ住シ
 其道ヲ教ヘタマイベリヤス、シーザー帝ノ治世ボソテオ、ピラト
 ノ治下ニ於テ殺戮セラレ爾後大ナル迫害アリシニ關セズ其
 道愈ニ羅馬全帝國ニ弘布シ多クノ信奉者ハ又迫害ヲ意トセ
 ズ無罪ノ生涯ヲ送り基督ヲ神トシ禮拜セシ事等ニ付キラウ
 リンソン氏ハ善ク之ヲ論セリ氏曰此等ノ一ハ異敎有名ノ著
 者ニ依リテ目撃セラレタルナレバ假令新約聖書ノ記録ナ
 シトスルモ正確ニシテ爭フ可ラザル事實ナリタシトス、シユ

トニアスギユウエナ、プリニー、ツラヂヤン、ハトリヤン等ノ
 諸人ハ基督ノ死後百年間ニ書ヲ著シテ基督ノ弟子等ガ記録
 セシ基督ノ説話ノ依リテ以テ立ツトコロノ基礎ハ動ス可ラ
 ザル歴史上ノ性質ヲ有シ一ノ疑ヲモ其間ニ抱ク可ラザル
 ナ確証セリト又曰クダシトス、プリニー等ノ著書ハ個々別々
 トシテ之ヲ觀察スルモ高尙潔白ナル人々ガ尤モ恐ル可キ刑
 戮ト迫害アルニ關セズ熱心ニ宗教ヲ傳播セシメテ証明スル
 ソミナラズ是ノ如クシテ傳播セラレタル宗教ノ眞理ニ關シ
 テ頗アル重大ナル論證ヲ與フル者ナリ而シテ之レニ新約聖
 書ノ歴史上偶然——的事情ノ記録ニ精密ナルヨリ來ル論證ヲ
 加フルルハ新約聖書ニ録スル所ノ記事ハ眞實ニシテ且ツ公
 平ナル人々ノ心意ヲ十分満足セシメ得ル程ノ証據タルナリ
 (ラッリソソノ著者歴史見ヨ) 上ノ証據第七章ヲ見ヨ)

羅馬ノ歴史家ダシトス氏ハ基督ノ死後七十年ノ頃ニ編成セ
 シ其史録中ニ於テニロー帝治世ノ歴史ヲ記シ基督ノ死後三
 十年ノ頃則チ紀元六十四年ニ當リ羅馬ニ起リタル大火ニ就
 テ壯快ナル記述ヲナシ且ツ云ヘテク羅馬人民ハ皆大火ノ原
 因ハニロー帝ニ在ルヲ疑察セリ故ニ帝ハ此疑察ヲ他ニ移サ
 ノ爲メニ大ニ力ヲ盡シタリ然レハ此等ノ盡力モ又人民ニ惠
 與セシ贈物モ百神ニ供奉セシ犠牲モ遂ニ帝ガ命シテ放火セ
 シメタリト云フ汚名ノ嫌疑ヲ除去スル能ハズ故ニ此風説ヲ
 止メンカ爲メ當時犯罪ノ故ヲ以テ嫌惡セラレ世俗ニ「クリス
 チヤン」ト稱ラレシ人民ノ上ニ罪ヲ歸シ最モ殘酷ナル苛刑ヲ
 加ヘリ此名稱ノ創立者ハテベリチ帝治世ノ時方伯ボンテチ
 ビヲトノ治下ニ在テ死ニ處セラレタル基督ナリ其害惡ナル
 迷信ハ暫時ノ間斯クテ禁遏セラレシモ再燃シテ此害惡ノ起

リタル猶太國ノミナラズ天下萬惡千害ノ集合公行セル羅馬
 ニモ進入傳播スルニ至レリ此宗派ヲ信奉スルモノ一人先ヅ
 捕ヘテレ次ニ其告白ニヨリ多クノ人捕縛セラレ羅馬ニ放火
 セシ罪ヨリモ寧ロ人類ヲ嫌惡スルノ故ヲ以テ有罪ト決セラ
 レタリ苛刑ノ苦ニ加フルニ嘲弄輕侮ヲ以テシ一層其苦責ヲ
 甚シクセリ蓋シ或ル者ハ野獸ノ皮ヲ被セラレテ犬ノ爲ニ嘴
 殺カレ或ル者ハ十字架ニ釘ヲレ又他ノ者ハ瀝青ヲ塗リタル
 褌衣ヲ以テ纏ハレ日没後點火シテ暗夜ヲ照ス光明ノ代リニ
 用ヒテレタリニ一ロ帝ハ此等ノ處刑ヲ執行スル爲メニ禁園
 ヲ貸付シ而シテ之ト同時ニ圓戲場ニ於テ諸體ナル演戲ヲ公
 開シ身自ヲ馭者ノ服ヲ着テ全興行ノ見物者トナリ或ハ徒歩
 ニテ公衆ノ中ニ混シ或ハ車中ヨリ其演戲ヲ見物セリ斯ノ如
 キ所爲ハ却テ人々ヲシテ苦痛ヲ蒙ル基督信者ニ對シ憐憫ノ

情ヲ起カシメ其有罪ニシテ烈刑ヲ蒙ムル可キモノタリト雖
 凡彼徒ハ公衆ノ便益ノ爲メニ非ズシテ只一人ノ惡虐無道ト
 ル心情ヲ喜バス爲メニ犧牲トナリタル者ナリト思惟セラレ
 タリ(タシトス氏著史錄ヨリ
 五章四十四節ヲ見ヨ)

以上陳述セシ如クタシトス氏ハ基督死後凡ソ七十年以内ニ
 其歴史ヲ著述セルニ基督ノ生存苦死毫モ新約書ノ記録ト時
 期狀況ヲ異ニセズ且ツ其基督教ヲ創立シ其死後三十年以内
 ニ羅馬帝國ノ首府ニ之ヲ信ズル者多ク發見セラレ基督ヲ信
 ズル爲メニ迫害ヲ受ケ死ニ處セラレタル事實ヲ記載セリ
 有名ナル碩學少プリニ一氏ハツラヂヤン帝治世紀元百三年
 ニ撰マレテ小亞細亞ノ領地ポントスノ方伯トナリ其官ニ在
 ル一二年ナリ氏ガ治者トナリテ支配セシ間其領地内ニ無數
 ノ基督信者起レルヨリ之ヲ罰スルノ方法ニ付キ大ニ苦心シ

終ニ帝ニ一ノ書翰ヲ送りタルアリ今左ニ陳述スルトコロ
 ノモノハ其書中ヨリ抜抄セシモノナリ
 陛下ニ余ガ疑ハシトスルトコロノ萬事ヲ陛下ニ奏問スル
 ハ是レ余ノ習ヒニシテ余ノ疑ヲ導キ又余ノ愚ヲ開クニ誰
 レモ陛下ニ勝ル者アラザルナリ余ハ曾テ基督信者審判ノ
 座ニ出席セシトナケレバ其罪戾ノ性質如何其究問ノ緊嚴
 如何其刑罰ノ酷烈如何ヲ知ラズ且余ハ之レヲ罰スルニ當
 リ年齢ニ關シ區別ヲ立ツ可キヤ幼少ノ者モ大人壯者ト同
 シク處置ス可キヤ悔改者ハ宥免セラル、ニ足ルヤ嘗テ基
 督信者ニシテ今其過誤ヲ懺悔スル者アルモ其懺悔ハ何ノ
 効益アラザルヤ假令罪過ナキモ基督信者ノ名稱アレバ刑
 罰ニ處ス可キヤ又只罪過ト其名稱ト兩存スル時ニ初メテ
 刑罰ニ處ス可キヤヲ知ラザルナリ今ニ至ル迄余ハ基督信

者トシテ余ノ前ニ携帶セラレタル者ヲバ左ノ方法ニ依リ
 テ之ヲ究問セリ余ハ先ヅ其徒ノ基督信者ナリヤ否ヤヲ尋
 問シ之ヲ白狀セシ時モ尙兩三回同様ノ尋問ヲナシ加フル
 ニ刑罰ノ脅迫ヲ以テシタリ若シ執拗ニシテ屈セザル者ハ
 余之ヲ刑罰ニ處ス可キコトヲ命ゼリ如何トナレバ其徒ガ
 白狀ノ性質如何ヲ論ゼズ既ニ其頑固ニシテ執拗ナルハ之
 ヲ罰スルニ足ルヲ疑ハザルガ故ナリ此ニ又同シク迷惑
 ニ沈ミタル人アリト雖モ彼徒ハ羅馬府民ナルガ故ニ其首
 府ニ護送スルヲ命ゼリ斯ク迫害モ公行シ其實例彼徒ノ
 眼前ニ横ハルニ關セズ此罪戾ノ傳染シ易キ之ガ道アラバ
 輒チユ、ニ傳播シテ底止スル所ナシ又匿名ノ訟狀ヲ余ニ
 送りテ基督信者タルヲ又曾テ基督信者タリシヲ否ミタ
 ル多ノ人々ヲ訟フ、ルモノアリ然モ其訴ヘテレシ者ハカノ

眞正ナル基督信者等ノ執着ニシテ頑固ナルニ反シ余ガ爲
 スト共ニ諸神ヲ崇拜シ又々諸神ヲ呼籲シ且ツ基督ヲ嘲罵
 スルヲ憚ラザルガ故ニ余ハ此徒ヲ以テ宥免セラル可キ
 者ト思ヘリ或ル人々ハ証據人ニヨリ訴ヘラレシモ嘗テ基
 督信者マリシガ以後之ヲ棄絶セシムトテ白狀シ又或ル人
 々ハ曾テ基督信者マリシモ或ハ三四年前或ハ二十年前ニ
 其誤謬ヲ棄絶セシムトテ公言シ陛下ノ像及ビ諸神ヲ崇拜シ
 又基督ノ名ヲ嘲罵セリ其公言スル所ニヨレバ凡テ彼徒ノ
 罪過誤謬ハ他ニ非ズ一ノ定マリタル日ニ於テ日光未ダ上
 ラザル前ニ會合シ各々音聲ヲ和シテ讚美ヲ歌ヒ基督ヲ神
 トシテ之ヲ崇拜シ且ツ誓約ヲナシテ互ニ相結托セルニ在
 リ是レ好惡ナル所業ヲ爲サントニ非ズ只ダ竊盜、強奪、奸淫
 ナ爲サズ言ヲ食マズ委託セラレタルユトテ正直ニ行フ可

キ等ノ事ヲ誓ヒ而シテ後各々離散シ又相集マリテ共ニ無
 害ノ食事ヲナスニ外ナラズ是カヘ余ガ陛下ノ命ニ從ヒ秘
 密ノ集會ヲ禁ズル旨ヲ布告シテヨリ彼徒ハ之ヲ停止スル
 ニ至レリ余之ヲ聞キタル後其實ヲ發見セシムトテ謀ルノ必
 用ヲ感シ女執事ト稱セラル、二人ノ婦女ナル奴隸ヲ拷問
 セシニ頑僻法外ナル迷信ノ外更ニ他意アルヲ發見セズ故
 ニ余ハ陛下ニ謀ル迄彼徒ヲ處分スルヲ猶豫セリ如何ト
 ナレバ老弱男女ヲ問ハズ貴賤ヲ論ゼズ現ニ刑罰ノ危難ヲ
 蒙リ又之ヲ受ク可キモノ多クアレバナリ又此迷信ノ害毒
 ハ只ニ都府ニ限ラズ延テ寒村僻邑ニ波及セリ然リト雖モ
 尙其害惡ヲ防止シ且ツ之ヲ治シ得可キノ望ミナキニ非ズ
 何トナレバ既ニ廢棄ニ屬シタル神殿モ參詣者アリ久シク
 停止シタル神聖ナル祭典モ再興シ今日マデ殆ント購買者

ナキ犠牲^{ソコ}モ到ル處需用ヲ生ズルニ至リシコト明白ナレバ
 ナリ此等ノ点ヨリ觀察スルルハ若シ前非ヲ悔改シタル者
 ハハ赦免ヲ與フルナラバ容易ニ多クノ人々ノ再ビ正ニ歸
 スルコトヲ預想シ得可シト(フリニ一氏ノ書翰第
 十章九十七節ヲ見ヨ)
 ヲラキヤン帝ガフリニ一氏ニ送リタル返翰ニ曰ク
 余ガ親愛スルフリニ一貴下ヨ貴下ノ許ニ携帶セラレタル
 トニコノ基督信者ニ對シ貴下ノ爲セシコトハ正當ナル處分
 ナリ又之ヲ處分スルニ一定不變ノ法ヲ適用スルコトハ實
 際行ハル可キコトニ非ズ余ハ貴下ガ此等ノ人々ヲ搜索スル
 ナ欲セズ若シ彼徒ヲ貴下ノ許ニ携來シ其証跡明ナルルハ
 宜シク之ヲ罰ニ處ス可シ然レモ自ラ基督信者タルコトヲ拒
 ミ實際諸神ヲ敬禮シテ其拒絕セシコトヲ確手タラシムル者
 ハ假令ヒ過去ニ於テ基督信者タルノ疑察ヲ受ルコトアルモ

今日ノ悔改ニ依リテ宥恕ヲ得セシムベシ且ツ訟者ノ名ヲ
 明ニセザル訴訟ハ假令其摘發ノ如何ナルニセヨ之ヲ採用
 ス可ラズ斯ル事ハ最害惡ノ傾向アリテ吾人が生存スル時
 代ニ見ハル可キ價值ナキ者ナレバ也(トフリニ一氏書翰第
 十章九十八節ヲ見ヨ)
 紀元百十七年ヨリ同百三十八年ニ至ルノ間帝位ニ在リシハ
 トリヤン帝ハ亞細亞ノ州長ニ左ノ如ク書キ送レリ

ミニユシマス、フソンデナス貴下ヨ余ハ貴下ノ前官ニシテ
 尤モ有名ナルセレニアス、グレチエナスヨリ寄送シタル書
 翰ヲ閱讀セリ余思フニ此事件ハ平穩ナル人民ヲ妨害セザ
 ル爲メ又惡ヲナス機會ヲシテ讒姦者ヨリ遠カラシムル爲
 メニ穿鑿セザル可ラズ故ニ若シ此類ノ告發ニ於テ之ヲ審
 官ノ前ニ提出セラル、程ニ領内ノ人民等ガ明白ナル斷言
 ナ爲シ得ル事アラバ乃チ之レヲ法庭ニノミ提出シ決シテ

内密ノ告發或ハ不法ナル喚起強請ニ出ルユトアラシムル
勿レ若シ人告發セント欲セバ之ヲ汝ノ裁斷ニ訴フルハ尤
モ適當ナル所爲ナリ故ニ若シ各人基督信者ヲ告發シ其法
典ニ反シタル所業アルヲ証明セバ其犯罪ノ大ナル比例
ニ隨テ之ヲ判決ス可シ併シ若シ人アリテ漫ニ讒言ヲ以テ
誣告スルユトアラバ請フ「ヘルキユリース」神ニ誓ツテ之ヲ
捕ヘ其鹵莽ナル所爲ヲ處罰ス可シト

マシマス、プリニ一及ビ羅馬兩皇帝等ノ書ヨリ引証セシトユ
ロノモノハ尤モ價值アル証據ナリクシマス氏ノ記録ハ基督
信者ニ對シ痛ク偏頗ナル精神ヲ以テ著ハカレタルモノナリ
氏ハ基督信者ニ付テ恐ラクハ更ニ知ルトユロナク只ダ羅馬
人ノ思想ニヨレバ彼徒ノ帝王及ビ偶像ヲ禮拜スルユトヲ拒
ミシガ故ニ不敬ナリトナシ且彼等ニ對シテ起リ來レル誣言

ヲ聞キ之ヲ信ゼシナル可シサレド羅馬ノ大火ノ如キハ彼徒
ニ其罪ヲ販ス可キ証跡アラザルヲ斷言シ又彼徒ヲ罰スベ
キ程ノ一ノ過失ヲモ舉ゲザリシナリアリコ一氏モ同シク基
督信者ニ對シテハ只ダ彼徒ガ苛酷ノ拷問ニ附セラレ又死ニ
處セラレ、ニモ關セズ所謂迷信ヲ保ナテ動カザルヲノ外一
ノ罪跡モ發見セザリシナリ然レモ此等ノ證據ヲ探究スルキ
ハ彼ノ福音書ニ記セシ如ク基督ガ生存シ苦痛ヲ蒙リ死ニ處
セラレタルヲノニ非ズシテ其死後七十年ヲ出デザル中ニ
基督教ハ大都市寒村僻邑ヲ問ハズ一般ニ羅馬全國ニ傳播
シ異教ノ宮殿モ殆ンド之レガ爲メニ荒廢ニ属シタルヲハ明
白ナル事實ナリ彼ノ諸氏ハ又當時基督信者等ガ基督ヲ神ト
シテ之ヲ崇拜シ高尚ナル德義ヲ守ラント誓ヒ且ツ彼徒
ガ共ニ食セシ「無害ナル」食事トアルニテ正シク彼徒ノ聖餐ヲ

守リシヲナ証スルナリ又基督教ノ基督死後三十年ノ中ニ首
 府羅馬ニ其根據ヲ占メタルヲ及ビ數千ノ信者ハ其信仰ノ爲
 マニロー帝ノ手ニヨリ死ニ處セラレタルヲナ証セリ
 今新約全書ニモ記シ又異教ノ著作者ニ依リテモ証明セラレ
 マル如ク基督ガ生存シ苦痛ヲ受ケ終ニ十字架上ニ於テ死セ
 シ事實ト羅馬帝國ニ於テ男女數万ノ人々ガ基督教ノ開祖基
 督ヲ神ト信シタル事實トヲ承認シ而シテ四福音及ビ使徒行
 傳共ニ第一世期ノ末ニ記録セラレズトセバ何故ニ其記録セ
 ラレザリシ乎ノ疑問起ラザルヲ得ズ若シ基督ノ弟子等ガ何
 事ヲモ記録セズトセバ太マ奇怪ノ事ニシテ又尤モ不審ナル
 次第ナラズヤ
 基督教ハ歴史ナリ教理ナリ生命ナリ「ユニテリヤン」派ノ教師
 シオトア、バアカア、氏スヲ「基督ヲ捏造スルニハ基督ヲ要

ス」ト云ヘル程ニ基督教ハ深遠ニシテ且ツ純精ナルモノナリ
 現今基督教ニ敵スル者ノ中ニモ大抵保羅ノ書翰ハ保羅ニ依
 リ晚クモ紀元六十年ノ頃ニ著サレ又四福音書ハ晚クモ紀元
 百二十五年ノ頃ニ著ハサレタルモノトナセリ
 請フ今ヨリ古昔基督教ノ師父等ガ著述セシ書中ニ付テ基督
 教ノ信仰ニ於ケル証據ノ大畧ヲ論述ス可シ
 羅馬ノ監督クレメント(紀元三〇年ニ生レ)紀元九十五年ノ頃ヨリ
 ノトニアル基督信者ニ對シテ一ノ書翰ヲ送レリ(其書翰ハ今尙存ス)其四
 十七章ニ於テ左ノ如ク記セリ願クハ使徒保羅ノ書翰ヲ一讀
 セヨ保羅ガ福音ノ始メテ傳播セシコロノ汝等ニ第一ニ書キ
 贈リシハ何事ナリシヤ當時汝等ガ互ニ黨派ヲ立テ分争セシ
 故ニ保羅ハケバ、アポロ及ビ自己ニ關スル汝等ノ精神ヲ詔責
 シタルナリ」ト即チ哥林多前書第一章ヲ指シ又馬太傳希伯來

書及ビ雅各書ヨリモ引證セリ

使徒約翰ノ弟子ナリト稱セラル、ポリカーフ(凡ソ紀元七十五年ニ死ス)ハ紀元百十六年ノ頃ビリビニ在ル基督信者ニ一ノ書翰ヲ送り其書中ニ於テ馬太傳ヨリ十回馬可傳ヨリ一回路加傳ヨリ五回使徒行傳ヨリ三回羅馬書ヨリ三回哥林多前書ヨリ四回哥林多後書ヨリ三回加拉太書ヨリ四回以弗所書ヨリ三回ピリピ書ヨリ五回テサロニケ前書ヨリ二回テサロニケ後書ヨリ一回テモテ前書ヨリ四回テモテ後書ヨリ一回彼得前書ヨリ十五回彼得後書ヨリ一回約翰福音書ヨリ二回猶太書ヨリ一回ノ引証ヲナセリ

フリヤ國ヒロポリスノ監督パヒヤス氏(紀元七十五年ニ死ス)ハポリカーフノ朋友ナリ又或ハ使徒約翰ノ知人ナリシト云フ凡ソ紀元百三十年乃至四十年ノ頃主ノ默示ノ註釋ト云ヘル

五冊ノ書ヲ著述セリ是レ四福音書ノ註釋ナルベシト云フ現今只ダ殘片ヲ存スルノミ其中ニ記スル所ノ言左ノ如キモノアリ

若シ曾テ長老ニ隨從セシト云フ人ニシテ來ルヲアヲバ余ハ其長老ノ語リシ事ニ付テ懇切ニ之ヲ尋問シ則チアソラレ、ベテロ、ビリボ、トマス、雅各、約翰、馬太、又主ガ他ノ弟子ナルアリスナユン及ビ長老約翰等ハ如何ニ語リシヤヲ究問セリ如何トナレバ余ガ書冊ニヨリテ得シトコロノ事ハ余ガ尙生存スル人ヨリ親シク聞得シ事ノ如ク貴重ニ見ヘザリシガ故ナリト

イグチシアス氏ハ紀元六十年ノ頃アンテオケノ監督トナリ紀元百十六年ノ頃基督教ノ爲メニ死ニ處セラレタル人ニシテ使徒約翰ノ弟子ト稱セラル紀元一千八百四十三年ニ埃及

國ニツリヤノ僧院ニ於テイグチシアスガ著シタル二冊ノ古書ヲ發見セリ其中ニハポリカープニ送リシ書翰ユベツ人及ビ羅馬人ニ送リタル書翰アリ此書翰中イグチシアス氏ハ馬太傳路加傳約翰傳使徒行傳及ビ保羅ノ書翰等ヨリ殆ト五十回ノ引証ヲ爲セリ

以上陳述セル四人ノ師父等ハ基督ノ死後七十年或ハ八十年ノ中ニ新約書ヨリ二百回以上ノ引証ヲ成セリ此等ノ事實ヲ觀察スルキハ基督教ニ敵スル者ト雖モ新約聖書ノ多クハ第一世期ノ未ダ終ラザル前ニ著ハサレタルモノナルヲ承認セザルヲ得ズ彼徒ハ馬太ノ福音書ヲ以テ紀元七十年或ハ八十年ヨリ以前ニ著ハサレタリトナシ而シテパウロ氏ハボウロノ長書翰ハ基督ノ死後二十五年内ニ著ハサレタルモノトナセリ保羅ノ書翰中其長キモノハ基督ノ死後二十年内ニ著

ハサレタルヲハ現今一般ニ許ストユロナリ去レバ其書翰ヲ閱スレバ其ノ殆ント二十年ノ間ニダヤ、小亞細亞、マケドニヤ、ギリース、マロ等ニ福音ヲ傳ヘタル後ニ著サレ又其教ユルトユロ基督ノ神性、磔死、復活ニ本クヲ知ル又吾人ハ洗禮、晚餐、及ビ一週ノ第一日ヲ安息日トシテ之ヲ守ルヲハ當時基督信者間ニ一般ニ行ハレタルヲ知ル而シテ斯ノ如キ記念ノ禮典ト其變化ハ事實ニ依ラズシテ起リタルモノニ非ルハ猶合衆國ニ於テ七月四日ノ祭日ガ事實ニ依ラズシテ起リタルモノニ非ラザルト同一ナリ

尙少シク時世ヲ降レバ新約聖書ガ偽造ニ非ルヲノ証據ハ甚ダ多クシテ其勢力當ル可カラザル者アリ第二世期ノ下半期ニ於テ編述サレタルクノメントノ說教集ハ四福音書殊ニ約翰福音書ノ第九章ヨリ引証セリ羅馬ノ近傍ボルタスノ監督

ヒボリタス氏ハ第三世期ノ前半期ニ異端ノ説ヲ駁スルノ書
 ナ著シ第二世期ノ前半期ニ名ヲ顯ハセシアレキサンドリヤ
 府ノスナツク派ノ教師ベシリデイスノ書ヨリ引証セリ而シ
 テベシリデイス氏ハ「夫レ凡テノ人ヲ照ラス眞ノ光ハ世ニ來レ
 リ(約翰第一 章九節)我時ハ未ダ來ラズ(約翰第二 章四節)トノ聖書ノ語ヲ引証シ
 且ツ自ラマテヤスヨリ教訓ヲ受ケタリト稱セリ
 紀元百四十年ノ頃アレキサンドリヤヨリ羅馬ニ移リシノス
 ナツク派ノ教師ワレンチナス氏ハ「斯ク記サレタリ」ト云ヘル
 書式ヲ以テ路加約翰二福音書ヨリ引証セリバルナバノ書翰
 ハ多分第二世期ノ初メニ於テ記サレタルモノナルガワレン
 チナス氏ト同シ書式ニテ馬太ト約翰兩福音書ヨリ引証セリ
 又オリゼン、テルトリヤン、アレキサンドリヤ府ノクレメント
 アイレニオス、ヂヤスチン、マルトル氏等ノ著述ヲ閱讀スルト

ニハ紀元二百年以前ニ四福音書ハ天下到ル處ノ教會皆之ヲ
 用ヒ而シテ皆其記載セル名ヲ有セシ人ニ依リテ著述セラレ
 馬可ハ彼得ノ伴侶ニシテ彼得ヨリ聞キ得シ事實ヲ其書ニ記
 載シ路加ハ保羅ノ伴侶ニシテ保羅ヨリ聞得シ事實ヲ其書ニ
 記載セリトナ信ゼリ四福音書ニシテ正眞ニ非ズ且ツ其著述
 セラレタリト表言スル年月ニ於テ記サレタルモノニ非ンバ
 天下一般ノ眞ニ之ヲ基督ノ生涯及ビ其教訓ヲ記載セシモノ
 ナリト信シ又之ヲ用ユルニ至リシ事ハ解ス可ラザル事ナラ
 ズヤ

紀元二百年ノ頃トルテリヤン氏ハ基督教ヲ辨護センガ爲メ
 ニ多クノ書ヲ著述シ就中羅馬政府ノ官人ニ對シ精細ナル辨
 證ノ一書ヲ寄送セリ其書中氏ハ聖書殊ニ四福音書及保羅ノ
 書翰ヲ考究セントナ彼徒ニ求メ若シ彼徒ガ四福音ノ原本ヲ

見ルヲ欲セバ使徒等ガ創設セシ教會ニ行キ之ヲ見ルコト
ヲ得可シ即チ希臘ニ在リテハユリントマセトニヤニ在リテ
ハビリビ又ハテカロニケニ行カンコトヲ求メリ又保羅ノ勸
キニヨリテユリント、ビリビ、テカロニケ、エペソ等ニ於テ設置
サレタル教會約翰及ビ其他ノ人々ニヨリテ設置サレタル諸
教會ハ其初メヨリ皆馬太、馬可、路加、約翰ノ四福音書ヲ使徒ヨ
リ授カリタリト記セリ

アイレニナス(凡ソ紀元百七十七年ニ生レソ二百二年ニ死ス)ハフランス國リオンノ監督
ナルガボリカアブノ弟子ニシテ使徒約翰ヨリ道ヲ聞キ悔改
メタル人ト稱セラル紀元百八十年ノ頃書ヲ著シ異端ヲ辨駁
セシキニ四福音書ハ人ノ洽ク知リタルモノトシテ之ニ據テ
辨論シ且ツ基督ノ復活後使徒等ガ聖靈ヲ受ケ四方ニ散亂シ
テ福音ヲ傳ヘタルキニ馬太ハ猶太人ノ爲メニ馬太傳ヲ著シ

彼得ノ弟子タリシ馬可ハ馬可傳ヲ著シボウロノ伴侶ナル路
加ハ路加傳ヲ著ハシ後ニ使徒約翰以弗所ニ於テ約翰傳ヲ著
シタリト言ヘリ又氏ハ馬太傳ヨリ殆ント二百回約翰傳ヨリ
殆ント七十回ノ引証ヲナセリ
クノマント氏ハ亞歷山太利亞、大學校ノ神學教授ナリシガ凡
ソ第二世期ノ終リニ當リ「吾人ハ直接ニ使徒等ヨリ福音書ヲ
受ケタリ」ト記セリ又馬太傳、路加傳、約翰傳中ノトルテリアン
氏が引証セザル句ハ殆ント無キ程ニテフオン、ヘルマン、ロン
シニ氏ハ新約聖書ヨリ氏が直接又間接ニ引証セシ所ヲ抄集
セシニ殆ント五百ペーヂニ上レリヂュヌスタンマルトル氏ハ
紀元百五十年ノ頃二ツノ証據論ヲ著ハシ四福音書ヨリ多ク引
証ヲナセリ吾人其引証ニヨリ基督ノ生涯記ヲ十分ニ編成シ
得可シ

オリヂン(紀元百八十五年ニ生レ)ハ當時尤モ碩學ナル人ノ一人ナリ其未ダ廿歳ニ滿タザル時ニ招聘セラレテ埃及ノ首府アレキサンドリアニ於テ有名ナルクレメント氏ノ後ヲ繼ギ其博學ナル名ハ天下至ル所知ラザルモノナカリシカバ羅馬ノ皇帝アレキサンダー、セウエラスハ異教ノ信者タルニ關ハラズオリゼン氏ヲ其朝廷ニ召サントテ護衛兵ヲ送りシテアリ氏ハ新舊兩約書ノ研究ニ其生涯ヲ歸シ又兩約書ノ舊本古譯書類ヲ蒐集センガ爲メニ各國ヲ遊歴シ終ニ兩約全書ノ註釋ヲ著ハセリ氏ガ口述スルキニ當リ七人ノ速記者ハ常ニ其傍ニアリテ之ヲ筆記シ而シテ其筆記セシモノヲ淨書スル爲ニ數多ノ人ヲ用ヒタリ氏ガ舊約書ニ關スル著述ハ暫ラク之ヲ措キ吾人ハ今日其全部或ハ一部尙ホ存スルトコロノ新約書ニ關スル氏ノ著述ヲ言フ可シ氏ハ約翰傳ノ註釋二十二卷馬

太傳ノ註釋二十五卷路加傳註釋五卷又之ニ關スル說教三十九卷使徒行傳ニ關スル多クノ說教羅馬書ノ註釋廿卷加拉太註釋五卷其他哥林多、以弗所、哥羅西、帖撒羅尼迦、提摩太、希伯來書ニ關シテ多クノ註釋ヲ著ハシ又默示錄ノ註釋一冊ヲ著ハセリ以上ハ使徒約翰ノ死後未ダ百二十年ヲ出デザル中ニ著述セラレタル者ナリ且ツ氏ハ當時ノ人ガ神ヨリ出シモノトシテ之ヲ承ク之ヲ貴ビシトコロノ新約書ノ目錄ヲ掲ゲシガ其目錄ハ今日吾人ガ手ニ持スル所ノ新約書ノ目錄ト異ナルヲナク二十七書ノ名目ヲ記セリ後チオリゼン氏ハ眞理ノ爲メ苛酷ナル苦責ヲ蒙リ其結果ニヨリ死ヲ遂ゲ以テ其忠實篤信ナル生命ヲ終レリ

今轉テ新約書ガ早クヨリ存在セシトニ關シテ異端教徒及ビ基督教ニ反對スル敵人ノ証據如何ヲ探索スルニ吾人ハ彼

徒ガ新約書ノ教義ヲ拒ムニ當リ其早クヨリ存在セシヲ許容スルヲ見ルナリセリソンス氏ハ使徒保羅ニ比シテ年稍若シト雖モ共ニ同時代ニ生レ猶太教ヲ遵奉シタル人ナリ其著書中保羅ノ書翰ヲ引証シ自家ノ教理ト相撞突スルトエロアルガ故ニ保羅ハ神聖ナル使徒ニ非ラザルヲ論難セリマルシナン氏ハボンヤスニ於テ生レタル人ナルガ凡ソ紀元百四十年ノ頃異端ヲ信ズルガ故ニ教會ヨリ逐除セラレ彼ノ四箇ノ理外ノ實在者アルヲ信ズルノスナツク派ノ開祖ノ一人ナリ氏ガ基督教ヲ反駁スル著書中ニ於テ新約書ノ存在ヲ許容シ且保羅ガ著シタル書翰及ビ路加ガ記録シタル福音書ノ眞ナルヲ許容セリ然モ新約書中他ノ諸書ハ猶太人ノ思想ヲ以テ飾装セラレタルモノトナシ殊ニ彼得ノ書翰ニ反對セリ「エビキユリヤン」派ノ哲學家セルサス氏ハ紀元百五十年ノ

頃基督教ヲ反駁スル一書ヲ著ハシ彼ノオリセン氏ハ之ニ對スル爲メニ八書ヲ著シタルヲアリセルサス氏ハ聖書ニ記スル如ク基督ノ奇跡及ビ其更生ヲ眞實ナリト許容セシガ基督更生ノ時其墓洞ニ在シ天使ノ數ニ關シ一ノ使徒ハ之ヲ一トナシ他ノ使徒ハ之ヲ二トナシ其説クトコロ相合セザルヲヲ搜索シ來リ或ハ鴉ヲ養フ神ノ攝理或ハ基督ノ系譜アダムニ溯ルヲ非難シ凡テ此等ノ事ハ汝等ガ聖書中ニ記サレタリト云ヘリボルフキリ氏ハ紀元二百三十三年シリヤニ生レ基督教ヲ反駁スル十五卷ノ書冊ヲ著述セリ氏ハ勿論新約書ノ正眞ナラザルヲ論証セント欲シタルナルマケレモ証左ナキガ爲メニ只其信據スベキヲ付テ攻撃スルヨリ外ニ出ル能ハザリシナリ

又新約書ノ古譯ヲ檢察スルニ吾人ハ其偽造ニ非ルヲ明証

ヲ發見スル也新約書ハ紀元百七十年ノ頃シリヤ語ニ反譯セ
 ラシタルガ此有名ナル譯書ニハ猶太書彼得後書約翰第二第
 三書及ビ默示錄ヲ除ケバ新約書中凡テ他ノ諸書ヲ含有セリ
 以テ此譯書ハ猶太書等ノ未ダ一般ニ諸教會ニ用ヒラレザル
 以前ニ出版カレシヲ証ス可シ何トナレバシリヤニ在ル諸
 教會ハ默示錄ノ世ニ現ハレシキニハ神ヨリ出デシモノトシ
 テ之ヲ貴ビ又之ヨリ引証セシヲアレバナリ又基督ノ死後二
 百年ノ頃生存セシユーセビヤス氏ガ紀元百三年即チ使徒約
 翰ノ死セシ頃ニ生レタルヘゲシツパス氏ノ常ニシリヤ語又
 希伯來語ノ新舊兩約書ヲ讀ミ且之レヨリ引証シタルヲ明
 言スルニ依リテシリヤ語ノ反譯ハ使徒ノ死後未ダ百年ヲ出
 デザル中ニ存在セシヲ知ル古昔ノ師父等ハ皆チ使徒生存ノ
 日ヨリ或ハシリヤ或ハユフネート河或ハタイグリス河ノ近

傍凡テアラマイツノ語ノ通用セル處ニハ以上反譯ノ兩約聖
 書ヲ用ヒタルヲ証セリ

且ツ吾人ハ使徒行傳及ビ書翰ヲ讀ムニ當リ猶太ノ安息日及
 ビ割禮ヲ守ルヲ等ニ關シモ一セノ立テシ律法ノ基督信者ガ
 上ニ幾何ノ勢力ヲ有スベキヤノ激論教會中ニ起リタルヲ知

ル(使徒行傳十一節、全五節、全二十五章七節、全廿一章二十節、廿四節、哥林多前書八
 章一節、十一節、全十章二十五節、廿八節、羅馬十四章三節、十四節、廿三節、加拉
 太二章一節、五節、十一節、十五節、一、十五)斯ノ議論及ビ後世ニ起リタル議論
 一モ福音書中ニ發見セラレザルハ福音書ガ其記錄カレタリ

ト謂フ所ノ年月ヨリ後ノ著作ニアラザル証據ナリ又吾人ハ
 福音書中ニ全ク發見セザルトユロノ言語ガ書翰ノ著述カレ
 シ時ニ當リ一般ニ通用セラレタルヲ發見ス故ニ若シ福音
 書ヲ後世ノ著作トセバ以上陳述セシトコロノモノハ實際ア
 ル可ラザル筈ナリ(例ヘバ羅馬書四章五節ノ不信ナル語、アセメステモテ前
 二章二節、彼得後書一章三節、七節ノ敬虔ト云ヘル語、イ

ノ類是ナリ^ス斯ノ如ク吾人ガ第二世期中相續テ蜂起セシ激烈ナル論議ヲ察スルニ一ツモ福音書及ビ書翰ノ中ニ發見セラレズ故ニ福音書書翰共ニ第二世期ノ初年以前ニ於テ未ダ著作セラレザリシ者トハ考フ可ラザルナリ新約全書ガ偽作ニ非ラザル^トノ内証外証ハ之ヲ分離シテ論ズルモ其証據甚ダ強固ナリトス然レ之レヲ合シテ論ズル^トハ其勢ヒ當ル可カラザルナリ凡ソ一千年以前ニ著ハサレタル書ニシテ其偽作ニアラザル^トノ証據ヲ有スル此新約書ノ有スル所ノ十分一ニ至ルモノスラ甚ダ稀ナリト云フベシ

第五章

若シモ一セテ信セバ我ヲ信ズ可シ蓋モ一セ我事ヲ書ク^レバナリ若シモ一セノ書シ、言ヲ信セズ^レバ何デ我言ヒシコトヲ

信ゼンヤ

基督(約翰傳五〇四十六、四十七)

舊約聖書ノ偽作ナラザル^トヲ論ズ

四福音書——四人ノ傳道者ニ依リテ記錄サレシ基督ノ言語——ハ聖書ノ尤モ肝要ナル部分ニシテ恰モ穹門ノ留石ノ如シ是無クン^ハ一方ニ於テハ舊約聖書他ノ一方ニ於テハ使徒行傳書翰等孰レモ共ニ確實ナル能ハザルナリ
然ト雖^モ今論體ヲ變^シテ云フ^トハ新約書ハ舊約書無クシテハ確立ス可ラズ舊約書ハ新約書ノ依テ以テ堅立スルトコロノ基礎也故ニ舊約書ノ偽作ニアラザル^ト及ビ其信據ス可キ^トヲ否拒スル^トハ隨テ新約書ノ根據モ薄弱ナルモノナリ
舊約書ノ正眞ナル^トノ内証ハ吾人ガ搜索ノ及ブ所ヲ以テ之ヲ論ズ^レバ新約書ニ異ナル^トナシ然レ^モ埃及ノ古書及ビ東方ノ石文ニ記錄セラレタル風儀習俗ト舊約聖書ニ記錄

セラレタル風儀習俗ト相對比スルヲ得ルモノ多キニ拘ハラズ
 舊約書ノ多分ハ他ノ文學ヨリ尙ホ古キモノナルガ故コ之
 ヲ對比スル恰モ新約書ヲ取テ之ヲ當時ノ文學ニ對比スルガ
 如クナル能ハザルナリ
 吾人ハ便宜ニ依リテ舊約全書ノ偽作ニアラザルコトノ内証外
 証ヲ合シテ之ヲ研究スベシ
 舊約聖書中或部分ノ偽作ニアラザルコト其信據スベキヲ及ビ
 其神權ヲ有スルコトヲ非難スル所ノ議論絶エタル事ナシ而シ
 テ殊ニモーセノ五經、以賽亞書ノ末尾、及ビ但仁以利書ヲ非難
 スルモノ頗ル多シ乞フユレヨリ其非難ノ當否ヲ論ゼン
 彼ノマーボルト大學校ノ博士ウエルハウゼン氏ノ如キハモ
 ーセノ五經ニ關シ尤モ極端ナル見解ヲ下セリ即チ博士エー
 ナ、ピ、スミス氏ガ一千八百八十二年四月ノ「長老教會評論」ト

云ヘル雜誌ニ之ヲ畧述シタル者ヲ披抄セバ實ニ左ノ如シ
 五經ノ分析ハ吾人ニ示スニ三箇ノ原書アルヲ以テス此原
 書コソ一般批評家ノ公戰場ニシテ今精細ニ之ヲ研窮スル
 片ハ其歴史ヲ明カニスルヲ得ベシ其三原書中尤モ古ルキ
 モノハ「ヂヤウキスト」(Jahvist)ニシテ神ノ名稱ニヂヤウキスト云
 ヘル語辭ヲ用ユ之ニ次グモノハエロヒスト(Elohist)即チ從來
 一般ニ少エロヒストト稱セルモノニシテ蓋シ吾人ノ謂ハ
 ユルゼホウキストナル編纂者ニヨリテ後來ヂヤウキスト
 ト合シテ一冊トナサレタリシナリ此合冊ハ(之ヲ稱スルニハ其
 首字タルジエーイ
 テス)重ニ歴史的ニシテ其含有スル立法ハ唯出埃及記ノ二
 十章ヨリ廿五章ニ至ルニ過ギズ申命記(トデー)ハ後世ニ至
 リ著ハサレタルモノニシテ一箇獨立ノ著作ナリトス最後
 ナル即チ第三原書ハ祭司ニ關スル法典ヲ組成スル法律ノ

大團體ニシテ出埃及記ノ結末數章(則チ二十六章ヨリ四十四章ニ至ル)全利未記及ビ民數記ノ初十章ヲ含有ス而シテ彼ノシエーイート云ヘル合書中ニ含有スル材料ヲ取り後世ノ理論ニ基イテ組織セル簡短ナル歷史上ノ綱領ヲ以テ之レガ序論トナセリ此ノ第三書コソ今日ニ至ルマデモ一セ五經ノ基礎ト假定セラレ且ツ老「エロヒスト」ト稱ヘラレタルモノナリ然モ其實凡テ他ノ著書ヨリ後ニ成リシモノニシテ曾テイゾラエル人民ガ巴比倫ノ囚擄トナリシキエシキエルノ幕下ニアル著者ニヨリ編成サレタリシ也其歴史ノ部ニ於テハ大ニ四箇ノ約束ニ重キヲ歸スルガ故ニ約束ノ書又タハキユートモ稱セラレ、ナリ編者ハ以上(シエーイー)(ダイー)(キユート)ノ種々ナル原書ニ加フルニ他ノ原書ヲ以テシ之ニヨリテ吾人ガ有スルモ一セノ五經ヲ編成シタリ之ヲ編成セシモ

ノチエズラニ非ズトセバエズラノ代ユリ遠カラザル人ノ編纂ニ成リシモノニシテエズラ之ヲ携帶シテエルサレムニ歸リシ時共ニ歸來シタルイゾラエル人民ハ恭シク之ヲ採用シテ第二民政ノ憲法トナセリ
斯ノ如キ批評家ハ舊約書及ビ其ノ上代ノ歴史ヨリ神ノ助力ヲ放棄スルモノニシテエホバハ舊約書ヲ記シ或ハ其中ニ録サレタルヲヲ顯示スルコト又タ上代人類ノ創造及ビ其發達ニ於テ一ノ關係アルヲ許容セザルナリ此徒ハイゾラエル人民及ビ凡テノ人類ハ漸次ニ野蠻ナル状態ヨリ開明文化ニ進歩セシモノト假定ス故ニイゾラエル人民ガ數百年間埃及ノ奴隸トナリ稍ク其域ヲ脱スルノ際ニ當リテ高尙ナル道義上ノ律法及ビ儀式ヲ具備スル五經ノ如キ文學ヲ產出スルハ能ク不可カラザルヲナリト論ズ故ニ五經ノ早ク既ニ存在セ

シヲ豫定シ又其存在セシノ意ヲ有スルヲヨシニア記歴
 代志畧下及ビ預言書ノ如キ舊約書ノ部分ハ巴比倫ニ囚虜ト
 ナリシ後ニ至リ著作サレタルモノニシテ又彼ノ五經ノ多分
 モ同ク其頃ニ著作サレタルモノトナセリ
 批評家ハ文字ヲ以テ事ヲ記スルノ術ハモーゼノ時代ヨリ後
 ニ發見セラレタルモノトナシ又巴比倫ニ囚虜トナル以前數
 百年間祭司律及ビ儀式ハ不用ノ有様ニ陥リタルヲ論セリ
 以上論述セシトユロハ極端ニ走リタル評論者ノ説ヲ畧述シ
 タルモノニシテ此ニ又ロポルトソン、スミス氏ノ如キ極端ニ
 走ラザル評論者アリ而シテ此輩モ尙モーゼノ五經ハ巴比倫
 囚虜ノ後ニ著作サレタルヲ論セリ吾人ハ序ヲ逐テ之ニ答
 ヘザル可ラズ

第一 文字ヲ以テ事ヲ記スルノ術ハモーゼヨリ以前既ニ存

セリ巴比倫ニ於テハ紀元前二千二百年ノ頃ヨリ瓦石ニ文字
 ナ彫刻シ埃及ニ於テハ晚クモアブラハムノ時代ニハ文字ヲ
 書クノ方ヲ知レリ其ノ英雄ヲ稱賛スルノ詩歌小説及ビ祈禱
 文ノ如キハモーゼ以前ニ著作セラレ彼ノ所謂畫形字ハ紀元
 前二千四百五十年ノ頃既ニ知ラレタリト云フイブラエル人
 民ノ如キ斯ノ埃及ノ文化中ニ數百年ノ間住居シ殊ニモーゼ
 ノ如キハ王族ノ子トシテ教育ヲ受ケ盡ク埃及人ノ學術ヲ脩
 メタリシ人ナリ(使徒廿七章廿二)何ニ因リテモーゼハ文字ヲ書スルノ
 術ヲ知ラザル者トナスカ文字ヲ書スルノ術ハアブラハム時
 代ヨリモ尙早ク行ハレタル者ナルガ如シ且ツ人類ノ最上代
 ニ生存セシ者ニ於テモ文字ヲ書スルノ方ヲ知レルヲ疑フ
 可キ理由アラザルナリ而シテ猶太人民ハ常ニ其住居セシ
 國民及ビ雜居セシ人民ト知識上ノ交換ヲ爲スノ人民ナリ果

シテ論者ノ言ノ如クンバ何故ニ埃及人民ノ間ニ在リテ斯ク
 ノ如ク爲サトリシヤ此レ解ス可ラザルヲナリウルノ古跡ニ
 於テ一ノ刻瓦ヲ掘出セシガアブラハムノ時ヨリ三世期以前
 ノモノナリ故ニアブラハムガ文字及ビ寫字板ヲ携ヘテカナ
 シノ地ニ趣キシトハ當ニ在ル可キ事情ニシテ或ハ其祖先ニ
 啓示セラレタル創世ノ記録ヲ帶ビシヤモ知ル可カラズ吾人
 若シ神ハ人類ヲ創造シ又已チ其ノ創造セシ人類ニ顯示シ彼
 創世記ニ記サレタル如ク人類ニ教ヲ垂レタリト假定スルハ
 ハ歴史アルヨリシテ文字ヲ記スルノ術既ニ存セリトナスニ
 關スル困難ハ凡テ氷解スルヲ得ベシ斯ノ如ク吾人若シ五經
 ニ顯ハサレタル律法及ビ儀式ヲ以テ明カニ録サレタル如ク
 神ノ默示セシ所ナリトセバモ一セノ時代則チ埃及ノ奴隸ヲ
 脱シタルノ後直チニ五經ヲ著作シタルトニ關スル困難ハ凡

テ氷解スルヲ得ン

第二 彼ノ批評家ガイズラエル人民ハ巴比倫ニ囚虜トナル
 以前數百年間多クハ祭司律及ビ儀式ヲ慣用シタルヲ無キ事
 實ニ依リテ立論スル所ロノ者ハ若シ猶太人民ガ當時神ニ事
 ヘテ忠實ナルニ於テハ頗ブル勢力アル議論ナリト雖モ實際
 ノ事實ハ其神ニ事フルノ忠實ナラザリシヲ証明セルナリ此
 數百年間猶太人民ノ歴史ハ大抵罪惡ト恐ルベキ偶像崇拜ノ
 記録ニシテ其徒ハ屢々眞神ヲ忘レ又モ一セノ立テシ律法ヲ
 守ルモ表面ノ儀式ニ拘泥セリ故ニ預言者ガ大聲疾呼シテ告
 グルトユロノ言モ大抵表面ノ儀式ヲ棄テ靈ヲ以テ神ヲ禮拜
 スルニ在リシトハ彼ノ批評家ガモ一セノ儀式ハ後世ニ至ル
 迄存在セザリシト論ズルニ當テ之ヲ引証セル程ナリ以上諸
 預言者等ガ命ズル所ヲ以テ巴比倫ニ囚虜トナリテ宮殿ナク

犠牲ナク且偶像ヲ以テ圍繞カレタル猶太人民ノ之ガ本國ニ
 歸來セシ時期ニ際シ著作セラレシ者トナスハ當然ノ事ニシ
 テ斯ル命令ノ記録ハ多ク此時ニ在リトス數百年間モ一セノ
 法律及ビ其儀式ヲ守ル者ナキ故ニ直チニ之ヲ存在セズト論
 ズルハ恰モ基督教信仰ノ尤モ重要ナル教理則チ信仰ニヨリ
 テ議トセラル、ノ教理ハ中世暗黒ノ時代ニ於テ基督信者ガ
 之ヲ忘却シタルガ故ニル一テ起ツテ其理ヲ解明スルノ時
 ニ至ルマデ之ヲ存セザルモノトナスト一般ナリ批評者ハ吾
 人ニ向ツテ屢々何ガ故ニ數百年ノ間一般ニ守ラザルトコロ
 ノ法典及ビ儀式ヲ賦與セシヤノ問ヲ發ス吾人ハ之ニ答ヘテ
 曰ハソ此時ニ當リ尙少數ノ人民ハ好シ公クニ且ツ十分ニハ
 其法典儀式ヲ守ラザリシニセヨ靈ヲ以テ私カニ之ヲ守リシ
 者アリ彼ノエリヤガ會テ失望シ國民中正義ヲ守ル者ハ唯我

レ一人ナリト思念セシ時エホバハ偶像バアルニ其膝ヲ屈セ
 ザル者尙七千人アルヲ之ニ告給ヘリ(列王紀上十九章)且ツ凡
 テ此儀式ハ律法ヲ成就センガ爲メ將ニ來ラントセル基督ノ
 表像及預言ニ外ナラズ斯クテ此モ一ゼノ全法典ハ唯豫シメ
 基督ヲ人々ニ指示スルノミニ非ズ之レニヨリテ基督ノ降臨
 シ給フノ日ヲ見テ樂マシムルニ至レリ(約翰八章五六)而シテ基督此
 世ニ降臨セシ時ニ當リテハ眞ニ其神ナル救主タル強大ノ論
 證ニシテ今日ニ及ブ迄數千ノ猶太人民ヲシテ之ガ爲ニイエ
 スヲ眞ノ神ナル救主ト信セシムル所ノモノナリ
 吾人ハ世界ノ救主ガ由テ生レ給ヒシ所ノ神ノ選民ニ完全ナ
 ル法典及ビ禮拜式ヲ賦與スルニ當リ其民ノ之ヲ十分理解ス
 ルノ力ニ先ンシ即チ之ヲ受ケ之ヲ行フノ實意未ダ熟セザル
 ノ時ヲ以テ之ヲ授ケタル神ノ智慧ヲ批評スベキ乎然ラハ吾

人ハ當時ノ人智ヨリモ遠ク之ガ上ニ進歩シ一千八百年後ノ今日ニ至リ稍ク其意味ヲ十分ニ理解セントシ且之ヲ實行スルヲ始メタル如キ高尙ナル道德ヲ教誨セシ耶穌ヲ批評セザル可ラザル也吾人ハ神ガ猶太人民ニ大救主ノ贖罪ニ關スル大儀式ヲ賦與セシト雖ヒ其民ノ忠實ニ之ヲ守ル能ハザルガ故ニ神ノ智慧如何ヲ批評シ得ル乎彼ノ批評者ノ理論ノ大困難ハ舊約書ヨリ神ノ助力及ビ企圖ヲ棄絶スルニアリ若シ之ヲ復セバ種々ノ難題ハ一時ニ之ヲ解クヲ得ベシ

吾人ハエズラガ律法ニ付キ格段ナル研究ヲ爲シテ巴比倫ニ永ク囚虜トナリタルイズラエル人ヲ導キ之ヲ守ラシメント試ミシヲ望ミ得ベシ而シテ吾人ハエズラ書七章六節ニ於テ「彼ハイズラエルノ神エホバノ與ヘ給ヒシモーセノ律法ニ詳カナル師」タリシヲ記シ又六、八、十ノ三章ニ於テモエズラ

ガ斷食ヲ命ジイズラエル人民ガ長クエホバノ役事ヲ怠リシヲ關シテ其赦罪ヲ祈リ且ツ國民ヲシテ神殿ノ役事ト律法ノ循守トニ歸復セシメタルヲ記セリ

又批評者ハ利未記及ビ申命記ニ記載スル律法ノ同シカラザルヲ以テ申命記ヲ以テ利未記ヨリ前ニ記サレタルノ証トセリ然レヒ其異ナルトコロヲ尋ルニ其差異ハ吾人ガ預期スル所ヨリ小ナル者ナリ又吾人ガ豫期スル所ニ外ナラズ此ノ二書中——一ハ荒野ニ生活スル牧民ニ適合シ他ハカナンノ地ニ定住スル國民ニ適合セリ吾人ハ後文ニ於テ指點セントスル如ク此事實ハ利未記、出埃及記及ビ民數記ノ寧ロ申命記ヨリモ以前ニ且ツ其著作サレタリト表スル年代ニ於テ著ハカレタル鞏固ナル論証ナリト謂フベシ如何ントナレバ彼數書ハ甚ダ牧民ノ生活ニ適合スレバナリ若シ此數書ヲシテ猶太

ヲ守ラザリシガ故ニイズラエル人民ガ埃及ヲ出ル時ニ當リ
 斯クノ如キ律法ノ組織ナシトスルカスノ如キ記念ノ法例ハ
 後世ニ至リテ生出ス可ラザルハ尙ホ合衆國ニ於ケル七月四
 日ノ記念節ヲ其事ノ起リタル後或ハ實際ノ實事ナクシテ之
 ヲ作爲ス可ラザルト同一ナリ
 且ツ吾人ハ古キ預言書中モーゼノ五經及ビ其儀式ニ關シテ
 多クノ參照スル所アルヲ發見ス(ヨエル一章十三節)彼ノヨエル書
 ニ於テハ五經ヨリ四十回ニ下ラザル引用ヲ爲シホセアモ亦
 祭司ヲ譴責シテモーゼノ律法ニ引証シ而シテホセアモ亦
 イズラエル人ノ所業ヲ罪セリ(ホセア二章十三節四章六節ヨリ八節)
 ミカ書六章六節ヨリ八節迄ニハイズラエル人民ガレビニ關
 スル法典儀式ヲ循守スルノ意ヲ含蓄セリホセアハ又イズラ
 エル人民ヲ埃及ヨリ出サレシ不貞ナル婦妻ニ比セリ(ホセア二
 章十五節)

五章七節六章七節十一節一及(イザヤ十一章十三節二十三節二十六節二十九節三十節)
 二兩節十二節十四節十一節見ヨ(イザヤ十一章十三節二十三節二十六節二十九節三十節)
 今一步ヲ進メテ五經ノ内証及ビ外証ヲ探求スルニ其大半ハ
 モーゼノ時代ニ於テ記録サレタルハ尤モ明白ニシテ疑ヲ
 容ル可ラズ

五經中地理及ビ人種ニ關スル部分ヲ取り之ヲ埃及ノ石碑ニ
 存スル古碑文ト比較スルニ其精細ニシテ相違スル所無キハ
 五經ノ其記録セラレタルト稱スル時代ニ記録セラレ且ツ埃
 及及ビシナイ半嶋ノ事情ニ善ク通曉スル人ノ手ニ成リシ明
 証ナリ獨リ埃及ノ石碑及ビ碑文ノミナラズ近時ニ及ンデ發
 見シ得タル事物ニ依リテ五經ニ記スル國土ノ形狀都邑ノ名
 稱及ビ其ノ位地等ヲ照スルハ吾人ガ豫望スル如ク正確ニシ
 テ誤リナキヲ見ルナリ利未記第十三章十四章兩章ニ見ルト
 コロノ癩病ニ關スル律法ハ埃及ニ寄寓セシ證據ヲ存スルモ

ノト云フヘシカノ埃及人民ハ癩病ニ關シテ太マ注意ヲ成セ
 リ又癩病者ガ僧侶ニ其身ヲ示メスノ風習アリシガ當時埃及
 ノ醫者ハ皆僧侶ノ階級ニ屬セリ申命記廿四章ニ癩病ノ事ヲ
 記セルトアリト雖モイスラエル人民ガ巴比倫ノ囚擄ヨリ歸
 來ル頃ノ文學中ニ於テハ癩病ニ關シテ記載スル所アルトナ
 シ故ニ若シ利未記申命記等ヲ以テ彼ノ批評家ノ云フガ如ク
 巴比倫ニ囚擄トナリタル時ニ著ハサレタルモノトセバ癩病
 ニ關スル律法ノ記録アルハ望ム可ラザルナリ
 イズラエル人民ガ埃及ニ寄寓セシトハ其言語風俗ノ上ニ大
 ナル變化ヲ與ヘリモ一セノ五經ハ聖書ノ他ノ部分ニ於テ發
 見セラレザルトコロノ埃及ノ言語ヲ以テ充テリ故ニ若シ五
 經ヲ巴比倫囚擄ノ後ニ著ハサレタルトセバ斯ク多クノ埃及
 語ハ見ル可ラズシテ却テ巴比倫語ヲ見ルベキナリ例令バ「テ

ヴア」ト云ヘル語(箱舟)ノ如キ只創世記出埃及記ニ於テ見ルノ
 而シテ「セミ」ナク種ノ語根ニ基ヅケル者ニ非ズ且ツ「テヴア」ト
 云ヘル語ハ出埃及記第二章ニ於テ數多ナル他ノ埃及語ト共
 ニ伴用セラレタリ即チ此箱舟ハ「ゴメ」ニ(鞋)ヲ以テ作ラレシト稱
 ス此「ゴメ」ト云ヘルハ五經及ヒ約百記ニ見ルノミナレバ埃及
 ノ文學中ニハ普通ニ用ヒラレタル語ナリ又チヤン瀝青ト樹脂ヲ塗
 リトアリ此ニ用ユルニ語亦是レ埃及ニ用ヒラレタル普通ノ
 語ナリ又「葦(ス)」ノ中ニ置ケリトアリ此「ス」ト稱スル語ハ「セミ
 ナク」種ノ語根ヲ有セザル者ナリ而シテ之ヲ河邊ニ置ケリト
 云フノ句モ亦埃及語ヲ用ヒタリ
 パロガ夢ニ牝牛「アキユ」(葦)ヲ食フトアリ(創世記四十一
 章二)此ニ用ユル
 「アキユ」ハ純粹ナル埃及語ナリ創世記四十一章四十二節ニ
 ミセフハ白布(セシ)ヲ以テ裝フトアリ此ノ「セシ」ト云ヘル語ハ

埃及ノ石碑ノ銘文ニ見ルトユロノ語ナリ又出埃及記十六章
 中ニ用ユル「エバ」「オメル」ト稱スル希伯來ノ量名ハ皆埃及ノ言
 語ナリ出埃及記一章十一節ニ督者ト譯セル語ハ紀元前十五
 世期ノ中半ニ在リテ「ソトメス」第三世ノ石碑ニ發見スルヲ得
 同第五章十二節ニ禾稈及ヒ草藁ト云ヘル語モ埃及語ニシテ
 同第三章二節ニ棘ト云ヘル語モ同ク埃及語ナリ同十六章卅
 三節ニ「マナ」ヲ盛リタル器ヲ壺ト譯シアルハ聖書中他ノ箇所
 ニ發見セズ然レモ埃及語ニ據レバ神前ノ供奉ニ用ヒタル小匣
 ノ如キ器ナリ出埃及記十五章四節ニアル戰車同十五章廿節
 ニアルミリアムノ鼓ト云ヘルモ亦全ク埃及語ナリ
 有名ナル埃及語學者ブンセン氏ガ曾テ埃及及ヒ希伯來ノ兩
 國ニ通用セラレタル語辭六頁有餘ノ目錄ヲ作りタル「ア
 リ」而シテ其大抵ハ「モーゼ」ノ五經ヨリ取りシモノナリ出埃及記

三十二章ニアルトコロノ金ヲ以テ製シタル犢ハ埃及ノ「アピ
 ス」ト稱スル神ニシテ又同章ニ記録サレタル舞跳唱歌ハ正シ
 ク埃及ノ神殿中ニアル石碑ノ彫畫ニ見ルトコロノモノト毫
 モ差違アル「ナシイズラエル」人民ガ神ノ幕屋ヲ作りタル合
 歡木(シツテム)ハ荒野ニ産出スルモノニシテ「パレステナ」ニ於
 テ發見セズ之ニ反シテ「解」ハ「パレステナ」ニ於テ通常發見スト
 證モ「モーゼ」五經中曾テ其名稱ヲ記シタル「ナシ」榿木ノ名ハ
 五經中僅カニ數度記サレタリ則チ利未記十四章四節ニ於テ
 ハ癩病ヲ清ムル爲メニ之ヲ用ヒ民數記十九章六節ニ於テハ
 癩病ヲ清ムル處ノ水ヲ製スル爲メニ之ヲ用ヒタリ而シテ吾
 人ハ又死者ヲ葬ムルノ用ニ供センガ爲メ及ヒ癩病者ノ藥材
 ニ用ヒンガ爲メスリヤヨリ榿木ヲ埃及へ輸入セル「ア
 リ」見ル但シ「パレステナ」ハ榿木多ク産出スル處ナリシナリ又出

埃及記三十五章二十五節ニハ婦女等ガ青色紫色及ヒ紅色ノ糸ヲ紡グエトヲ記セルガ埃及人ハ常ニ素糸ヲ染ムルニ此三色ヲ用ヒタリシ同三十九章三節ニ青紫紅ノ三色糸ト金糸トヲ和シテ織ルコトヲ記ス而シテ吾人ハ當時埃及人ガ實ニ斯ノ如キ金衣ヲ製セシヲ知ル同卅五章七節ニ記セル如キ染皮ハ今日佛國パリニスニ在ルルーヴル博物館ニ於テ見ルヲ得可シ而シテ此染皮ハ則チ埃及ノ古ルキ乃伊木ノ棺ヨリ取りタルモノナリ

昔イズラエル人民ハ純金ヲ以テ契約櫃ヲ蔽ヘリ(出埃及記廿五章十一節)而シテ吾人ハ埃及ニ於テ斯ル多クノ例アルヲ見ル又アブラハムガ埃及ニ於テ受ケシ贈物ハ(創世記十二節十六節)唯ダ驢馬ト駱駝ニシテ一匹ノ馬モ其中ニアラザリシナリ然レモバロハ馬及ヒ戰車ヲ以テイズラエル人民ヲ追跡セリ埃及ニ於テハ

ソトメス第三世ガ亞細亞ヲ征服セシ時ニ馬ヲ携ヘ歸リシ以前ノ石碑ニ曾テ馬アルヲ見ズ而シテソトメス第三世ガ亞細亞ヲ征服セシハ實ニアブラハムトイズラエル人民ガ埃及ヲ出ルノ中間ニ興リシ一事變ナリ(總長バルトレンツト氏著フロム埃及ツールパレンステナヲ見ヨ)出埃及記全部ノ記事及ヒ猶太國大節會ノ起原ニ關スル記事ヲシテ當時ニ在リテ之ヲ記載セシモノトセバ其活圖ヲ見ルガ如ク眞ニ迫リ且甚ダ當然ナリト思ハルモ若シ後世ニ至リテ記セシモノト爲セバ到底解説ス可ラザルナリ手ニ杖ヲ持チ腰ニ帶ヲ縛メテ無酵ノ麴ヲ食シ及ヒ血ヲ灑ギテ祝スルトコロノ逾越節ハ今日ニ至ル迄尙彼ノサマリヤ人ノ小群ガギリヨム山ニ於テ執行スル所ニシテ恰モ出埃及記ニ記スルガ如ク歷史上ノ事實ニ基クヲ表證スルモノト云フ可シ又利未記廿三章ニ記スル構廬ノ節ハイズラエル國民ノ一大祝

節ナリ同四十三節ニ「斯クスルハ我ガイゾラエルノ子孫チエ
 シフトノ地ヨリ導キ出セシ時ニ此チ茅葦ニ住マシメノイ
 汝等代々ノ子孫ニ知ラシメノ爲ナリ」ト云ヘル理由ヨリ起リ
 五句節ノ如キハ申命記二十六章一節ヨリ十節ニ「汝其神エホ
 バノ汝ニ與ヘテ産業トナサシメ給フ地ニ入り之レチ獲テ其
 處ニ住ムニ至ラバ云々」ノ事實ニ基クモノナリ凡テ斯クノ如
 キ節會ハ歴史上ノ事實ニ基クニ非ザレバ之レチ説明スル能
 ハザルナリ且ツ斯ノ如ク出埃及記十三章十一節ヨリ十六節
 ニ於テ初子チ神ニ供ケ又之レチ贖フノ例モ歴史上ノ事實無
 リンバ之レチ説明スル能ハザルナリ申命記五章十五節ニ於
 テ埃及ニ奴隸タリシトニ訴ヘ安息日チ守ルコトチ命セリ申
 命記中モ一セハ絶ヘズ埃及ニ在リシ時或ハカナニ歸ル途
 ニ於テ起リタル實事チ陳ルニ其聽衆及ビ讀者ガ斯ル實事チ

親ク見聞セシニ非ザレバ全ク解ス可ラザル方法チ以テセリ
 申命記一章ヨリ四章ニ至ルモ一セガイズラエル人民ニ語り
 シ談話チ讀ミ（申命記六章十節十二節廿一節）殊ニ九、十、十一ノ三章チ讀
 ムベシ申命記三章三節ヨリ五節ニ於テ吾人ハイゾラエル人
 民ガヨルダン河ノ東ニアルバシヤンノ邑六十チ征服セシチ
 讀ミ又吾人ハボルター氏ノ「バシヤン巨邑」ト稱スル著書中ニ
 於テ今日ニ至ルマデ尙ホ其墟趾ノ存スルチ發見セシトチ讀
 ム
 利未記十七章一節ヨリ七節ニ掲グル犠牲ノ動物チ屠ルトニ
 關スル條款ト申命記十二章十節ヨリ廿一節ニ掲グルカナ
 ノ地ニ入りシ後ノ状態ニ適スル様其條款チ變革セシトハ若
 シ此等ノ書ニ、其記録セラレタリト稱スル年月ニ於テ記録
 セラレタリトセバ當然ノ事ナリト雖モ後世ニ至テ記録セラ

レタリト爲ス時ハ解ス可ヲサル也又申命記廿章十五節ヨリ
 十八節同廿五章十七節ヨリ十九節ニ記載セル戦争ニ關スル
 律法ハ申命記ガモーゼノ時ニ於テ著作サレタル一ノ明証ナ
 リ歴代志上四章四十二、四十三ノ兩節ニ於テアマレキ人ノ殘
 レル者ハヒゼキヤ王ノ時ニ滅サレタルヲ記載ス故ニ彼ノ批
 評者ガ論ズル如ク若シ申命記ヲシテヨシアノ時ニ著ハサレ
 タリトセハ申命記廿五章ノ如キハ全ク解説スル能ハサル也
 五經ガ確實ナル一ノ明証ハ批評者ガヨシユア記ニ其著作サ
 レタル時ニ當リテ五經ノ既ニ存在セシ一ヲ明白ニ預定セル
 文辭多キ故ニ所謂ヨシユア記ノ著作年月ヲ拒ミ之レヲエズ
 ラノ時ニ著作サレタリトナセルニ因テ明カナリトス然リ而
 シテヨシユア記ヲ讀ムニ當リテ吾人ハ其ヨシユアノ時ニ於
 テ著作サレタル明カナル証據ヲ發見スルナリヨシユア記十

五章六十三節ニ吾人ハ尙エフス人ガエルサレムヨリ放逐セ
 ラレザル一ヲ見ル而シテエフス人ノ放逐ハダビデ王治世ノ
 初ニ起リシナリ(サムエル後書五章九節)其ダビデ王ノ時ヨリ以前ニ記
 載セラレシユトハシド(サムエル後書五章九節)ハフエニシヤノ大都邑ナリトヨシ
 ユア記十一章八節ニ記載セルニテ明カナリ蓋シダビデ王ノ
 時ニ當リテハツロ(サムエル後書五章十一節)其首府トナリタレバナリ(サムエル後書五章十一節)同
 シク十五、廿二、兩章ニ於テカレブ及ビビチハスニ關スル詳細
 ナル記事ハ之ヲ目撃セシ人ノ手ニ依リテ記サレタル一ヲ表
 白ス同六章二十五節ヲ見ルキハラハブノ時ニ記サレタル一
 ヲ表シ同廿四章二十六節ヲ見ルキハ其一部ハヨシユア自ラ
 之ヲ記セル一ヲ表ス同二十一章ニ記スルレビノ族ノ諸邑及
 ビ二十二章ノ一ツノ祭壇ノ事等皆其當時ニ在リテ記録サレ
 タル一ヲ表ス